sirona
The Dental Company

SIDEXIS XG

取扱説明書 , Version 2.6

日本語

目次

1 はじめに 10
1.1 認定 10
1.2 SIDEXIS XG の利用に関する一般的な注意事項 10
1.3 SIDEXIS XG の新機能 11
1.4 本取扱説明書の構成 11
1.4.1 危険レベルの表記 11
1.4.2 本書で使用する表記とシンボル 12
2 操作上の一般的なヒント 13
2.1 起動前にシステム時間を確認する 13
2.2 その他の SIDEXIS ソフトウェアコンポーネントのインストール 14
2.3 システムでの作業の終了 14
2.4 バックアップコピーの作成 15
3 操作 16
3.1 全般 16
3.1.1 SIDEXIS XG の起動 16
3.1.2 ログオン（オプション） 16
3.1.3 画面のレイアウト 17
3.1.4 機能の説明とワークフロー 18
3.1.5 検査を使った作業 19
3.1.6 ワークフロー支援 20
3.1.7 マルチワークステーションでの検査のサポート 21
3.1.7.1 マルチワークステーション環境におけるオーダーの発行 22
3.1.7.2 マルチワークステーション環境におけるオーダーの受理 24
3.1.8 プログラムの切り替え 25
3.1.9 SIDEXIS、インターネット接続に関する情報 26
3.1.10 SIDEXIS XG の終了 27
3.2 検査の概念 28
3.2.1 検査の新規生成 28
3.2.2 保存した検査を開く 30
3.2.2.1 最後に保存した検査を開く 31
3.2.3 検査の保存 32
3.2.4 検査の印刷 33

3.2.5 検査のエクスポート 34
3.2.5.1 NGE フォーマット 34
3.2.5.2 SVG フォーマット 34
3.2.5.3 エクスポートした検査を Adobe® SVG Viewer で表示する 35
3.2.6 検査のインポート 36
3.2.7 検査の削除 37
3.2.8 検査を閉じる 37
3.2.9 オブジェクトの形状とサイズの変更 38
3.2.10 オブジェクトプロパティの表示と変更 39
3.2.10.1 オブジェクトプロパティの変更 39
3.2.11 ワークスペースからオブジェクトを削除する 40
3.2.12 Windows クリップボードに選択中の画像をコピーする 40
3.2.13 Windows クリップボードから画像を貼り付ける 41
3.2.14 複数の開いている検査の作業 41
3.2.15 電子メールによる検査の送信 41
3.3 テンプレート 42
3.3.1 既製テンプレート 42
3.3.2 自己生成テンプレート 43
3.3.2.1 テンプレートの保存 43
3.3.3 テンプレートの管理 43
3.4 患者の管理 44
3.4.1 患者の登録にはどのダイアログボックスを使用するのですか？ 44
3.4.2 患者の選択ダイアログボックスは、どのように使うのですか？ 45
3.4.2.1「患者」選択リストボックス 45
3.4.2.2「検査」選択ウィンドウ 46
3.4.2.3 ボタン 47
3.4.3 新しい患者のデータは、どのように作成するのですか？ 48
3.4.4 患者のデータは、どのように修正するのですか？ 49
3.4.5 患者のデータを削除するにはどうすればよいのですか？ 50
3.4.6 患者をチェックアウトするにはどうすればよいのですか？ 51
3.5 画像の管理 52
3.5.1 オリジナル画像の保存 52
3.5.2 画像表示の保存 52
3.5.3 SIDEXIS データベースから取得した画像を開く 53
3.5.3.1 ダイアログボックスの構造 54
3.5.3.2 単一選択 58
3.5.3.3 複数選択 59
3.5.3.4 患者データの不一致 60
3.5.3.5 移動した画像の操作 60

3.5.4 画像の説明と検査結果 61
3.5.5 検査からオブジェクトを削除する 64
3.5.6 画像を閉じる 65
3.5.7 画像データベースから画像を削除する 66
3.5.8 画像の識別情報 67
3.5.8.1 構造 67
3.5.8.2 例 68
3.5.9 画像表示のエクスポート 70
3.5.10 画像のインポート 72
3.5.11 画像と検査結果の印刷 73
3.5.12 印刷プレビュー 74
3.5.12.1印刷のページ設定 75
3.5.13 画像のスキャン 76
3.5.14 電子メールとしてインターネット経由で画像を送信する 77
3.5.15 画像の送信 78
3.5.16 画像の移動 79
3.6 画像の採得 80
3.6.1 全般 80
3.6.2 安全に関する注意事項 80
3.6.3 口腔内 X 線画像 81
3.6.3.1 単一口腔内 X 線撮影 81
3.6.3.2 複数撮影 81
3.6.3.3 口腔内撮影用テンプレート 82
3.6.3.4 歯牙の選択 83
3.6.3.5 複数の口腔内 X 線撮影装置の操作 84
3.6.3.6 画像の採得 85
3.6.4 パノラマ、セファロおよび TSA 断層撮影 86
3.6.5 3D X 線撮影 88
3.6.6 GALILEOS によるパノラマ X 線画像採得 89
3.6.7 ビデオ撮影 89
3.6.7.1 ライブビデオ画像（SIROCAM） 90
3.6.7.2 ライブビデオ画像の開始（全貌撮影） 90
3.6.7.3 ビデオの開始 / 停止 90
3.6.7.4 撮影（ビデオ静止画像 > 保存） 91
3.6.7.5 撮影をキャンセルしてビデオ画像を閉じる 91
3.6.7.6 オーバービュー表示 92

3.7 分析ツール 94
3.7.1 ワークスペース内でオブジェクトを選択する 94
3.7.2 オリジナル画像の復元 94
3.7.3 測定ツール 95
3.7.3.1 距離計測 95
3.7.3.2 距離計測結果の補正 98
3.7.3.3 角度の計測 99
3.7.3.4 相対的な骨密度の測定 101
3.7.3.5 相対的な骨密度分布の表示 102
3.7.4 表示ツール 104
3.7.4.1 画像の拡大、縮小 104
3.7.4.2 ハンド 105
3.7.4.3 表示域 106
3.7.4.4 タイル表示 107
3.7.4.5 オーバービュー表示 107
3.7.4.6 歯列概要 108
3.7.4.7 カスケード表示 109
3.7.4.8 フルフレームモード 109
3.7.4.9 ズーム 110
3.7.4.10回転 111
3.7.4.11ホットキーを使用して画像間をジャンプする 112
3.7.4.12ルーラーの表示 112
3.7.5 画像フィルタ 113
3.7.5.1 明度とコントラストの調節 114
3.7.5.2 マウスアジャスタを使った明度とコントラストの設定 115
3.7.5.3 画像フィルタの関心領域を決定する 116
3.7.5.4 関心領域の明度とコントラストの調節 117
3.7.5.5 明度とコントラストの設定を適用する 118
3.7.5.6 反転 118
3.7.5.7 色 119
3.7.5.8 コントラストの最適化 120
3.7.5.9 平滑化 121
3.7.5.10シャープネス 122
3.7.5.11シャープネス（ユーザー定義） 123
3.7.5.12ドットノイズの除去 124
3.7.5.13ノイズの低減（平均） 125
3.7.5.14レリーフ表示 126
3.7.5.15直前のフィルタ操作の取り消し 126

3.7.5.16トーチ機能 ... 127
3.7.5.17変換関数 ... 128
3.7.6 描画ツール ... 132
3.7.6.1 矢印 ... 132
3.7.6.2 フリーハンドライン ... 132
3.7.6.3 ライン ... 133
3.7.6.4 テキストフィールド ... 133
3.7.6.5 歯列矯正専用描画ツール ... 134
3.7.6.6 長方形 ... 134
3.7.6.7 楕円形 ... 135

4 特殊機能 ... 136

4.1 説明 ... 136
4.2 特殊機能 – 常に手前に表示 ... 136
4.3 画像ストックの移動 ... 136
4.3.1 追加ハードディスクを使用する場合の手順 ... 138
4.3.2 交換式外部メディアを使用する場合の手順 ... 139
4.3.3 移動した画像を開く ... 141
4.4 定常性テスト ... 142
4.5 3D データ量の削減 ... 143
4.5.1 RAW データを手動で削除する ... 143
4.5.2 RAW データを自動的に削除する ... 143
4.5.3 削除処理 ... 145
4.6 SIDEXIS XG のインターネット接続 ... 145

5 システム設定 ... 146

5.1 撮影の設定 ... 147
5.2 撮影テンプレートの編集 ... 151
5.2.1 コンフィギュレーションワークスペース ... 151
5.2.2 新しい撮影テンプレートの作成 ... 152
5.2.3 既存の撮影テンプレートの編集 ... 153
5.2.4 撮影テンプレートウィンドウでの撮影位置の変更 ... 153
5.2.5 歯牙の登録変更 ... 154
5.2.6 撮影位置順序の定義 ... 154
5.3 標準の検査結果の処理 ... 155
5.4 印刷の設定 ... 156
5.5 電子メールの設定 ... 157

5.6 エクスポート機能の設定 159
5.7 リマインダー機能の設定 160
5.8 定常性テストオプションの設定 161
5.9 移動機能の設定 162
5.10 担当医データの設定 163
5.11 エラーログの表示 164
5.12 サービス 164

6 ボタンとホットキー 165
6.1 「検査」ツールバー 165
6.2 「画像」ツールバー 167
6.3 「編集」ツールバー 169
6.4 「分析」ツールバー 169
6.5 「表示」ツールバー 172
6.6 「ユーティリティ」ツールバー 174
6.7 「ヘルプ」ツールバー 175

7 付録 176
7.1 DICOM Export Wrap&Go 176
7.2 バックアップのコピー 178
7.2.1 データベースのバックアップ 179
7.2.1.1 例 :SQL Server 2005 179
7.2.1.2 その他のデータベースサーバー 179
7.2.2 ファイルベースのバックアップ 180
7.2.3 データベースの復元 180
7.2.3.1 例 :SQL Server 2005 181
7.2.3.2 その他のデータベースサーバー 181
7.3 ユーザーインターフェイスとプラグイン管理のカスタマイズ 182
7.3.1 コマンド 183
7.3.2 ツールバー 184
7.3.2.1 ツールバーの表示 / 非表示 185
7.3.3 プラグインマネージャ 186
7.3.4 オプション 188
7.3.4.1 ユーザーインターフェイスの管理 191

7.3.5 アクセス権 192
7.3.5.1「ユーザー」コンフィギュレーションフィールド 192
7.3.5.2「割り当てられたロール」コンフィギュレーションフィールド 193
7.3.5.3「ユーザー」ウィンドウ 194
7.3.5.4「ロール」ウィンドウ 195
7.3.5.5「ロール属性」ウィンドウ 196
7.3.6 カスタマイズ 197
7.4 エラー処理 198
7.4.1 エラーメッセージ 198
7.4.2 エラーメッセージの一覧 199
7.4.3 レスキュープログラム（SiRescue.exe） 204
7.4.4 サービスユーティリティ 205

索引 205

1 はじめに

説明

本マニュアルは、SIDEXIS デジタル X 線撮影およびビデオシステムの使用に関する手順と情報を記載しています。本マニュアルでは、ソフトウェアの使用方法だけでなく、撮影技術の説明およびデジタル X 線とビデオ撮影におけるビジュアル化と分析について説明します。

重要

注記

SIDEXIS XG を使用する際は、すべての国内法を確実に順守してください。

たとえばドイツ国内では X 線に関する条例（RöV）が該当します（「定常性テスト [→ 142]」の項を参照）。

1.1 認定

CE 0123

本製品は、医療機器に関する 1993 年 6 月 14 日付け審議会指令 93/42/EEC の規定に基づく CE マーキングを取得しています。

1.2 SIDEXIS XG の利用に関する一般的な注意事項

用途

SIDEXIS XG は、パーソナルコンピュータ用のソフトウェアパッケージです。デジタル X 線およびビデオ撮影の実行、管理、アーカイブ、および分析を行うための作業環境を提供し、LAN/WAN および電子メールを通じて画像の送信を行うことができます。

⚠ 注意

SIDEXIS XG はインプラント計画には使用できませんのでご注意ください。

モニターに表示するワークスペースには、分かりやすい MS Windows のグラフィカルインターフェイスが使用されています。このダイアログボックスは、人間工学の研究結果に基づいて設計されています。

人間工学に基づく SIDEXIS XG の特徴

- 情報
  SIDEXIS XG は、ユーザー向けに現在のアプリケーションのステータスを常に表示します。
- 警告
  ユーザーが重要な決定を行う際に、その影響を通知します。特にデータが損失してしまう場合などに通知されます。
- エラーの許容性
  ユーザーが誤って入力したデータは、簡単に修正または取り消すことができます。
- 適切性
  SIDEXIS は、歯科分野におけるデジタル X 線撮影および口腔内カメラ撮影の管理、表示、分析に特化して設計されています。
- 操作
  プログラムは、すべてのコマンドとアクションをキーボードとマウスの両方で開始できるように設計されています。したがって、ユーザーは自分の好みや実務要件に対応した個々の操作方法を編み出すことができます。

これらの機能により、経験の浅いユーザーでも X 線撮影およびビデオ技術の分野における革新的な操作方法を簡単に利用できます。

1.3 SIDEXIS XG の新機能

SIDEXIS XG の CD に収録されているファイル "readme.txt" を参照してください。

1.4 本取扱説明書の構成

1.4.1 危険レベルの表記

人身事故、装置の損傷や故障を防止するために、本書に次のように記載された警告と安全の指示を遵守してください。

⚠ 危険

重度のけがを負ったり、死亡事故を招く可能性がある差し迫った危険を意味します。

⚠ 警告

重度のけがを負ったり、死亡事故を招く可能性があることを意味します。

⚠ 注意

軽度のけがを負う可能性があることを意味します。

注記

製品またはその環境内の装置などが損傷する可能性があることを意味します。

重要

使用上の注意やその他の重要な情報です。

ヒント：作業に役立つ情報です。

1.4.2 本書で使用する表記とシンボル

本書で使用する表記とシンボルの意味を以下に示します。

✓ 前提条件 1. 最初に実行するステップ 2. 次に実行するステップ または ➢ その他の方法 ↳ 結果	ユーザーの操作、作業。
「本書で使用する表記とシンボル [→ 12]」を参照してください。	参照する項目と関連するページ番号を示します。
● リスト	リスト項目を示します。
「コマンド / メニュー項目」	コマンド、メニュー項目または引用を示します。

2 操作上の一般的なヒント

2.1 起動前にシステム時間を確認する

システム時間の確認が必要な理由

> **⚠ 注意**
>
> システムクロックが正しくセットされていない場合、新しい画像の作成時間も正しく保存されません。その結果、画像の記録が不正確になり、これらの画像を取得することが困難になります。

SIDEXIS は、各画像を作成した時間を保存します。そのため、PC に組み込まれているシステムクロックの日付および時間の設定を時々確認し、必要に応じて修正する必要があります。

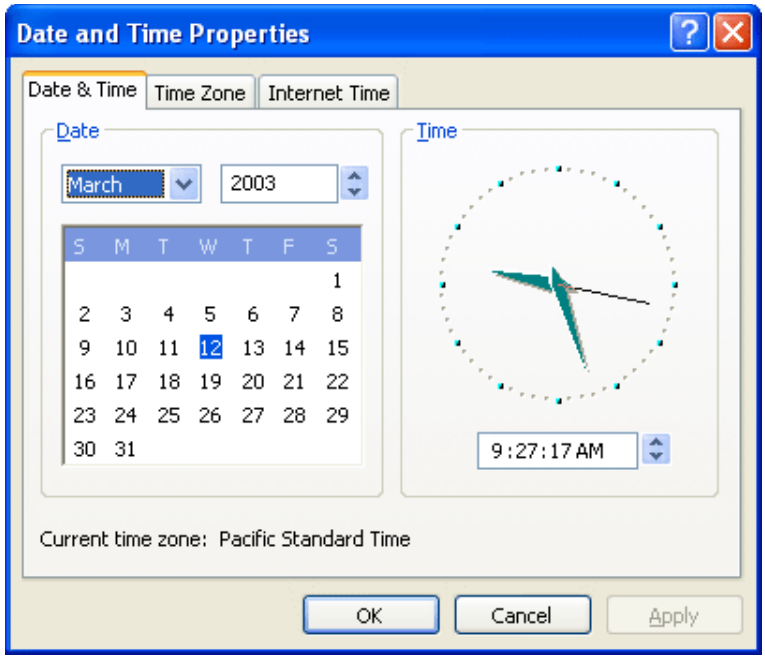
システム時間の表示場所

Windows デスクトップでは、システム時間は画面右下のシステムトレイに表示されます。時間にマウスカーソルを合わせると、日付が表示されます。

システム時間の変更方法

現在の時間設定は、表示時間をダブルクリックすると開くダイアログボックスで変更できます。日付は、「日付と時刻」タブの左側で設定します。

- 月と年の設定は、ドロップダウンリストを使用して選択します。このドロップダウンリストは、横にある矢印をクリックすると開きます。
- 日付は、カレンダーシートの該当する日をクリックして選択できます。
- 時間の設定は、修正する値をクリックし、次に対応する矢印キーを使用して変更します。
  または、キーボードを使用して必要な値を直接入力することもできます。
- 最後に "OK" をクリックしてダイアログボックスを閉じます。



2.2 その他の SIDEXIS ソフトウェアコンポーネントのインストール

説明

追加または拡張ソフトウェアコンポーネントを PC にインストールすることが必要な場合があります。

注記

X 線コントロールブックまたは SIMOCON などを、**CD-ROM** から後でインストールします。

例

たとえば、新しい X 線センサーやサービスディスクをインストールする場合などがこれに相当します。このような場合、配達物に含まれる**ディスク**をフロッピーディスクドライブに挿入する必要があります。ディスクを挿入したら、タスクバーの「スタート」ボタンをクリックしてソフトウェアのインストールを開始します。

2.3 システムでの作業の終了

説明

⚠ 注意

データの損失を回避するため、オペレーティングシステムは必ず適切にシャットダウンしてください。

例 - Windows XP

1. " スタート " ボタンを使ってスタートメニューを開きます。
2. " シャットダウン ..." 機能を選択します。

3. 表示されたダイアログボックスで " シャットダウン " オプションを選択します。

↳ 未保存のデータは自動的に保存されます。

↳ コンピュータの種類によっては、PC の電源を切るか問い合わせるメッセージ（つまり、PC の電源を切ることができる）が表示されるか、自動的にコンピュータがシャットダウンします。

2.4 バックアップコピーの作成

バックアップコピーを作成する理由

システム障害などによってデータが損失する可能性を回避するため、画像や患者のデータは時々 PC のハードディスクからリムーバブル記憶メディアにバックアップする必要があります。この操作により、元のデータが失われた場合でもバックアップコピーを取り出すことができます。

バックアップとは

前述のようなコピーを一般的にバックアップコピーと呼びます。

バックアップを作成する方法については、「バックアップコピー [→ 178]」の項を参照してください。

3 操作

3.1 全般

3.1.1 SIDEXIS XG の起動

機能のアクティブ化

SIDEXIS

➢ デスクトップ上のプログラムアイコンをダブルクリックします。

または

SIDEXIS

➢ 「スタート」ボタンからプログラムアイコンをクリックしてアクティブにします。このアイコンは通常画面の左下隅にあります。オペレーティングシステムや設定によって、表示が異なる場合があります。

起動後

プログラム起動後、スプラッシュ画面が表示されます。この画面は、数秒後に自動的に非表示になります。

3.1.2 ログオン（オプション）

説明

アクセス権が制限されている場合、ようこそ画面が表示された後で " ログイン " ダイアログボックスが表示されます。ユーザーはここでユーザー名とパスワードを入力する必要があります。

設定

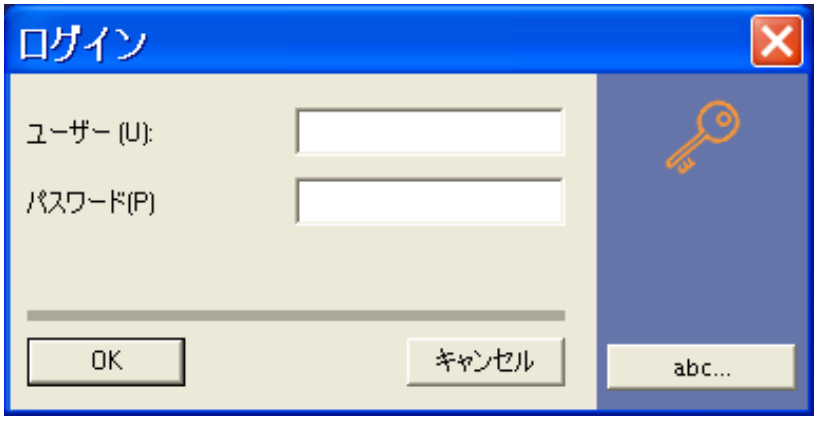
設定の詳細は、「アクセス権 [➔ 192]」の項を参照してください。

パスワードの入力

1. " ユーザー " フィールドにユーザー名を入力します。
2. " パスワード " フィールドにパスワードを入力します。
3. "OK" ボタンを押して入力を確定します。

注記

新しいユーザーを作成してパスワード要求機能をアクティブにした時、その時点ではまだそのユーザーはパスワードを持っていません。次回、新規ユーザーがログオンし、ユーザー名を入力して ″OK″ で確定すると、新しいパスワードを割り当てるためのダイアログボックスが表示されます。



ユーザーの切替え

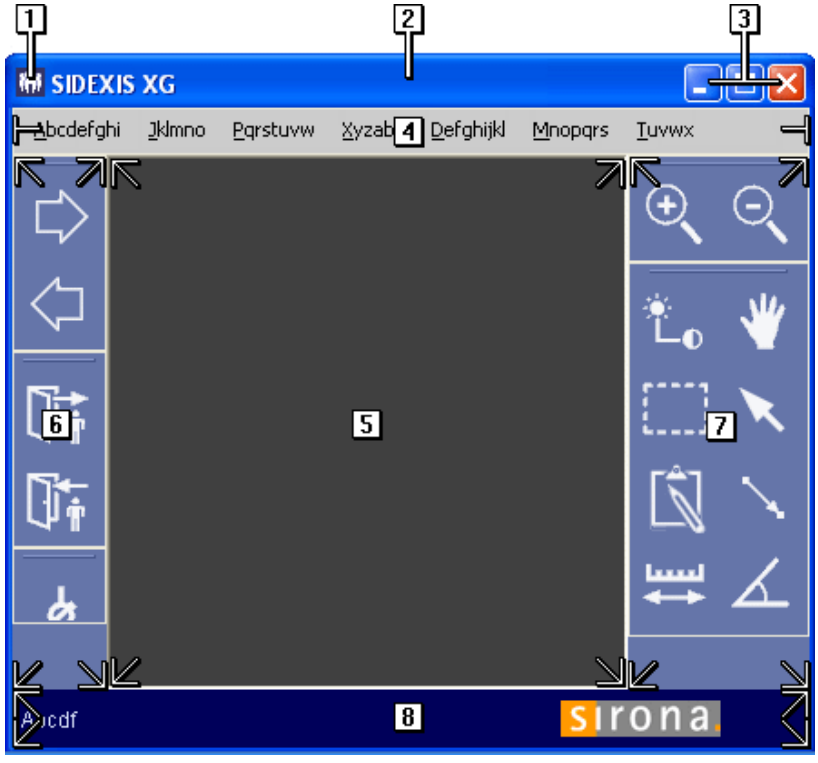
SIDEXIS XG の稼働中、[Ctrl] ＋ [Shift] ＋ [U] キーの組合せによりユーザーを切り替えることができます。

" ログイン " ウィンドウが表示されます。

➢ すべての画像と検査が一斉に閉じ、登録済み患者の登録が取り消されます。

3.1.3 画面のレイアウト

SIDEXIS XG が起動すると、プログラムウィンドウが開き、プログラム固有のコンポーネントが表示されます。



1	プログラムウィンドウのシステムメニュー（オペレーティングシステムのドキュメントを参照してください。）
2	選択した患者データのタイトルバー（「オプション [➔ 188]」の項を参照してください。）
3	ウィンドウの大きさを調整するボタン（オペレーティングシステムのドキュメントを参照してください。）
4	メニューバー
5	ワークスペース
6	管理ツールバー領域
7	画像処理ツールバー領域
8	ステータスバー

ワークスペース

すべての検査における作業および診断処理が検査ワークスペースに表示されます。

このワークスペースは「" 検査 "」と呼ばれ、SIDEXIS XG で表示、保存および管理されます。

管理ツールバー領域

プログラムウィンドウの左側には、管理ツールを備えたさまざまなツールバーが表示されます。

画像処理ツールバー領域

プログラムウィンドウの右側には、画像処理ツールをを備えた様々なツールバーが表示されます。

ツールバー

ツールバーは、グラフィックシンボル（アイコン）を持つボタンで構成されます。

これらのアイコンは、X 線システムのマルチタイマーコントロールのキーと対応しています。システム機能は、これらのボタンをクリックして起動できます。

論理的に関連付けられた機能は、常に 1 つのツールバーでグループ化されています。

ステータスバー

ステータスバーには、現在アクティブな機能に関する情報が表示されます。

たとえば、角度計測中は角度が表示されます。

3.1.4 機能の説明とワークフロー

説明

「SIDEXIS XG」の機能とワークフローは、本マニュアルの各章で説明されています。

細目

機能の説明は、以下の項に記載されています。

- 患者の管理
- 画像の管理
- 測定ツール
  - 測定ツール
  - 表示ツール
  - 画像フィルタ
- 特殊機能
  - システム設定

ワークフロー

ここでは、以下のワークフローについて簡単に説明します。

- 新しい画像の撮影
- 保存した画像を開く
- 保存した検査を開く

新しい画像の撮影

1. 対象となる患者を登録します。
2. 使用する撮影のタイプを選択します。
3. 撮影を実行します。
4. 画像を読み込みます。

保存した画像を開く

1. 対象となる患者を登録します。
2. " 検査 " ウィンドウで、" 保存テンプレート " オプションを選択します。

画像を開く方法は 2 つあります。

- 新規
  患者に割り当てられたすべての画像は、画像選択ダイアログボックスを使用して開くことができます。

保存した検査を開く

1. 対象となる患者を登録します。
2. " 検査 " ウィンドウで、" 保存テンプレート " オプションを選択します。

保存されているすべての検査が表示されます。

➢ 希望する検査を選択します。

3.1.5 検査を使った作業

説明

- 従来のフィルムによる X 線撮影システムのユーザーの多くは、X 線画像上の特定のエリアを強調したり、メモを取ったりする際に粘着ラベルやフェルトペンを使用しています。
- 画像は X 線画像の表示ボックス上に手動で配置されます。その後、他の画像との比較、測定、写真との重ね合わせ（歯列矯正）が行われたり、封筒に入れて専門家に送られたりします。
- 従来のフィルム撮影における作業手順は、SIDEXIS XG ユーザーインターフェイスに置き換えられます。
- 検査の作業および診断処理は、ワークスペースにまとめて表示されます。
  これは「検査」と呼ばれ、SIDEXIS XG の中で表示、保存および管理することができます。
- SIDEXIS XG ソフトウェアは、「検査」との関連において使用されます。
- 各画像処理操作は、" 検査 " として保存することが**可能**です。
  処理とは、画像データベースに保存されている画像を単に開く作業を意味する場合もあります。
  新しく撮影された画像は、画像データベースに自動的に入れられます。
- 診断結果は画像データベース内の画像にリンクされるだけでなく、データベースにも保存されます。
- " 検査 " が保存されると、ワークスペース上に表示されているオブジェクトまたはその参照項目（画像）のみが保存されます。
- このような「検査」は印刷やエクスポートすることも可能です。
- " 検査 " を開始する最初の手順は、患者を登録することです。
- 患者選択ウィンドウの下半分には、" 検査 " を開くための複数の選択オプションがすでに表示されています。
- 患者がすでに登録されている場合は、" 検査 " を選択するための特殊なダイアログボックスが表示されます。

機能

「検査の概念 [➟ 28]」の項も参照してください。

3.1.6 ワークフロー支援

説明

SIDEXIS XG では、事前に定義されたワークフローが検査テンプレートとして提供されています。

これらのワークフローは、論理手順によってグループ化されています。

SIDEXIS XG には、これらのワークフロー内に、この目的に応じたナビゲーション機能が用意されています。

1 つ先の手順

有効化

➢ ボタンをクリックします。

または

➢ ホットキー :[Enter] キーを押します。

または

➢ メニューバーで、「" 検査 "」/「" ステップ "」を選択して、メニュー項目の「" 次へ "」を選択します。

例

SIDEXIS XG が起動している場合、[Enter] キーを押すと " 患者登録 " 機能を実行することができます。患者を選択してから再び [Enter] キーを押すと、「" 画像を選択 "」機能が起動します。

1 つ前の手順

有効化

➢ ボタンをクリックします。

または

➢ ホットキー :「[Esc]」キーを押します。

または

➢ メニューバーで、「" 検査 "」/「" ステップ "」を選択して、メニュー項目の「" 戻る "」を選択します。

例

「[Esc]」キーを繰り返し押すと、利用可能な画像が次々に閉じられ、登録した患者が最後にチェックアウトされます。もう一度「Esc」キーを押すと、SIDEXIS XG プログラムは終了します。

中断されたワークフローの再開

有効化

➢ ボタンをクリックします。

または

➢ メニューバーで、「" 検査 "」/「" ステップ "」を選択して、メニュー項目の「" 継続 "」を選択します。

手順の繰り返し

有効化

➢ ボタンをクリックします。

または

➢ メニューバーで、「" 検査 "」/「" ステップ "」を選択して、メニュー項目の「" 繰り返し "」を選択します。

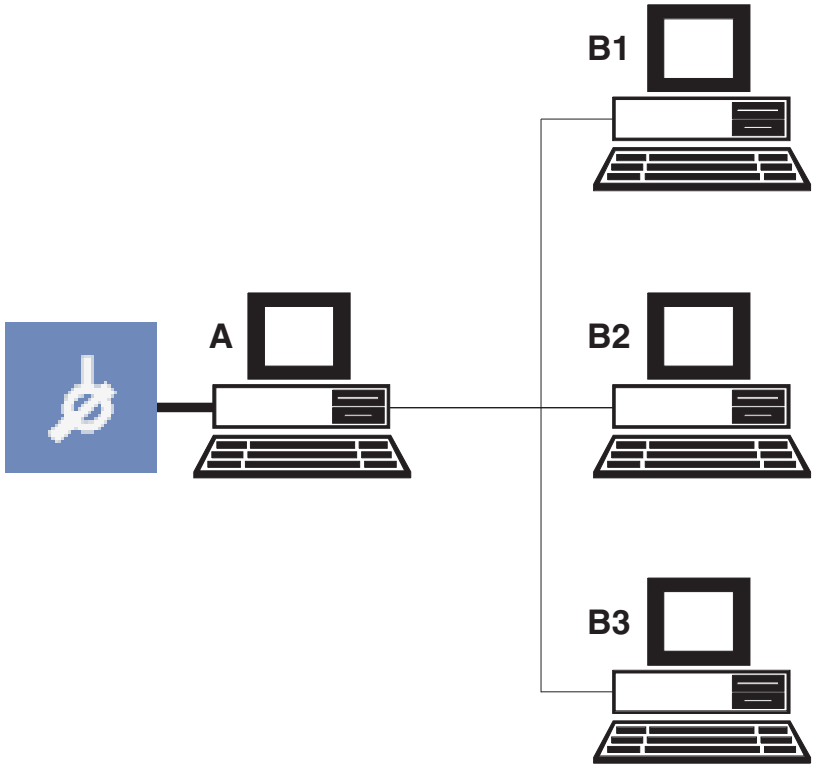
3.1.7 マルチワークステーションでの検査のサポート

説明

以下のサービスは、特に複数のワークステーションがインストールされている状態での使用を目的としています。SIDEXIS システムはマルチワークステーション環境で操作できますが、スタンドアロンインストールでも制限なしで使用できます。

マルチワークステーションインストールは、複数のユニットをケーブルで接続したものです。複数のワークステーションをこのように組み合わせたものは、ネットまたはと呼ばれます。接続されたユニットはすべて同じデータベース（患者および画像データ）にアクセスできます。

例



A	X 線撮影室
B	治療室 1
C	治療室 2
D	治療室 3

SIDEXIS のマルチワークステーション環境の例としては、複数の治療室それぞれに SIDEXIS ワークステーションを設置し、中央のレントゲン室に X 線撮影用の PC を装備したネットワークがあります。

各ワークステーションで X 線撮影オーダーを発行でき、これらのオーダーが X 線撮影室の SIDEXIS ステーションで受理され実行されます。X 線画像は、各 X 線 PC で使用することができるほか、各ワークステーションでもその後の診断で使用できます。治療室の SIDEXIS ワークステーションでは X 線撮影画像の採得をサポートしないため、これらのワークステーションは表示ステーションとも呼ばれます。

3.1.7.1 マルチワークステーション環境におけるオーダーの発行

説明

SIDEXIS マルチワークステーションのインストールでは、各ワークステーションが X 線撮影オーダーを発行でき、これらのオーダーは必要な機器（X 線撮影装置または SIROCAM）が接続されたステーションによって受理および実行されます。

注記

別のステーションで新しいオーダーを処理できるようにするには、オーダーを発行したステーションでそれぞれの患者をチェックアウトする必要があります。

適用範囲

この機能は、X 線およびビデオ画像に使用できます。

対象の患者を登録する必要があります。

単一の患者に対して複数のオーダーを発行する場合、この機能を繰り返し使用することですべてのオーダーを発行できます。

オーダーが受理され、X 線室で X 線撮影が行われると、すべての SIDEXIS ワークステーションで使用可能になります。

機能のアクティブ化

➢ アイコンをアクティブにします。

または

➢ メニューバー " 検査 "/" ステップ " で、メニュー項目 "" を選択します。

オーダーの仕様

機能をアクティブにした後、オーダーに必要な情報をダイアログボックスで入力することができます。

患者の性別の指定

患者の性別は、" 性別 :" ダイアログボックスで指定します。

必要なオプションボタンをクリックします。

- オプションボタン " 男性 " は男性を表します。
- オプションボタン " 女性 " は女性を表します。

" 妊娠中 " チェックボックスで妊娠の可能性（X 線のみに関連）を入力します。

画像取得の理由と追記

画像採得の理由または注記、あるいはその両方を " 理由 / 注記 " テキストボックスで指定します。

注記

撮影理由または追記を入力する場合、テキストボックスを右クリックするか、[Alt] ＋ [T] キーの組み合わせを押すと表示されるコンテキストメニューから作成済みのフレーズを選択できます。この操作は画像説明および検査結果の手順に類似しています。この手順を繰り返すことで、複数のテキストを組み合わせることができます。

[Esc] キーを押すと、次の動作を行わずにコンテキストメニューが閉じます。テキストを個別に設定する方法については、「標準の検査の処理 [➔ 155]」の項を参照してください。

画像タイプの指定

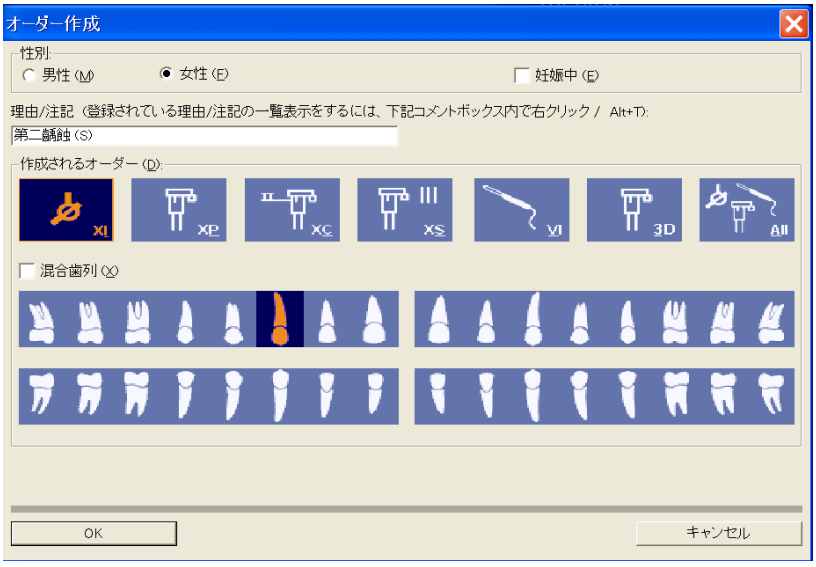
患者の性別は、" 作成されるオーダー " ダイアログボックスで指定します。

次の画像タイプを使用できます。

- 口腔内 X 線画像
- パノラマ X 線画像
- セファロ X 線画像
- トランスバーサルスライス
- ビデオ画像
- 3D データ

使用する画像タイプは、ダイアログボックスの下半分にある該当のボタンをクリックして指定できます。

画面の例



3.1.7.2 マルチワークステーション環境におけるオーダーの受理

説明

プログラムの実行中にオーダーの受理が発生していなければ、自動的に " 患者登録 " ダイアログボックスにジャンプします。オーダーが保留になっている患者は、患者登録ダイアログボックスですでに選択されていることもあります。

適用範囲

この機能は、X 線およびビデオ画像に使用できます。

注記

必要な機器を備えた SIDEXIS ステーションでも、対象となる患者が登録されていない場合は、その特定の患者に対する既存の X 線およびビデオオーダーを受理、実行できません。

機能のアクティブ化

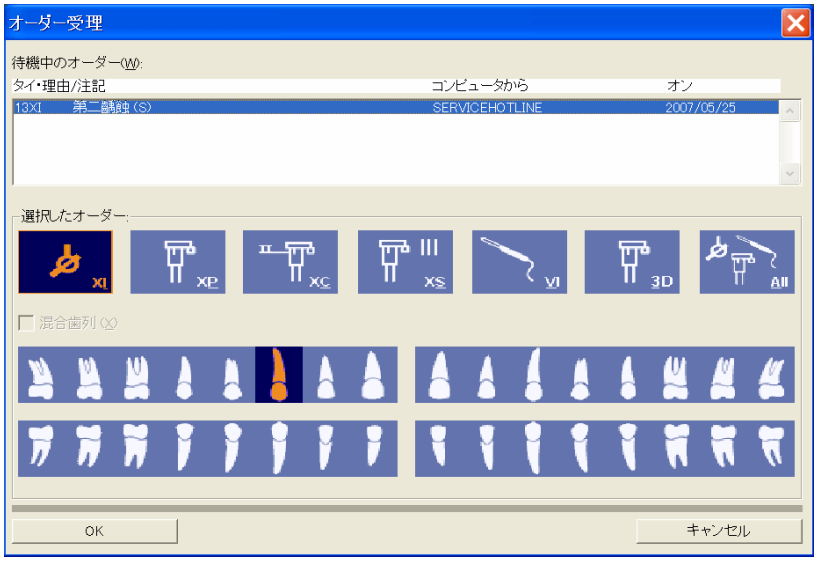
➢ ボタンをクリックします。

または

➢ メニューバー " 検査 "/" ステップ " で、メニュー項目 " オーダー受理 " を選択します。

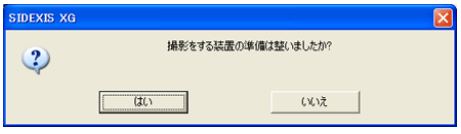
操作

次のダイアログボックスに、オーダーが保留になっている登録済み患者の一覧が表示されます。



画像タイプに加え、理由または注記、作成日時、オーダーを作成したワークステーションの名前も表示されます。これにより、照会が簡単になります。画像タイプおよび歯牙を選択するボタンは、ここでは利用できません。これらのボタンは、必要な画像タイプを示すのみです。

ダイアログボックスを確定すると、マークが付けられたオーダーはオーダー一覧から削除されます。口腔内 X 線撮影の場合は自動的に撮影準備の表示に切り替わり、撮影が可能になります。



ビデオ撮影は、通常どおりカメラをホルダーから外すことで開始されます。システムでパノラマおよびセファロ X 線撮影の準備をするには、通常どおりの手順を実行します。

⚠ 注意

ダイアログボックスの内容確定後に撮影を行わない場合も、オーダーは一覧から削除されます。

処理されないオーダーは、所定の期間後に自動的に廃止されたとみなされて一覧から削除されます。

オーダー作成時に入力されたデータは、この動作の実行時にできる限り引き継がれ、新しい撮影の画像説明の基礎に使用されます。

3.1.8 プログラムの切り替え

説明

必要に応じ、システムをインストール、設定したサービスエンジニアにより自動プログラム切り替えを設定することができます。これは、SIDEXIS から診療管理プログラムや同じ PC にインストールされている他のソフトウェアへの迅速な切替えに使用できます。

機能のアクティブ化

➢ ボタンをクリックします。

または

➢ メニューバー " 検査 " から、メニュー項目 " プログラムの切り替え " を選択します。

機能

- 単一プログラムの変更のみが設定された場合、コマンドを実行すると、すぐに必要なプログラムが画面に表示されます。
- 複数のプログラムが SIDEXIS とインターフェイスしている場合、ダイアログボックスで使用するアプリケーションを選択します。

注記

選択したプログラムの起動時にエラーが発生すると、メッセージが表示されます。この場合、対象のプログラムが正しくインストールされていること、またそのプログラムへのアクセスが正しく設定されていることを確認する必要があります。

3.1.9 SIDEXIS、インターネット接続に関する情報

機能のアクティブ化

➢ ボタンをクリックします。

または

➢ メニューバー " ヘルプ " から、メニュー項目 " 詳細 " を選択します。

機能

ダイアログボックスが開いて、バージョン番号と画像に使用できるディスク領域に関する情報が表示されます。

注記

時々、使用可能なディスク領域を確認し、古い画像を正しい手順で移動させてください。移動に関する詳細情報は、「画像ストックの移動 [➔ 136]」の項を参照してください。

左側の " 技術的要求 " ボタンを使用すると、シロナホットラインに電子メールで連絡できます。

右側のボタンを使用すると、システムにインストールされているインターネットブラウザを起動し、シロナのホームページに接続します。

中央の " 情報 " ボタンでは、サービス用のシステムデータを含むテキストファイルが作成されます。

このテキストファイルは、標準のテキストエディタで表示されます。

このファイルは、保存、印刷または後で処理できます。

" 情報 " ボタン

このテキストファイルには、次の情報が含まれています。

- 使用しているオペレーティングシステム
- コンピュータの名前
- 現在ログオンしているユーザー
- データベース名
- 利用可能なディスク領域情報を持つデータベースパス
- SLIDA インターフェイスに関する情報
- 接続されているデジタル X 線コンポーネントに関する情報

3.1.10 SIDEXIS XG の終了

説明

SIDEXIS を終了すると、開かれているすべての画像ウィンドウと患者ファイルは自動的に閉じます。

機能のアクティブ化

➢ ボタンをクリックします。

または

➢ タイトルバーのボタンをクリックします。

または

➢ ホットキー : [Alt] ＋ [F4] キーを同時に押します。

または

➢ メニューバー " 検査 " から、メニュー項目 " 終了 " を選択します。

注記

プログラムが終了する前に確認のメッセージが表示されます。

3.2 検査の概念

3.2.1 検査の新規生成

説明

この機能は、新しい " 検査 " を生成するために使用します。

登録されている患者がいない場合、患者の選択ダイアログボックスが表示されます。「患者の選択ダイアログボックスの使用方法 [➟ 45]」の項も参照してください。.

機能のアクティブ化

➢ ボタンをクリックします。

または

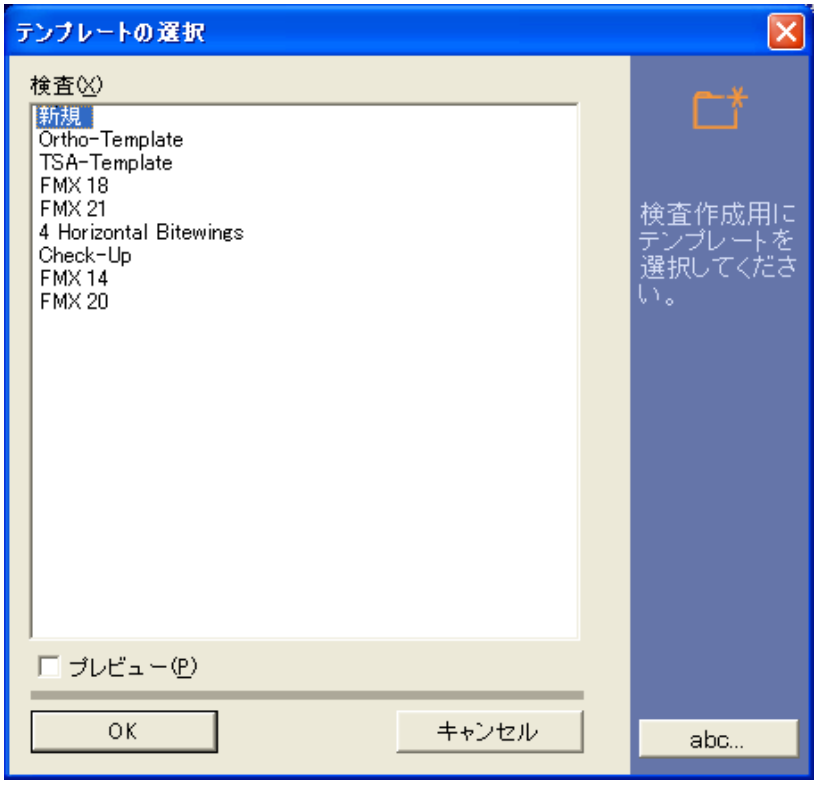
➢ ホットキー : [Ctrl] ＋ [N] キーを同時に押します。

または

➢ " 検査 " メニューバーを使用して、メニュー項目 " 新規 " を選択します。

↳ 選択ダイアログボックスが表示されます。

選択ダイアログボックス



" 検査 " 用に保存されたすべてのテンプレートが、選択ダイアログボックスに表示されます。

注記

この描画機能の使用方法については、「テンプレート [➟ 42]」の項を参照してください。

機能

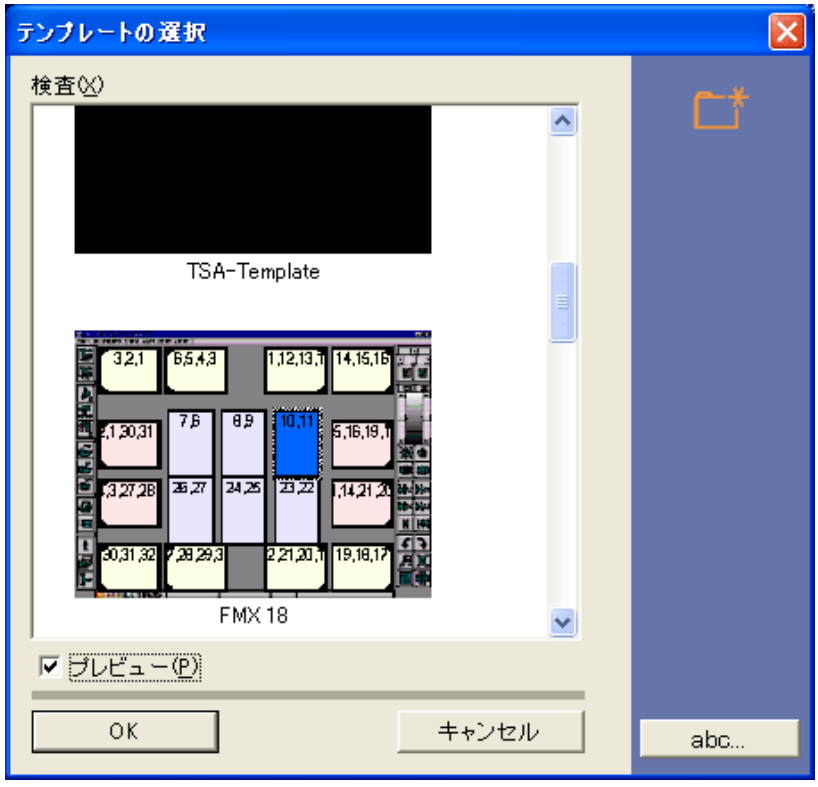
1 行目に " 新規 " テンプレートが表示されます。このテンプレートは、空のワークスペースで構成されています。

注記

保存したテンプレートを使用したくない場合、このテンプレートを日常業務用に選択することをお勧めします。

" プレビュー " チェックボックスをオンにすると、テンプレートをグラフィック表示できます。

" プレビュー " チェックボックス



3.2.2 保存した検査を開く

説明

この機能は、保存した " 検査 " を開くために使用します。

登録されている患者がいない場合、患者の選択ダイアログボックスが表示されます。「患者の選択ダイアログボックスの使用方法 [➟ 45]」の項も参照してください。

機能のアクティブ化

➢ ボタンをクリックします。

または

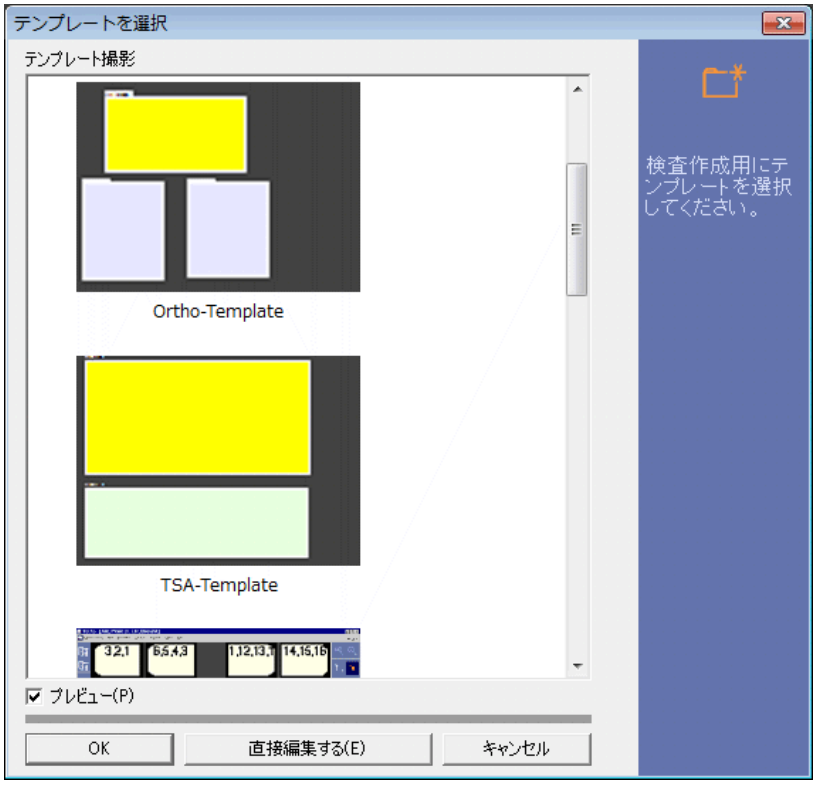
➢ ホットキー : [Ctrl] ＋ [O] キーを同時に押します。

または

➢ " 検査 " メニューバーを使用して、メニュー項目 " 選択 " を選択します。

↳ 選択ダイアログボックスが表示されます。

選択ダイアログボックス



機能

この選択ダイアログボックスには、該当する患者の保存済みの検査がすべて含まれています。

検査は、作成された時系列順に並んでいます。

また、最後に保存された検査が最初の行に表示されます。

" 直接編集する " ボタン

3D X 線画像と顔面スキャン画像を用意すると、" 直接編集する " ボタンによって適切なアプリケーション（GALAXIS、GALILEOS Implant または FACESCAN Viewer）が起動します。

3.2.2.1 最後に保存した検査を開く

説明

この機能を使用すると、最後に保存した検査のリストから検査を選択できます。

検査が別の患者のものである場合、患者が自動的に切り替わります。

機能のアクティブ化

1. " 検査 " メニューバーを使用して、メニュー項目 " 検査 " を選択します。
   ↳ 最後に保存した検査のリストが表示されます。
2. 希望する検査をクリックします。

↳ 選択した検査が開きます。

3.2.3 検査の保存

説明

検査ウィンドウ上のすべてのオブジェクトを " 検査 " として保存できます。

注記

元のデータを上書きせずに、検査データベースから読み込んでおいた現在の ″ 検査 ″ を保存するには、″ 名前をつけて保存 ″ 機能を使用します。

機能のアクティブ化

➢ ボタンをクリックします。

または

➢ ホットキー : [Shift] ＋ [F12] キーを同時に押します。

または

➢ メニューバー " 検査 " から、メニュー項目 " セーブ " を選択します。

⇳ 保存（Save）ダイアログボックスが表示されます。

検査を新しい名前で保存

元のデータを上書きせずに、検査データベースから読み込んでおいた現在の " 検査 " を保存するには、" 名前をつけて保存 " 機能を使用します。

機能のアクティブ化

➢ ボタンをクリックします。

または

➢ ホットキー : [F12] キーを押します。

または

➢ メニューバー " 検査 " から、メニュー項目 " 名前をつけて保存 " を選択します。

⇳ 保存（Save）ダイアログボックスが表示されます。

保存（Save）ダイアログボックス

SIDEXIS XG により、" 検査 " の名前が提案されます。この名前は変更できます。

"OK" ボタンを使用して、" 検査 " を保存します。

3.2.4 検査の印刷

説明

" 検査 " の印刷時、ワークスペース内のすべてのオブジェクトは 1 ページに印刷されます。

検査を印刷するには 2 つの方法があります。

- 次に説明する機能を使用して印刷してください。
- 印刷プレビューを使用した印刷（「印刷プレビュー [➔ 74]」の項を参照）

注記

印刷する前にプリンタとページビューを選択します（「プリンタの設定」を参照）。

機能のアクティブ化

➢ ボタンをクリックします。

または

➢ メニューバー " 検査 "/" 印刷 " で、メニュー項目 " 印刷 " を選択します。

↳ オペレーティングシステムの印刷ダイアログボックスが表示されます。

機能

オペレーティングシステムの印刷ダイアログボックスは、" 検査 " の印刷に使用します。

プリンタの設定

➢ ボタンをクリックします。

または

➢ メニューバー " 検査 " から、メニュー項目 " 印刷設定 " を選択します。

↳ オペレーティングシステムの印刷ダイアログボックスが表示されます。

注記

検査を印刷するときは、用紙を横向きに設定することをお勧めします。

これを行うと用紙サイズを最大限有効に利用できます。

3.2.5 検査のエクスポート

説明

注記

この機能では、2D 情報のみがエクスポートされることに注意してください。「SiDICOM Removable Media」プラグインを使用すると、GALILEOS データセットをインポートおよびエクスポートできます。

" 検査をエクスポート " 機能を使用すると、現在の検査をエクスポートできます。

" 検査 " のエクスポートは、検査ワークスペース内のオブジェクトがすべてエクスポートされることを意味します。

➢ 患者の姓、名、および生年月日もエクスポートされます。

エクスポートは、次の 2 種類のフォーマットで実行できます。

- **NGE フォーマット**
  NGE フォーマット [➔ 34] は、SIDEXIS XG のバージョン 1.5 以降との間でエクスポートおよびインポートできます。
- **SVG フォーマット**
  SVG フォーマット [➔ 34] は、SVG ビューアで表示できます。
  拡張機能 : 電子メールで送信するときは、SVG を ZIP ファイルとして圧縮します。詳細は、「電子メールによる検査の送信」[➔ 41] の項を参照してください。

機能のアクティブ化

➢ ボタンをクリックします。

または

➢ メニューバー " 検査 "/" エクスポート " で、メニュー項目 " エクスポート " を選択します。

3.2.5.1 NGE フォーマット

説明

NGE フォーマットは、バージョン 1.5 以降で使用されているオリジナルの SIDEXIS XG フォーマットです。

NGE フォーマットでのエクスポート

NGE フォーマットを使用した " 検査 " のエクスポートでは、検査ワークスペース内のオブジェクトがすべてファイルに保存されます。

3.2.5.2 SVG フォーマット

説明

SVG（Scalable Vector Graphics）は、インターネット上でベクトルグラフィックスを使用するためのファイルフォーマットです。SVG は、XML（拡張マークアップ言語）でグラフィックスを記述するために使用される言語です。

SVG フォーマットでのエクスポート

" 検査 " を SVG フォーマットでエクスポートすると、指定したフォルダにワークスペース内のオブジェクトがすべてエクスポートされます。

SVG ファイルの他に、" 検査 " からの画像も JPG ファイルとしてディレクトリに保存されます。

注記

〝検査〟は常に空のフォルダにエクスポートする必要があります。
理由 : 既存の JPG ファイルが確認メッセージなしに上書きされるからです。

注記

表示の際は、Adobe SVG Viewer の最新バージョンを使用してください。

このビューアは、インストールされているインターネットブラウザのプラグインとして組み込まれます。

SVG ファイルを開くと、デフォルトのインターネットブラウザが起動します。

「エクスポートした「検査」を Adobe® SVG Viewer で表示する [➔ 35]」の項も参照してください。

3.2.5.3 エクスポートした検査を Adobe® SVG Viewer で表示する

操作

Adobe® SVG Viewer の使用方法についての詳細は、" ヘルプ " 項目の下にある関連コンテキストメニューで確認できます。

使用方法のヒント

このビューアは、コンテキストメニューでコントロールします（右クリックでアクティブにします）。

注記

コンテキストメニューで「高画質」を設定すると、幾何学形状の表示が改善されます（角のギザギザを滑らかにするアンチエイリアス処理が施されます）。ただし、テキストと画像は多少ぼやけたようになることがあります。このような場合は、設定を無効にしてください。

注記

ブラウザの印刷機能を使用すると歪みが生じますので、使用しないでください。

- ウィンドウのタイトルには選択可能な患者データが含まれています（付録の「オプション [➔ 188]」を参照）。
- 画像をクリックすると、インターネットブラウザのウィンドウ内に直接表示されます。
  " 検査 " ビューに戻るには、インターネットブラウザの「戻る」ボタンをクリックします。
- マウスポインタを該当する画像に合わせると、その画像のファイル名がステータスバーに表示されます。

3.2.6 検査のインポート

説明

バージョン 1.5 以降の SIDEXIS XG では、" 検査をインポート " 機能を使用して検査をインポートできます。

注記

インポート機能を使用できるのは、インポートする検査がバージョン 1.5 以降の SIDEXIS XG からエクスポートされた場合のみです。

インポートできるファイルのフォーマットは、以下の 2 つです。

- **NGE フォーマット**
  詳細は、「NGE フォーマット [➔ 34]」の項を参照してください。
- **SVG フォーマット**
  詳細は、「SVG フォーマット [➔ 34]」の項を参照してください。

機能のアクティブ化

➢ ボタンをクリックします。

または

➢ メニューバー " 検査 "/" インポート " で、メニュー項目 " インポート " を選択します。

または

➢ ドラッグ & ドロップを使用します。

または

➢ **NGE フォーマットのみ :** Explorer 内でダブルクリックします。

インポート

- 登録済みの患者の場合、SIDEXIS XG は登録済み患者の患者データをインポートした検査内の患者データと比較します。患者データが異なる場合は、インポート対象の検査を登録済みの患者にインポートするべきかを確認するメッセージが表示されます。
- 登録されている患者がいない場合、患者データ（姓、名、生年月日）の一致する患者が自動的に開きます。

  患者がデータベースに登録されていない場合、検査を保存する際に新しい患者が自動的に作成されます。この場合、追加の新しい患者データの入力が必要なこともあります。「患者データの修正方法 [➔ 49]」の項も参照してください。

注記

機能を実行後、SIDEXIS XG に検査が表示されます。「検査の保存」機能を実行した場合に限り、検査はすべての画像と一緒にデータベース内に保存されます（「検査の保存 [➔ 32]」の項を参照）。

3.2.7 検査の削除

説明

SIDEXIS XG では、検査データベースに保存していた検査を削除することができます。

注記

削除した検査に含まれていた画像は SIDEXIS データベースからは削除**されません**。

適用範囲

この機能は、現在開かれている検査が対象です。

機能のアクティブ化

➢ ボタンをクリックします。

または

➢ メニューバー " 検査 " から、メニュー項目 " 削除 " を選択します。

3.2.8 検査を閉じる

説明

検査閉じる機能を使用して現在の検査を閉じます。

機能のアクティブ化

➢ ボタンをクリックします。

または

➢ " 検査 " メニューバーを使用して、メニュー項目 " 閉じる " を選択します。

↳ " 検査 " が閉じます。[1]

可能な設定

次のオプションを設定できます。

- ワークスペースにオブジェクトがある場合、現在のビューを " 検査 " として保存するかどうかを尋ねるメッセージが表示されます（「検査の保存 [➔ 32]」の項を参照）。
  このオプションでは、2 つ以上の画像がワークスペース内にある場合のみ、このメッセージを表示するように設定できます。

設定

➢ メニューバー " エクストラ "/" システムの設定 " で、メニュー項目 " 注意と警告の表示 " を選択します。

↳ " 注意と警告の表示 " ウィンドウが表示されます。

「リマインダー機能の設定 [➔ 160]」の項を参照してください。

1. 検査で処理プラグインがアクティブのままになっている場合は、処理をすぐに終了するかどうかを確認するメッセージが表示されます。検査を終了するには、処理を終了する必要があります。

3.2.9 オブジェクトの形状とサイズの変更

説明

使用されているオブジェクトのタイプによっては、オブジェクトの形状やサイズを変更できます。

オブジェクトは、その変更可能性によって以下のように分類できます。

- 閉じた領域のオブジェクト
- 線形オブジェクト
- サイズを変えられないオブジェクト

閉じた領域のオブジェクト

このオブジェクトには以下が含まれます。

- 画像オブジェクト
  - X 線画像
  - ビデオ画像
- ベクトルオブジェクト
  - 長方形（「長方形 [➙ 134]」の項を参照）。
  - 楕円形（「楕円形 [➙ 135]」の項を参照）。

説明

ベクトルオブジェクトは、Windows のウィンドウオブジェクトと同じようにサイズや形を変更できます。

ただし、画像オブジェクトはサイズの縮小のみ可能です。これは、画像のサイズが実際に縮小されるのではなく、不要な部分がトリミングされることを意味します。

「表示域 [➙ 106]」機能は、これらを表示するために設計されています。

画像オブジェクトの場合、ズーム機能を使用して画像全体を拡大または縮小することのみが可能です。

線形オブジェクト

このオブジェクトには以下が含まれます。

- ベクトルオブジェクト
  - 矢印（「矢印 [➙ 132]」の項を参照）。
  - 直線（「ライン [➙ 133]」の項を参照）。
- 測定ツール
  - 距離計測（「距離計測 [➙ 95]」の項を参照）。
  - 角度の計測（「角度の計測 [➙ 99]」の項を参照）。
  - 相対的な骨密度の測定（「相対的な骨密度の測定 [➙ 101]」の項を参照）。

説明

これらのオブジェクトは、線で結合された個別の節点で構成されます。

ほとんどの場合、これらのオブジェクトは画像オブジェクトの内側にあり、画像オブジェクトにズーム機能が使用されると、それに応じて調整されます。

オブジェクトを選択すると、節点を移動することができます。

- まず、マウスポインタを節点の上に置きます。
  小さいナビゲーションクロスマーカーが表示されます。
- 左マウスボタンを押したまま、選択した節点を新しい位置にドラッグできます。

サイズを変えられないオブジェクト

これらのオブジェクトは、その性質上、サイズを変更できません。

このオブジェクトには以下が含まれます。

- ベクトルオブジェクト
  - 歯列矯正用描画ツール「十文字」(「歯列矯正専用描画ツール [➔ 134]」の項を参照)。
  - テキストフィールド(「テキストフィールド [➔ 133]」の項を参照)。
- 検査結果(「画像の説明と検査結果 [➔ 61]」の項を参照)。

3.2.10 オブジェクトプロパティの表示と変更

説明

各オブジェクトのプロパティまたは属性はワークスペースの「" 属性 "」ダイアログボックスで表示、変更することができます。

適用範囲

- 個別に選択したオブジェクト。
- この機能は、ベクトルオブジェクトおよび測定オブジェクトにのみ使用できます。

機能のアクティブ化

➢ ボタンをクリックします。

または

➢ ホットキー :[Alt]+[Enter] キーを同時に押します。

または

➢ ポップアップメニューから「" 属性 "」を選択します。

または

➢ メニューバー「" 分析 "」から、メニュー項目 " プロパティ ..." を選択します。

3.2.10.1 オブジェクトプロパティの変更

説明

変更できるか否かはオブジェクトのタイプによります。**すべてのタイプが変更できるわけではありません。**

変更の可能性

- ストロークの幅
- ストロークの色
- 色の塗りつぶし
- ストロークの幅

機能

1. 変更するオブジェクトを選択します。
2. " 属性 " 機能をアクティブにします。
3. 必要に応じてプロパティを変更します。
4. 「"OK"」で確定します。

デフォルトとして設定を適用する

選択した設定を後で使用する場合は、最初に「" 属性 "」ダイアログボックス内で「"OK"」を選択し、コントロールボックス「" 設定値 "」にチェックを入れ、これらの設定を確定する必要があります。

3.2.11 ワークスペースからオブジェクトを削除する

説明

削除機能を利用して、ワークスペースから選択可能なオブジェクトすべてを削除できます。

注記

この機能は、画像の削除とは異なります。

この機能では、ワークスペースから削除されるだけで、実際の画像は削除されません。

ワークスペースからすべての画像を削除すると、その画像にリンク付けられたすべてのオブジェクトもまた削除されます。

適用範囲

この機能は、ワークスペース内で選択したすべてのオブジェクトに対して使用できます。

機能のアクティブ化

➢ ボタンをクリックします。

または

➢ ホットキー : [Del] キーを押します。

または

➢ ポップアップメニューから削除を選択します。

または

➢ メニューバー " 編集 " から、メニュー項目 " 削除 " を選択します。

3.2.12 Windows クリップボードに選択中の画像をコピーする

説明

SIDEXIS XG では、選択中の画像を Windows クリップボードにコピーできます。

⚠ 注意

コピーした画像を別のソフトウェア（PaintBrush など）で編集すると、診断に適さない画像になります。

適用範囲

この機能は、ワークスペースで現在アクティブな画像に対して使用できます。

機能のアクティブ化

➢ ボタンをクリックします。

または

➢ ホットキー : [Ctrl] ＋ [C] キーを同時に押します。

または

➢ ポップアップメニューから " コピー " を選択します。

または

➢ メニューバー " 編集 " から、メニュー項目 " コピー " を選択します。

3.2.13 Windows クリップボードから画像を貼り付ける

説明

SIDEXIS XG では、Windows のクリップボードから画像をワークスペースにコピーできます。

注記

Windows クリップボード経由でプログラムにインポートされた画像の表示および解像度は、インポートした画像によって異なります。

適用範囲

すべてのピクセル画像。

機能のアクティブ化

➢ ボタンをクリックします。

または

➢ ホットキー : [Ctrl] ＋ [V] キーを同時に押します。

または

➢ メニューバー " 編集 " から、メニュー項目貼り付けを選択します。

3.2.14 複数の開いている検査の作業

説明

複数の検査を同時に開くことができるよう、SIDEXIS XG を設定できます。

これにより、該当する検査を再度開かずに検査を切り替えることができます。

設定

「オプション [➟ 188]」の項を参照してください。

表示

複数の検査を開いている場合、その検査ごとにステータス行の上にタブが表示されます。

各タブには、該当する検査の名前が表示されます。

操作

タブをクリックすることで、検査を切り替えることができます。

3.2.15 電子メールによる検査の送信

説明

検査を Zip ファイルに圧縮して、送信できます。

内容は、SVG フォーマットで生成されます（「検査のエクスポート [➟ 34]」の項を参照してください）。

操作

➢ メニューバー " 検査 "/" エクスポート " で、メニュー項目 " 検査を電子メールで送信 " を選択します。

↳ 添付ファイルの圧縮済み Zip ファイルが付いた状態で、電子メールの標準アプリケーションが開きます。

↳ 標準電子メールアプリケーションで、受信者を入力し送信機能をアクティブ化すると、検査が送信されます。

3.3 テンプレート

3.3.1 既製テンプレート

以下の既製テンプレートが利用できます。

- **FMX xx** 検査（口腔内）

  xx は照射回数
- **4 枚の水平咬翼**（口腔内）
- **チェックアップ**（口腔内）
- **オルソテンプレート**
  このテンプレートは、パノラマビュー ×1、頭部ビュー ×1、手根骨ビュー ×1 で構成される照射の組み合わせに使用します。
  この組み合わせは、ORTHOPHOS XG^{Plus} DS Ceph 専用です。
  これらの画像は、各撮影間の冷却期間が短縮され、既定の順序（P1-C3-C4）で生成されます。
  各画像の詳細は、ORTHOPHOS XG^{Plus} DS Ceph の取扱説明書を参照してください。
  照射の組み合わせ全体を使用した後は、長い冷却時間が必要になります。

画面の例

3.3.2 自己生成テンプレート

概要

自己生成テンプレートには、以下の 2 つのタイプがあります。

- 専用エディタで編集可能な、口腔内 X 線撮影用のテンプレート（「撮影テンプレートの編集 [➔ 151]」の項を参照してください）。
- ワークスペースの画面レイアウトと照射順序を使用するテンプレート。

➢ すべての画像タイプ（口腔内、パノラマ、セファロ、TSA、ビデオ、3D）は、利用可能なテンプレートに保存できます。

3.3.2.1 テンプレートの保存

機能のアクティブ化

➢ ボタンをクリックします。

または

➢ メニューバー " 検査 " から、メニュー項目 " テンプレートの保存 " を選択します。

3.3.3 テンプレートの管理

説明

テンプレートを管理する " テンプレートを管理 " 機能が提供されています。

機能のアクティブ化

➢ ボタンをクリックします。

または

➢ メニューバー " 検査 " から、メニュー項目 " テンプレートを管理 " を選択します。

テンプレートの名前変更

1. " 改名 " ボタンを押します。
   ↳ テキストボックスのあるダイアログが表示されます。
2. このテキストボックスに、テンプレートの名前を入力します。
3. "OK" ボタンを押して入力を確定します。

テンプレートの削除

1. " 削除 " ボタンを押します。
   ↳ 確認ダイアログボックスが表示されます。
2. " はい " ボタンをクリックして、削除操作を確定します。

3.4 患者の管理

説明

デジタル撮影画像が保存されている患者は、SIDEXIS の患者データベースで管理できます。

混乱を避けるために、保存したすべての画像は、常に該当する患者に明確に割り当てられます。

概要

- 患者の登録に使用するダイアログボックス [➙ 44]
- 患者の選択ダイアログボックスの使用方法 [➙ 45]
- 新しい患者データの作成方法 [➙ 48]
- 患者データの修正方法 [➙ 49]
- 患者データの削除方法 [➙ 50]
- 患者のチェックアウト方法 [➙ 51]

はじめに

画像を患者に割り当て、保存した画像を画面に表示するためには、最初に患者の登録を行う必要があります。

データセキュリティ

新しく撮影された X 線画像は、データセキュリティの観点から、自動的にすぐ患者データベースに保存されます。この場合も、撮影前に患者を登録しておく必要があります。

⚠ 注意

SIDEXIS で X 線撮影を行う場合は、必ず事前に患者を登録しておく必要があります。

データセキュリティ / 「ビデオ画像」の例外

ビデオカメラを操作する際、ビデオ画像は必ずしも保存する必要はありません。そのため、最初に患者を登録せずに、SIDEXIS でビデオ撮影を行うことができます。登録されていない患者のビデオ撮影を保存したい場合は、後で患者を登録できます。

注記

ビデオ撮影の前に患者を登録する必要はありません。ビデオ画像を保存したい場合のみ、撮影後に患者を登録できます。

最初に患者を登録せずに X 線撮影を行おうとすると、" 患者登録 " ダイアログボックスが表示されます。

患者管理コマンドは、" 患者 " サブメニューの " 検査 " メニューにあります。

3.4.1 患者の登録にはどのダイアログボックスを使用するのですか？

答え

患者は、" 患者登録 " ダイアログボックスで登録します。

機能のアクティブ化

➢ ボタンをクリックします。
または
➢ ホットキー : [Pos1] キーを押します。
または
➢ メニューバー " 検査 "/" 患者 " で、メニュー項目 " 登録 " を選択します。

3.4.2 患者の選択ダイアログボックスは、どのように使うのですか？

レイアウト

" 患者登録 " ダイアログボックスは、次の 3 つのエリアに分かれています。

- 「患者」選択リストボックス [→ 45]
- 「検査」選択リストボックス [→ 46]
- ボタン [→ 47]

画面の例

3.4.2.1 「患者」選択リストボックス

説明

" 患者 " 選択リストボックスを使用して対象の患者を選択します。

設定

ここに患者リストが表示されます。

各患者のデータが 1 行ごとに表示されます。

患者データは列見出しに対応する列に表示されます。

ソート

患者リストは、列見出しに基づいてソートできます。

- 希望する列見出しをクリックします。
  患者リストを逆順にソートする場合は、希望する列見出しを再度クリックします。

患者の検索

患者を検索するには 2 つの方法があります。

- スクロールバーを使用した検索
- 検索ボックス " 検索基準 " を使用した検索

スクロールバーを使用した検索

- 目的の患者が見つかるまで " 患者 " 選択リストボックス内でスクロールバーを操作します。

検索ボックスを使用した検索

注記

この検索方法で使用できるのは患者データの ″ 名前 ″、″ 歯科医 ″、および ″ カルテ番号 ″ に限られます。

検索は検索ボックスで選択したソート方法に従って実行されます。

このソート方法は " 検索基準 " の後ろの括弧内に表示されます。

ここでは 2 つの検索方法があります。

- " クイックサーチ " を使用しない患者検索

● " クイックサーチ " を使用する患者検索

" クイックサーチ " を使用しない患者検索

1. " クイックサーチ " チェックボックスをオフにします。
2. 希望する検索条件を選択します。
3. 個人データを検索条件に従って検索ボックスに入力します。
4. " 検索 " ボタンをクリックします。

   ⇘ 希望する患者の選択結果が表示されます。

注記

検索ボックスに文字を入力せずに〝検索〟ボタンをクリックすると、そのデータベースに含まれるすべての患者が表示されます。

" クイックサーチ " を使用する患者検索

1. " クイックサーチ " チェックボックスをオンにします。
2. 希望する検索条件を選択します。
3. 個人データを検索条件に従って検索ボックスに入力します。

⇘ 入力の完了後、プログラムは入力されたデータをデータベースで検索し、" 患者 " 選択ウィンドウに検索結果を表示します。

患者の選択

➢ " 患者 " 選択ウィンドウで、必要な患者名をクリックします。

⇘ 選択した項目は画面上で強調表示されます。

⇘ これで患者が選択されました。

3.4.2.2 「検査」選択ウィンドウ

説明

" 検査 " 選択ウィンドウでは、新しい検査を保存したり、既に保存されている検査を呼び出すことができます。

" 検査 " ボックスには、選択内容を示すツリー構造が表示されます。

ナビゲーション

ツリー構造内のナビゲーション

➢ プラスアイコンをクリックすると、ツリー構造が展開されます。

➢ マイナスアイコンをクリックすると、ツリー構造が縮小します。

設定

" 検査 " ウィンドウは、次のような構造になっています（上から下へ）。

● 最初に " 新規 " フィールドが表示されます。
このフィールドをアクティブにすると、新しい検査用の空のワークスペースが選択した患者に対して表示されます。
デフォルトでは、" 新規 " フィールドが事前選択されています。

● 次に、最後に保存した検査の名前が表示されます。
この名前を選択すると、選択した患者に対して最後に保存した検査が表示されます。

- 3 番目に、" テンプレート撮影 " フォルダが表示されます。
  このフォルダには、特殊な検査タイプの既製テンプレートと自己生成テンプレートが含まれています。
  「テンプレート [➙ 42]」の項を参照してください。
- 4 番目に、" 保存テンプレート " フォルダが表示されます。
  これまでに保存したすべての検査が表示されます。
  これらの検査は、表示または診断を目的として、また X 線およびビデオ画像の補足として開くことができます。

選択

1. 検査タイプは、マウスクリックで選択できます。
   ↳ 選択した検査タイプは、画面上で強調表示されます。
2. "OK" ボタンを使用すると、選択された検査タイプがアクティブになります。

3.4.2.3 ボタン

ボタン機能の説明

コマンドボタン	意味
"OK"	このボタンをクリックすると、選択した患者と検査がアクティブになります。
" 直接編集する "	3D X 線画像と顔面スキャン画像を用意すると、" 直接編集する " ボタンによって適切なアプリケーション（GALAXIS、GALILEOS Implant または FACESCAN Viewer）が起動します。
" 新規 "	このボタンをクリックすると、" 新患 " ウィンドウが開きます。このウィンドウは、SIDEXIS データベースに新しい患者を追加する場合に使用します。 「新しい患者データの作成方法 [➙ 48]」の項を参照してください。
" 編集 "	このボタンをクリックすると、「" 患者データ編集 "」ダイアログボックスが開きます。このダイアログボックスは、現在アクティブになっている患者データを修正する場合に使用します。 「患者データの修正方法 [➙ 49]」の項も参照してください。
" 削除 "	このボタンをクリックすると、" 患者削除 " ダイアログボックスが開きます。このダイアログボックスは、SIDEXIS データベースから既存の患者を削除する場合に使用します。 「患者データの削除方法 [➙ 50]」の項も参照してください。
" キャンセル "	このボタンをクリックすると、" 患者登録 " ダイアログボックスが閉じます。 「患者のチェックアウト方法 [➙ 51]」の項を参照してください。

3.4.3 新しい患者のデータは、どのように作成するのですか？

背景

システムが患者を認識していない場合（すなわち、患者登録ダイアログボックスのリストに表示されない場合）、新規に登録する必要があります。新規に登録するには、関連ダイアログボックスのテキストボックスに患者データを入力します。

機能のアクティブ化

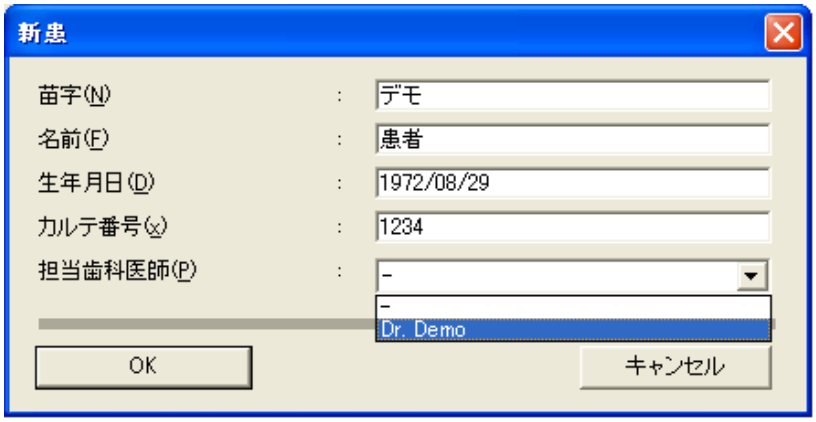
➢ ボタンをクリックします。

または

➢ メニューバー " 検査 "/" 患者 " で、メニュー項目 " 新規 " を選択します。

↳ 新患ウィンドウが表示されます。

画面の例



患者データの入力

- 関連ダイアログボックスの各テキストボックスに、患者データを入力します。

注記

システムは、姓、名、および生年月日が他の患者と同じかどうかを認識し、対応する警告を表示します。一方、カルテ番号は何度も使用できます。未来の生年月日は受理されません。

テキストボックス

- 最初のフィールド " 名前 " に姓を入力します。
- 2 番目のボックスに " 名前 " を入力します。
- " 生年月日 " フィールドに生年月日を入力します。
  生年月日を入力する際、年、月、日の間にスペースを入れる必要はなく、自動的に処理されます。たとえば、1995 年 3 月 3 日の場合、「950303」と入力すると自動的に処理されます。

オプションテキストボックス

- " カルテ番号 " ボックスに、患者のカルテ番号を入力することをお勧めします。
- " 担当医 " ボックスに、担当歯科医の名前または略称を入力してください。

ナビゲーション

- 次のテキストボックスに移動するには、[Enter] または [Tab] キーを押します。

- 前のテキストボックスに戻るには、[Shift] ＋ [Tab] キーを押します。
- 直接ボックスを選択するには、マウスポインタをボックス内に合わせてクリックします。

完了

すべてのテキストボックスへの入力が完了した後、「OK」をクリックして確認すると、データベース内に患者データが作成され、患者はシステムに登録されます。登録済みの患者は、新しい患者で置き換えられます。これで、新しい患者がシステム内で設定されました。

3.4.4 患者のデータは、どのように修正するのですか？

説明

現在登録されている患者のデータは、いつでも修正できます（患者受付管理ソフトウェアなど、リンク機能を使用して登録された患者を除く）。データを修正するには、該当するダイアログボックスのテキストボックスに新しいデータを入力します。ダイアログボックスを確定すると、自動的に新しい患者データがデータベースに保存されます。

注記

患者選択ダイアログボックスから患者データの編集機能が起動されると、一覧で選択されている患者が変更の対象になります。この場合、データが変更された後で、プログラムはもう一度ダイアログボックスをアクティブにします。これにより、メニューや前回登録した患者に戻ることなく、複数の患者のデータを簡単に変更できます。

機能のアクティブ化

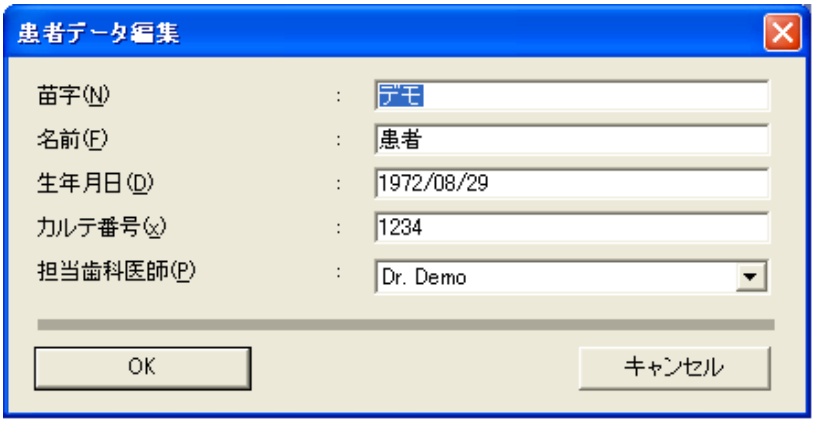
➢ ボタンをクリックします。

または

➢ メニューバー " 検査 "/" 患者 " で、メニュー項目 " データ編集 " を選択します。

⇳ " 患者データ編集 " ウィンドウが表示されます。

画面の例



3.4.5 患者のデータを削除するにはどうすればよいのですか？

説明

この機能は、現在登録されている患者を患者データベースから削除します。この操作の間、まず患者はシステムによってチェックアウトされます。

注記

不注意で削除することがないように、コマンドの再確認を求めるメッセージが表示されます。

注記

患者選択ダイアログボックスから患者データの削除機能が起動されると、一覧で選択されている患者が削除操作の対象になります。

この場合、削除操作の後で、システムはアクティブ化されているダイアログボックスに戻ります。

これにより、メニューや前回登録した患者に戻ることなく、複数の患者のデータを簡単にデータベースから削除できます。

機能のアクティブ化

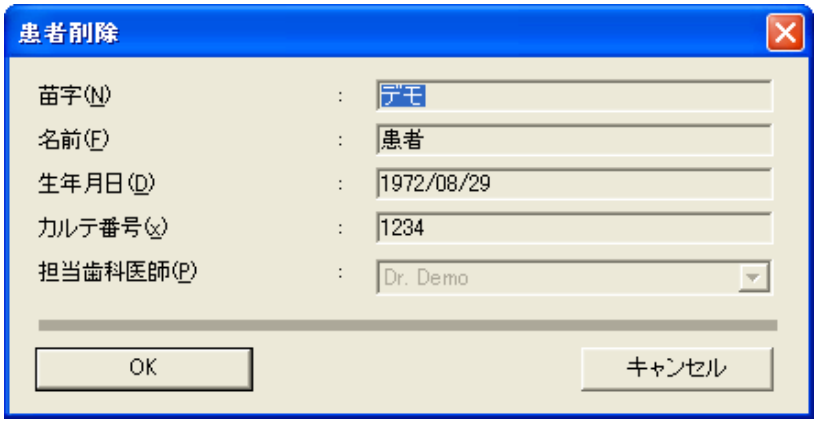
➢ ボタンをクリックします。

または

➢ メニューバー " 検査 "/" 患者 " で、メニュー項目 " 削除 " を選択します。

↳ " 患者削除 " ウィンドウが表示されます。

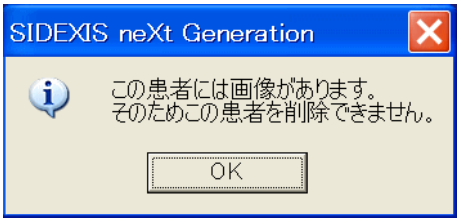
画面の例



法定保存期間

X 線画像の法定保存期間を保証するため、すでに画像データベースに X 線画像が保存されている患者を削除することはできません。

この場合、次のメッセージが表示されます。



3.4.6 患者をチェックアウトするにはどうすればよいのですか？

機能のアクティブ化

➢ ボタンをクリックします。

または

➢ メニューバー " 検査 "/" 患者 " で、メニュー項目 " チェックアウト " を選択します。

⇘ 患者がチェックアウトされます。

コントロール

- チェックアウトする患者の既存の画像を処理した場合や、新しくビデオ撮影をする場合、変更を保存するかを確認するメッセージが表示されます。
- 新しい X 線画像は、システムによって自動的に保存されています。

詳細

画像を保存したり閉じたりする方法については、「患者の管理 [➟ 44]」の項を参照してください。

患者のチェックアウトが正常に実行されると、プログラムウィンドウのタイトルバーに現在選択されている患者がいないことが示されます。

3.5 画像の管理

3.5.1 オリジナル画像の保存

説明

X 線画像は、画像収集完了後に自動的に患者データベースに保存されるため、ユーザーがこの画像を保存する必要はありません。

自動的に保存される画像は、オリジナル画像、またはオリジナルビューと呼びます。

ユーザーが初めて保存する新規ビデオ撮影も、最初はオリジナル画像の形式でデータベースに保存されます。

3.5.2 画像表示の保存

説明

画像の処理と最適化の後に、各ビューを保存したい場合があります。これらの編集済みビューは、保存することもできます。

オリジナル画像が新しいビューで上書きされることはありません。

注記

したがって、オリジナル画像のほかに保存できるのはビューのみで、ビューはオリジナルのバージョンに基づいています。

この方法により、1 つの画像から複数の異なるビューを生成し、同時に表示することも可能です。新しい各ビューの名前は、ダイアログボックスで割り当てられます。

ビューに含まれるもの

以下の画像処理および画像最適化手順がビューとして保存されます。

- 測定
  「測定ツール [➔ 95]」の項を参照してください。
- フィルタ
  「画像フィルタ [➔ 113]」の項を参照してください。
- 画面位置
- ズーム
  「画像の拡大縮小 [➔ 104]」の項を参照してください。
- 画像詳細
  「画像セグメントの移動 [➔ 105]」の項を参照してください。
- 回転
  「回転 [➔ 111]」の項を参照してください。

適用範囲

この機能は、X 線画像とビデオ画像に使用できます（ライブ画像と静止画像には使用できません）。

この画像は、アクティブになっている画像のみに適用されます。

機能のアクティブ化

➢ ボタンをクリックします。

または

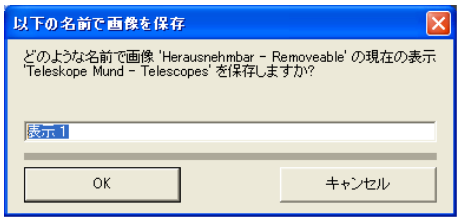
➢ ホットキー : [Ctrl] ＋ [S] キーを同時に押します。

または

➢ " 画像 " メニューバーを使用して、メニュー項目 " 名前をつけて保存 " を選択します。

↳ 「保存」ダイアログボックスが表示されます。

画面の例



注記

一意のビュー名が自動的に生成されます。ただし、これらのビュー名は、ユーザーが意味のある名前に変更できます。これにより、後でビューを簡単に取得できます。

追加情報

注記

複雑な画像処理が行われた保存済みビューを読み込む場合、元の画像の読み込みよりも多少時間がかかります。

複数の画像を開いてすべてのビューを保存するときは、それらを検査として保存することをお勧めします。

すべての画像は、必要に応じて圧縮して保存できます。圧縮して保存することにより、データベース内で必要な記憶領域が大幅に減少します。詳細については、「システム設定 [➔ 146]」の項を参照してください。

3.5.3 SIDEXIS データベースから取得した画像を開く

説明

SIDEXIS データベース内の画像は、" 画像を選択 " ダイアログボックスを使用して開くことができます。

登録済み患者の画像のうち、利用可能なものが表示されます。

適用範囲

この機能は、X 線画像とビデオ画像に使用できます（ライブ画像と静止画像には使用できません）。

この画像は、アクティブになっている画像のみに適用されます。

機能のアクティブ化

➢ ボタンをクリックします。

または

➢ ホットキー : [Enter] キーを押します。

または

➢ メニューバー " 画像 " から、メニュー項目 " 選択 " を選択します。

機能

利用可能な X 線撮影画像の一覧を絞り込んだ後、マウスまたはカーソルキーを使用して必要な画像を選択できます。画像は 1 つでも複数でも選択できます。

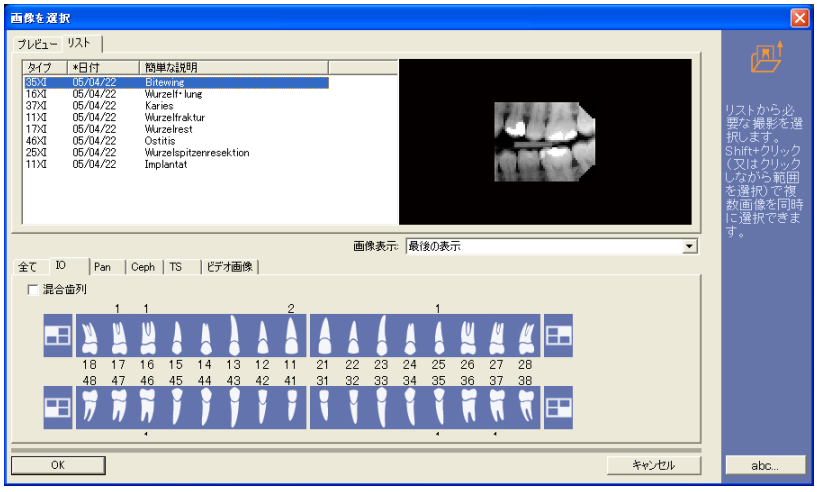
概要

以降の項では、次の内容について詳しく説明します。

- ダイアログボックスの構造 [➔ 54]
- 単一選択 [➔ 58]
- 複数選択 [➔ 59]
- 患者データの不一致 [➔ 60]
- 移動した画像の操作 [➔ 60]

3.5.3.1 ダイアログボックスの構造

ダイアログボックス



ビュータブ

2 つのタブを使用して、2 つの異なるビューを切り替えることができます。

それぞれに登録済み患者の既存の画像すべてが表示されます。デフォルトでは、日時順に並び替えられます。

- タブ " プレビュー "
  画像は、プレビュー画像として関連画像タイプで表示されます。
- タブ " リスト "
  画像はリストとして表示されます。
  このリストには、各画像の画像タイプ、日付、および短い説明が含まれています。

注記

画像の説明に診断不能として表示される画像には、取得した画像のリスト内で「~~」によって識別されます。

これらは、〝全て〟ボタンをクリックして、すべての画像タイプを選択した場合のみ表示されます。

「ビュー」一覧フィールド

" 表示 " 一覧フィールドを使用すると、利用可能な各種画像（ユーザーが以前に生成したビューからの画像など）を選択できます。個々のビューは、名前で一覧表示されます。

" 最後の表示 " とは、最近確認された以前に一覧表示済みの画像のビューを意味します。

選択した画像が読み込まれ、ワークスペースのウィンドウ内で最後に保存されたままの状態で表示されます。

画像ビューの保存に関する詳細は、「画像ビューの保存」[➔ 52] の項を参照してください。

注記

〝表示〟一覧フィールドは、〝オプション〟タブで設定できます。

画像タイプ選択タブ

リストに表示される画像は、ダイアログボックスの下半分にあるタブを使用して、それぞれの画像タイプに従って事前選択することができます。SIDEXIS を使用して撮影した X 線画像の場合、画像タイプは検査結果の中でシステムによって自動的に割り当てられます。

これにより、多数の画像がある場合でも、簡単に画像を取得することが可能になります。ただし、この事前選択は、ユーザーが事前に（通常は撮影直後または検査結果の間に）画像をしかるべく割り当てている場合にのみ機能します。この割り当て処理については、「画像の説明と検査結果」の項で説明されています。

タブ	選択した画像タイプ
" 全て "	すべてのタイプがまとめて表示されます。 **注意 :** プレビューに画像フィルタは表示されません。
IO	タイプ XI の口腔内 X 線画像のみが表示されます（「歯列」を参照）。
PAN	タイプ XP のパノラマ X 線画像のみが表示されます（「パノラマ画像タイプ（XP）」を参照）。
CEPH	タイプ XC の Ceph X 線画像のみが表示されます（「Ceph 画像タイプ（XC）」を参照）。
TS	タイプ XS のトランスバーサルスライス画像のみが表示されます（「歯列」を参照）。
VI	ビデオ画像のみが表示されます（「歯列」参照）。
3D	3D 画像のみが表示されます。

該当するタイプの画像がある場合、各タブに利用可能な画像数が表示されます。選択された画像タイプのコードは、リストボックスの上に表示されます（XI、XP、XC、VI、XS、またはタイプが不明かまたは任意の画像の場合は ??）。

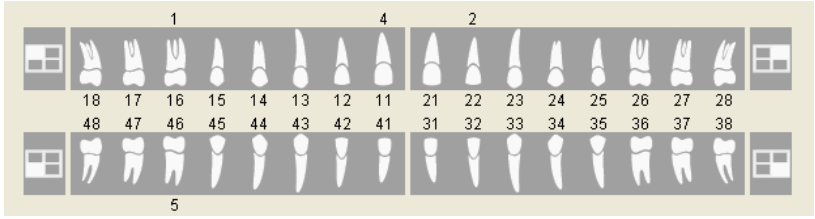
歯列

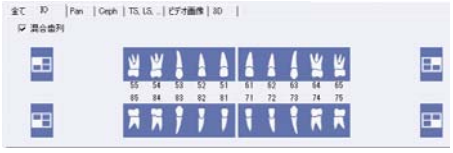
口腔内 X 線（XI）、トランスバーサルスライス（XS）および口腔内カメラ（VI）画像タイプの場合、タブの他に歯列が表示されます。歯列では、採得した画像を取得するための検索条件を詳細に指定できます。

歯牙記号をクリックすると、選択した歯牙に対応する画像のみが使用可能な X 線画像の一覧に表示されます。

リストボックスの上にある画像タイプコードは、インターナショナル歯列（例 : 16XI）による詳細を示します。

利用可能な画像数は、各歯のボタンの下または上に表示されます。





歯牙記号の両隣にある各記号をクリックすると歯列の 1/4 の歯牙が表示されます。

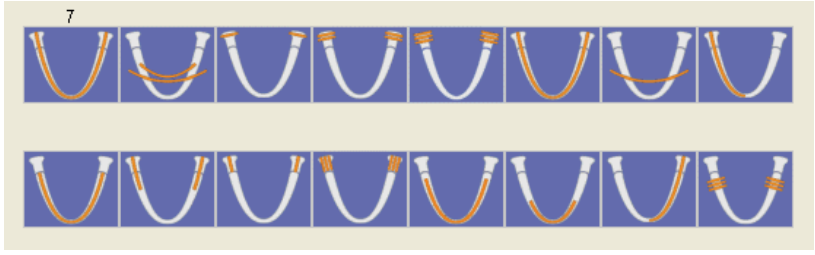
チェックボックスを使用すると、歯列を混合歯列に変更できます。

パノラマ画像タイプ（XP）

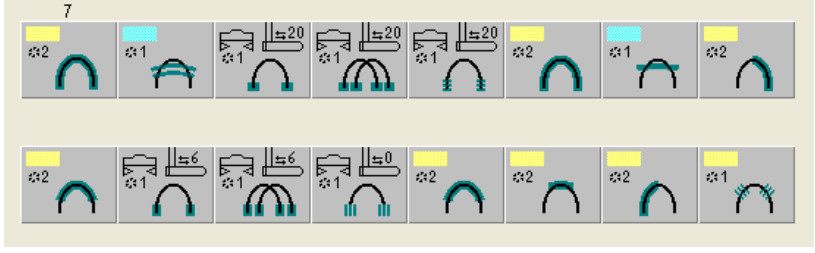
パノラマ画像タイプ（XP）の場合、歯列の代わりに OP プログラムの概要が表示されます。操作手順は口内法画像の場合と同じです。リストボックスの上にある画像タイプコードは、選択したプログラム番号（例 : 03XP）による詳細を示します。

ORTHOPHOS XG の発売時、全体レイアウトは ORTHOPHOS XG のザインと調和するように調整されました。この新しいレイアウトは、SIDEXIS Classic のレイアウトに変更できます（「オプション [➟ 188]」の項を参照）。

ORTHOPHOS XG のレイアウト



SIDEXIS Classic のレイアウト

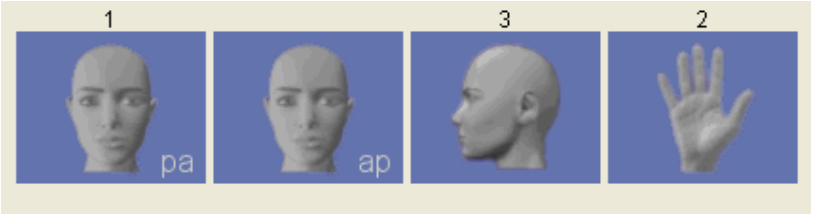


セファロ画像タイプ（XC）

セファロ画像タイプ（XC）の場合、PA、AP、側面方向および手根骨画像への分類が提供されています。操作手順は口内法画像の場合と同じです。リストボックスの上にある画像タイプコードは、選択した画像タイプコード（例 : 01XC）による詳細を示します。

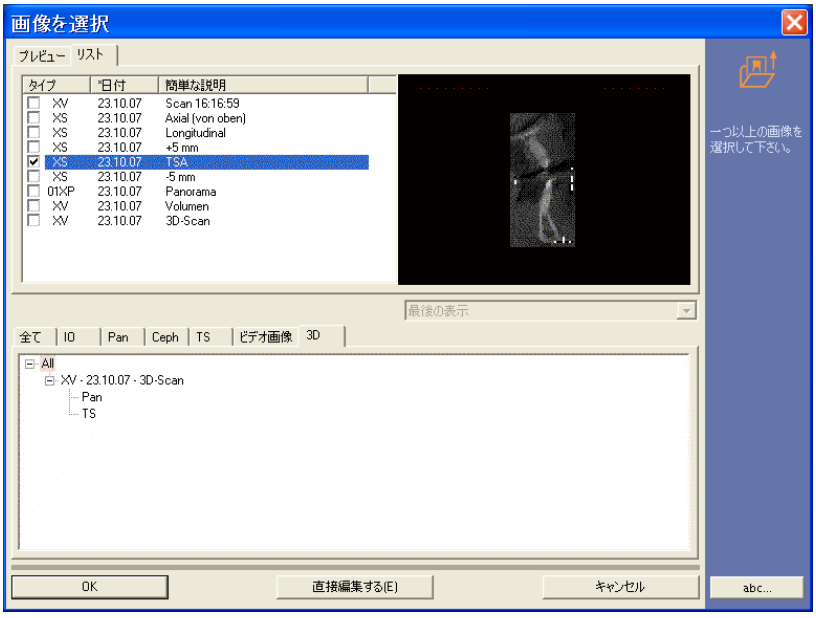
ORTHOPHOS XG には、ORTHOPHOS XG と同一のレイアウトデザインが採用されています。この新しいレイアウトは、SIDEXIS Classic のレイアウトに変更できます（「オプション [➟ 188]」の項を参照）。

ORTHOPHOS XG のレイアウト



SIDEXIS Classic のレイアウト

GALILEOS のレイアウト



明瞭な概要を提供するために、構造ツリー（Pan、Ceph、TSA など）を使用して、表示された画像のリストを制限することができます。

これにより、2D 画像選択の選択ビューに制限されます。3D 処理ソフトウェア（GALAXIS）を開いた時点では、選択された GALILEOS スキャンに影響はありません。

3.5.3.2 単一選択

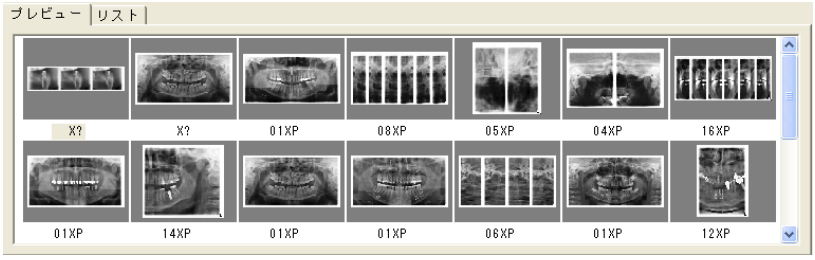
説明

単一選択とは、画像を 1 つだけ選択することを意味します。選択したアイテムがハイライト表示されます。

画面の例

" リスト " タブの画面例

" プレビュー " タブの画面例



開く

最後に選択した画像を開く手順は、以下のとおりです。

選択

➢ マウスの左クリックで必要な画像を選択します。

↳ **"リスト"タブのみ:** 選択した画像のプレビューが右側のウィンドウに表示されます。

画像の読み込み

画像の読み込みには、以下の 3 通りの方法があります。

➢ 左マウスボタンで選択した画像をダブルクリックする

または

➢ "OK" ボタンを押す

または

➢ **" リスト " タブのみ :** マウスの左ボタンを使用して、プレビューウィンドウでダブルクリックする

↳ 画像がワークスペースに読み込まれます。

3.5.3.3 複数選択

説明

複数選択では、一覧内の複数の画像が選択されます。

- この方法を使用すると、たとえば、長期間にわたって生成された画像の比較や画像の類似点の検索が簡単にできます。

複数選択で選択できるのは " 最後の表示 " または " オリジナルの表示 " のいずれか一方のみです。

- 選択した項目が " 表示 " リストボックスにハイライト表示されます。
- 設定については、「オプション [➔ 188]」の項で説明しています。

注記

複数選択による〝表示〟リストフィールドの選択はできません（このフィールドは灰色表示されます）。

選択

領域選択

1. マウスの左クリックで必要な画像を選択します。
2. "[Shift]" キーを押したままにします。
3. マウスの左クリックで最後に必要な画像を選択します。

↳ 1つ目から最後に選択する画像までのすべての画像が選択されます。

個別選択

1. マウスの左クリックで必要な画像を選択します。
2. "[Ctrl]" キーを押したままにします。
3. マウスを左クリックして、必要な画像を選択します。

↳ クリックで選択した画像だけを選択します。

注記

誤って選択した画像を選択解除するには、〝[Ctrl]〟キーを押して、不要な画像をクリックします。

最後の選択を解除すると単一選択モードになり、再度ビューの選択を行うことができます。

画像の読み込み

画像の読み込みには、次の 3 通りの方法があります。

➢ 左マウスボタンで選択した画像をダブルクリックする

または

➢ "OK" ボタンを押す

または

➢ **" リスト " タブのみ：**マウスの左ボタンを使用して、プレビューウィンドウでダブルクリックする

↳ 画像がワークスペースに読み込まれます。

3.5.3.4 患者データの不一致

説明

選択した画像に保存された患者データが、現在の患者データと異なる場合、データを誤って割り当てることを防止するために警告が表示されます。このような不一致が発生した場合は、必ず理由を確認してください（結婚による名前の変更など）。

画面の例

3.5.3.5 移動した画像の操作

説明

必要な画像がすでに場所を移動されている場合、それらを選択するときに記憶メディアを挿入することを求められます。

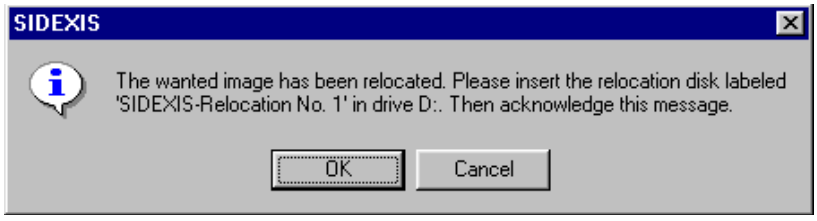
機能

記憶メディアを挿入してメッセージを確認すると、画像を通常通り表示されます。

移動された画像はわかりやすいように一覧に「»」のマークが付けられます。

詳細については、「移動の設定 [➔ 162]」の項を参照してください。

画面の例



3.5.4 画像の説明と検査結果

説明

画像が開かれてアクティブな場合は、その説明をいつでも表示または編集できます。

この画像の説明により、患者の特定の画像を簡単に取得できます。さらに、検査結果を画像説明に入力できます。

ヒント：画像の説明をツールのヒントとして表示することが可能です（「オプション [➔ 188]」の項を参照）。

適用範囲

この機能は、X 線画像とビデオ画像に使用できます（ライブ画像と静止画像には使用できません）。

この画像は、アクティブになっている画像のみに適用されます。

機能のアクティブ化

➢ ボタンをクリックします。

または

➢ " 分析 " メニューバーを使用して、メニュー項目 " 結果 " を選択します。

機能のアクティブ化

➢ ボタンをクリックします。

または

➢ ホットキー : [Alt] ＋ [Enter] キーを同時に押します。

または

➢ ポップアップメニューから " 属性 " を選択します。

または

➢ " 分析 " メニューバーを使用して、メニュー項目 " プロパティ ..." を選択します。

ワークスペースでの表示

既存の診断検査結果の記号が画像内に表示されます。

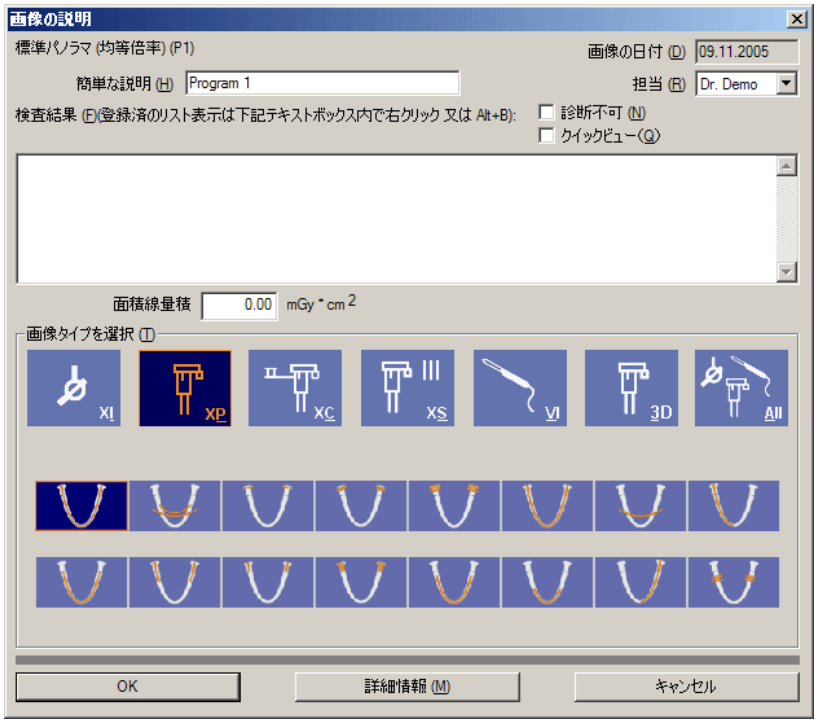
この記号は、画像内またはワークスペース内で自由に移動できます。

画像の外に配置された検査記号は、必ず点線で関連画像とリンクされます。

➢ ダブルクリックすると、ダイアログボックスが開きます。

画面の例

ダイアログボックス



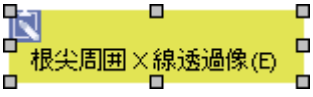
画像情報

表示されたダイアログボックスには、現在アクティブな X 線で使用可能な画像情報が表示されます。

- " 画像タイプ "
  ここに画像タイプが表示されます。
  口腔内、TVS、およびビデオ画像の場合、画像タイプは表示されている歯列から選択した歯牙によって決定されます。
  パノラマ撮影とセファロ撮影では、画像タイプは OR プログラムの調査によって決定されます。ORTHOPHOS のプログラム番号は画像タイプの中にも表示されます。
  この画像情報は、利用可能な画像を選択するダイアログボックスのリストボックス内に後で表示されます。
- " 画像の日付 "
  この画像情報は、利用可能な画像を選択するダイアログボックスのリストボックス内に後で表示されます。
  画像作成日は読み取り専用であり、編集することはできません。

- " 簡単な説明 "
  この画像情報は、利用可能な画像を選択するダイアログボックスのリストボックス内に後で表示されます。
  このフィールドには任意のテキストを入力できます。
  最大で 128 文字を入力できます。
- " 担当 "
  患者を担当する歯科医師の名前がシステムによって自動的に入力されます。別の歯科医師が画像を担当した場合、このデータを編集できます。
- " 検査結果 "
  このフィールドには任意のテキストを入力できます。
  最大で 5,000 文字を入力できます。
- " 診断不可 "
  画像が診断不能の場合、関連するチェックボックスをオンにすることによって通知できます。診断不能と表示される画像は、画像タイプに「~~」によって識別されます。
  これらの画像は、" 全て " ボタンをクリックすることによって、すべての画像タイプが表示される場合にのみ表示されます。
- " クイックビュー "
  このチェックボックスをオンにすると、検査結果がワークスペース内のテキストウィンドウに表示されます。

  画面の例 :



- " 面積線量積 "
  このフィールドには " 面積線量積 " を入力できます。
  特定のデジタル Sirona X 線撮影システムでは、撮影中にこのフィールドを自動的に入力することもできます。

注記

画像タイプの正確な仕様と短い説明は、後で画像を取得するときに役立つため、必ず作成しておくことが必要です。

注記

検査結果のテキストを入力する場合、マウスの右ボタンまたは [Alt] ＋ [B] キーを押すことによって、コンテキストメニューを開き、既製の標準検査結果を開くことができます。この操作を繰り返すと、これらの検査結果のいくつかを組み合わせることができます。[Esc] キーを押すと、次の動作を行わずにコンテキストメニューが閉じます。標準検査結果を個別に設定する方法については、「標準の検査結果の処理 [➔ 155]」の項を参照してください。

ダイアログボックスを確認することによって、すべての入力内容が自動的に保存されます。ダイアログボックスをキャンセルすると、すべての変更内容が破棄されます。

自動アクティブ化

注記

X 線撮影を実施する前または後に、読み込む画像タイプや検査結果を自動的に確認できるように SIDEXIS を構成することができます。詳細は、「撮影の設定 [➙ 147]」の項を参照してください。

X 線画像がオリジナルかコピーかを区別することはできません。画像が圧縮されているかどうかも確認できません（詳細は「システム設定 [➙ 146] の項を参照）。また、圧縮のレベルについても確認できません。この情報は、主に専門家が評価を行う際に必要になります。また、サービスを提供したり、トラブルシューティングを行う際には、より正確な画像詳細が必要になる場合もあります。

追加情報

このような理由から、SIDEXIS で撮影したすべての撮影について、表示画像に関する詳細情報を示す情報ウィンドウを表示できます。このウィンドウは、" 詳細情報 " ボタンをクリックすると表示されます。撮影元や詳細情報は " ソフトウェア " ラベルの後ろに表示されます。略語の説明については、「画像の識別 [➙ 67]」の項を参照してください。

SIDEXIS XG を使用して作成した**パノラマ撮影**、**セファロ撮影**および**トランスバーサル撮影**の場合は、照射時間、X 線管電流、X 線管電圧、スタンド高、こめかみ押え幅、およびヘッドサポートに関する追加情報が表示されます。その他の撮影の場合は、これらのエントリは灰色表示されます。

3.5.5 検査からオブジェクトを削除する

適用範囲

この機能は、X 線画像とビデオ画像に使用できます（ライブ画像と静止画像には使用できません）。

この機能は、選択した画像に対してのみ適用されます。

機能のアクティブ化

➢ ボタンをクリックします。

または

➢ ホットキー : [Del] キーを押します。

または

➢ ポップアップメニューから削除を選択します。

または

➢ メニューバー " 編集 " から、メニュー項目 " 削除 " を選択します。

機能

1 つまたは複数の画像のプロパティ（画像処理やウィンドウ位置など）が変更されると、画像をワークスペースから削除する前に保存を促すメッセージが表示されます。

注記

ウィンドウ位置を決める際の動作設定については「リマインダー機能の設定 [➙ 160]」の項を参照してください。

ライブビデオ画像の場合、以前に保存済みの画像に変更が加えられていない場合、このメッセージダイアログボックスなしで、関連付けられている画像ウィンドウが閉じられます。

注記

患者をチェックアウトするか、SIDEXIS を終了すると、自動的にすべてのビューが閉じられます。

3.5.6 画像を閉じる

適用範囲

この機能は、X 線画像とビデオ画像に使用できます（ライブ画像と静止画像には使用できません）。

この画像は、アクティブになっている画像のみに適用されます。

機能のアクティブ化

➢ ボタンをクリックします。

または

➢ ホットキー : [Esc] キーを押します。

または

➢ " 拡大画像タイトル " 機能がアクティブである場合 : 画像タイトルのボタンをクリックします（「オプション [➔ 188]」の項を参照してください）。

または

➢ メニューバー " 画像 " から、メニュー項目 " 閉じる " を選択します。

機能

画像のプロパティ（画像処理やウィンドウ位置など）が変更されると、画像をワークスペースから削除する前に保存を促すメッセージが表示されます。

ライブビデオ画像の場合、以前に保存済みの画像に変更が加えられていない場合、このメッセージダイアログボックスなしで、関連付けられている画像ウィンドウが閉じられます。

注記

患者をチェックアウトするか、SIDEXIS を終了すると、自動的にすべてのビューが閉じられます。

3.5.7 画像データベースから画像を削除する

説明

この機能を使用して以前記憶した画像を画像データベースから削除することができます。

画像タイプはいくつかに分類されます。

- **X 線画像**
  X 線撮影画像の場合、保存した画像ビューのみが削除可能です。オリジナルビューを削除することはできません。

> **⚠ 注意**
> X 線画像の法定保存期間を保証するために、このタイプのオリジナル画像は削除できません。

- **ビデオ画像**
  ビデオ画像の場合、保存した画像ビューとオリジナルビューの両方を削除可能です。
  ビデオ画像のオリジナルビューは、削除コマンドを再確認した後にのみ削除可能です。
  オリジナルビューだけではなく、画像の関連付けられているすべてのビューも削除されます。

適用範囲

この機能は、X 線画像とビデオ画像に使用できます（ライブ画像と静止画像には使用できません）。

この機能は、アクティブになっている画像ビューにのみ適用されます。

機能のアクティブ化

➢ ボタンをクリックします。

または

➢ " 画像 " メニューバーを使用して、メニュー項目 " 削除 " を選択します。

機能

この機能をアクティブにした後、最初に関連する画像ウィンドウを閉じる必要があります。

安全上の理由から、完全に削除する前に、コマンドの再確認を求めるメッセージが表示されます。

3.5.8 画像の識別情報

説明

X 線画像は、コピーとオリジナルを明確に識別するためにコードが付けられます。

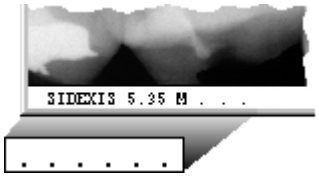
SIDEXIS で使用される画像の場合、印刷中、エクスポート中、クリップボードへのコピー中（[Ctrl] ＋ [C]）、あるいは画像メッセージングまたは電子メールでの送信中に、コードが割り振られます。このコード（白背景に黒文字）は、画像のエクスポート、電子メール送信、またはクリップボードへのコピーを行うときに左下隅に表示されます。

以前に SIDEXIS XG によってエクスポートされた画像が再度インポートされた場合、識別情報が表示されます。

画像の再インポート

画像を再インポートする場合、すべてのフィルタ、コントラストおよび明度調整が再度表示されます。圧縮またはエクスポートされた画像は、インポート時にもう一度圧縮することはできません。

コーディング



個々の要素は空白で区切られています。このコードは最大長で固定されているため、コードの最後に空白が追加されます。

空のフィールドは、ピリオドでマークが付けられます。

3.5.8.1 構造

位置 1

SIDEXIS　SIDEXIS 画像

位置 2

5.35　画像が取得またはインポートされるときに使用されたバージョン番号。

SIDEXIS XG のバージョン番号は「6.x.」のように表示されます。

位置 3

.　オリジナル画像

C　コピー

M　変更された画像

位置 4

.　現在の SIDEXIS システムで作成された画像

I　インポートされたファイル

3　スキャナー（TWAIN）

P　クリップボードからインポート

L　SLIDA 経由でインポート

位置 5

.	圧縮なし
JPG	圧縮タイプ - JPEG

位置 6

1 ⋮ 100	JPEG 圧縮パラメータ： 画質係数 複数圧縮された（すでに圧縮された画像を圧縮エクスポートした）ファイルには、先頭に「<」が付きます。使用された最小圧縮係数が表示されます。
.	圧縮なし

注記

上記で説明したコードは、″詳細情報″ウィンドウにも表示されます。「画像の説明と検査結果 [→ 61]」の項を参照してください。

3.5.8.2 例

例 1

- 新規画像、圧縮および変更（輝度、コントラスト）なしで保存し、エクスポートされた。

コーディング：「SIDEXIS 5.35 M . . .」

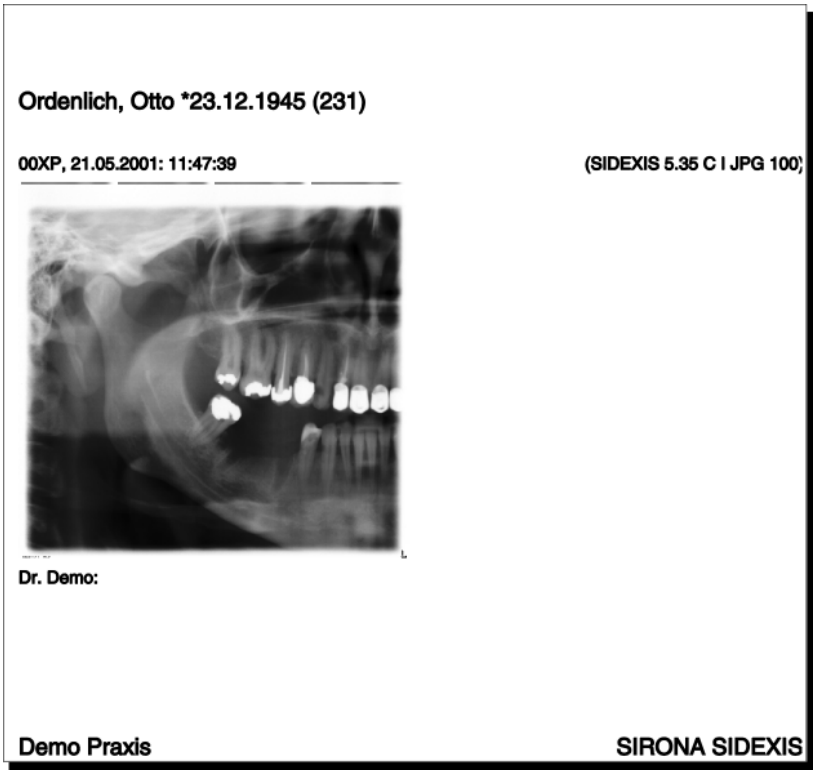
例 2

- 歯科医院 A で新規画像が圧縮されて保存され、変更されたバージョンが圧縮ファイルとしてエクスポートされた。エクスポートされた画像は、歯科医院 B でインポートされた（さらに、圧縮なしで保存された）。

コーディング：「SIDEXIS 5.45 M I JPG 100」

例 3（印刷）

再インポートされたコピーの印刷、圧縮レベルは JPEG 100。



このコードは、画像の外側にテキストとして印刷されるが、単一の画像印刷に限られる。

位置 : 画像タイトルと同じ行に右揃えで括弧内に表示される。

3.5.9 画像表示のエクスポート

説明

" エクスポート " 機能を使用すると、SIDEXIS XG で生成した画像データを他のシステムと交換できます（照会する場合など）。

画像を別の記憶メディア（USB スティック、CDR、DVD-R、従来のディスケット、ネットワークドライブなど）にコピーした後、" インポート " 機能を使って別の場所にインポートすることができます。

⚠ 注意

エクスポートした画像を別のソフトウェア（PaintBrush など）で編集すると、診断に適さない画像になります。

適用範囲

この機能は、X 線画像とビデオ画像に使用できます（ライブ画像と静止画像には使用できません）。

この画像は、アクティブになっている画像のみに適用されます。

機能のアクティブ化

➢ ボタンをクリックします。

または

➢ メニューバー " 画像 "/" エクスポート " で、メニュー項目 " エクスポート " を選択します。

機能

ここでは、WYSIWYG 方式が適用されます。

画像は常に、エクスポートコマンドが選択された時点の状態でエクスポートされます。これは、すべての処理手順（回転、フィルタ、輝度およびコントラストの調整）もエクスポートされることを意味します。

例外：

- 拡大した画像の詳細はエクスポートされません。エクスポートされるのは全体画像のみです。
- エクスポート対象の画像には、" 反転 " フィルタと " カラー " フィルタは含まれません。
- 対象領域に加えた変更はエクスポート前に適用しておく必要があります（「関心領域の明度とコントラストの調節 [➔ 117] の項を参照」）。

エクスポートの対象、つまりパスとファイル名はダイアログボックスで指定します。

長いファイル名も使用できます。

TIFF 圧縮を使用する場合は、データをインポートする側のシステムが TIFF 圧縮形式のファイルの読込みができることを、必ず確認する必要があります。エクスポートを行う SIDEXIS のバージョンが、同じか、より新しいバージョンの SIDEXIS を使用している場合、必ずこの点を確認してください。

バージョン番号は、" 詳細情報 " ウィンドウに表示されます（「画像の説明と検査結果 [➔ 61]」の項を参照）。

注記

圧縮を行うと、ディスク上で必要な記憶容量を大幅に減らすことができます。これは ″Save as type″ フィールドで X 線撮影結果をエクスポートする時にも使用できます。たとえば、パラメータ 100 で圧縮したパノラマ X 線画像は、通常の 3.5 インチディスクにエクスポートできます。

圧縮の詳細については、「システム設定 [➔ 146]」の項を参照してください。

画像を、非圧縮の TIFF 形式でエクスポートするには、ファイルタイプ ″TIFF (*.tif)″ を選択します。画像を、圧縮形式でエクスポートするには、″TIFF komprimiert″ (*.tif) を選択します。

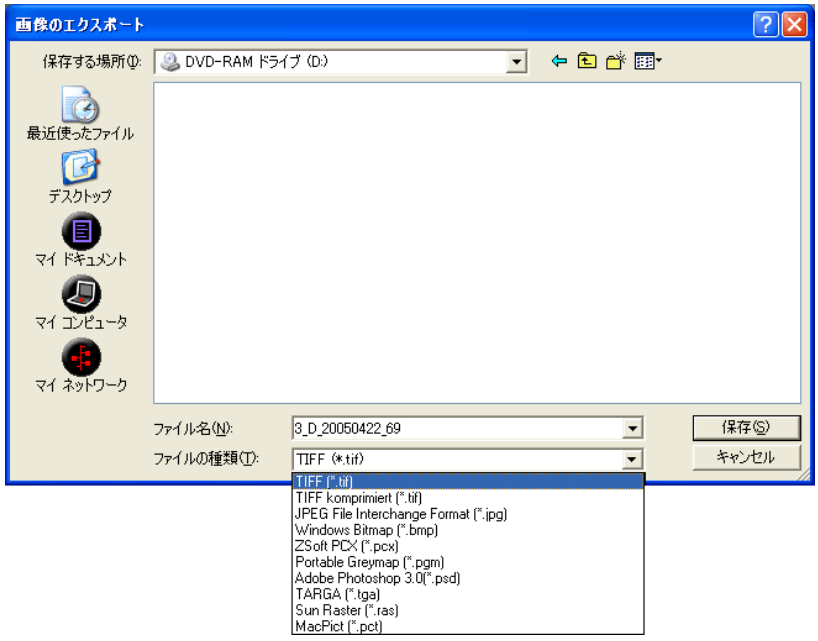
例

現在アクティブな画像をドライブ A: のディスクに、"Test" という画像名でエクスポートします。

1. フォーマットされたディスクをドライブ A: に挿入します。
2. " ファイル名 :" テキストボックスに、"Test" と入力します。
3. 必要に応じてファイルのフォーマットを選択します。
4. " 保存 " を選択して確定します。

保存操作が完了したら、ドライブからディスクを取り出します。

ダイアログボックスの例



3.5.10 画像のインポート

説明

" インポート " 機能を使用して、異なるシステム間で画像データのやり取りができます。SIDEXIS 以外のシステムで生成された画像の他に、別の SIDEXIS システムで以前に生成およびエクスポートされた画像を読み込むことが可能です。

SIDEXIS を使用してすでにエクスポートした画像の場合、撮影日付や検査結果などの利用可能なすべての画像情報も画像とともにエクスポートされます。

この方法でシステムに読み込まれた画像は、通常の撮影と同様に処理できます。ここでも、1 人の患者に対して画像を明確に割り当てる必要があります。

⚠ 注意

画像をインポートする前に、正しい患者が登録されているかを必ず確認する必要があります。

注記

インポートされた画像の表示および解像度は、インポートされた画像に依存します。

適用範囲

この機能は、X 線およびビデオ画像に使用できます。

システムは、エクスポートに圧縮されたフォーマットが使用されているかを自動的に判別します。

注記

SIDEXIS プログラム以外からエクスポートした画像はインポートできない場合があります。

機能のアクティブ化

➢ ボタンをクリックします。

または

➢ メニューバー " 画像 "/" インポート " で、メニュー項目 " インポート " を選択します。

機能

読み込むファイルのパスおよびファイル名をダイアログボックスで指定する必要があります。

長いファイル名も使用できます。

例

ドライブ A: のディスクから、以前にエクスポートした「"Test"」という名前の画像をインポートします。

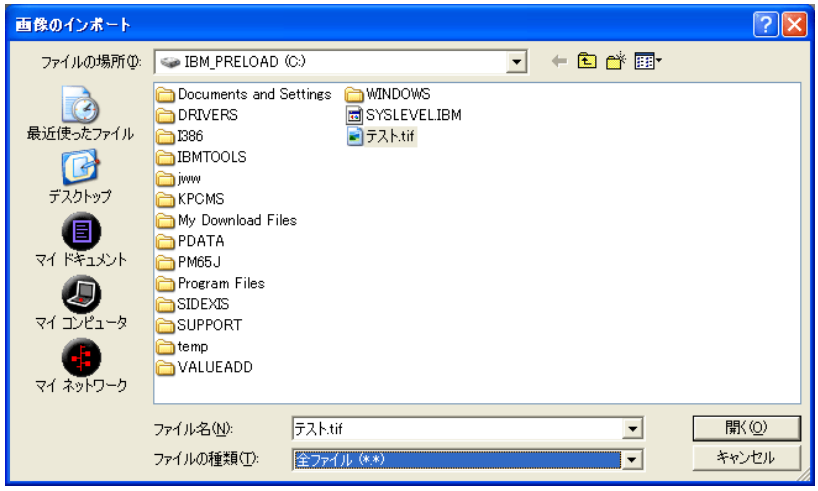
インポートする画像が入っているディスクをドライブ A: に挿入します。

" ファイル名 :" テキストボックスに、"Test" と入力します。

" 開く " を選択して確定します。

画像が表示されたら、ドライブからディスクを取り出します。

ダイアログボックスの例



3.5.11 画像と検査結果の印刷

適用範囲

⚠ 注意

印刷された画像は、診断には**適しません**。

例外 : DICOM 対応のフィルムイメージャなど、明示的に診断用の出力を提供している特殊プリンタで印刷した画像を除きます。

この機能は、X 線画像とビデオ画像に使用できます（ライブ画像と静止画像には使用できません）。

この画像は、アクティブになっている画像のみに適用されます。

機能のアクティブ化

➢ ボタンをクリックします。

↳ インストールされているデフォルトプリンタで画像が印刷されます。

または

➢ ホットキー : [Ctrl] ＋ [P] キーを同時に押します。

↳ インストールされているデフォルトプリンタで画像が印刷されます。

または

➢ メニューバー " 画像 "/" 印刷 " で、メニュー項目 " 印刷 " を選択します。

↳ すぐに " 印刷 " ダイアログが表示されます。

システムダイアログボックス

ここでは、システムにインストールされている Windows プリンタを 1 つ選択および設定できます。

通常、画像と関連説明に十分なスペースが提供されるため、現在アクティブな画像を印刷すると、この 2 つが 1 ページに印刷されます。

➢ 印刷した状態は " 印刷プレビュー " 機能で確認することができます（「印刷プレビュー [➔ 74]」の項を参照）。この機能を使用して印刷を開始することもできます。

縦長 / 横長のフォーマットは手動で選択する必要があります。

3.5.12 印刷プレビュー

説明

SIDEXIS XG には印刷プレビュー機能があります。

- この機能を使用して、どのように印刷されるかを確認するためのプレビューを表示できます。
- この画面には印刷内容の配置とサイズが表示されます。
- 印刷プレビュー画面から印刷の実行とプリンタ設定を行うことができます。
- 印刷プレビューでは、印刷するページの位置とサイズを調整することもできます（ただし " 検査 " 時には、この調整はできません）。

機能のアクティブ化

" 検査 " の印刷プレビュー

➢ ボタンをクリックします。

または

➢ " 検査 " メニューバーを使用して、メニュー項目 " 印刷プレビュー " を選択します。

画像の印刷プレビュー

➢ ボタンをクリックします。

または

➢ " 画像 " メニューバーを使用して、メニュー項目 " 印刷プレビュー " を選択します。

設定

1 つの例外を除き、印刷プレビューでは SIDEXIS XG ボタンの記号を使用しています。

デフォルトのプリンタにページが印刷されます。

オペレーティングシステムの印刷設定ダイアログボックスが表示されます。

" ページの設定 " ウィンドウが表示されます。

- その中で画像のサイズと配置の変更ができます。
- 「印刷のページ設定 [➔ 75]」の項を参照してください。

注記

〞検査〞の印刷プレビュー時には使用できません。

印刷プレビューの拡大

印刷プレビューの縮小

印刷プレビューを閉じる

3.5.12.1 印刷のページ設定

説明

印刷するページは " ページの設定 " ダイアログボックスで設定できます。

設定

- **ペイン** " サイズ "

  印刷する画像のサイズは ″ サイズ ″ ペインで設定します。

  幅と高さの比を変更することはできません。

- **ペイン** " 位置 "

  印刷する画像の位置は ″ 位置 ″ ペインで事前設定されています。

- **チェックボックス** " 設定値 "

  ″ 設定値 ″ コントロールボックスを選択すると、入力されたサイズと配置が以降の印刷のために保存されます。

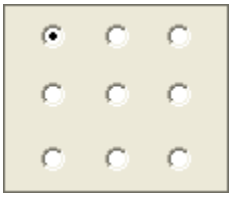
  チェックボックスがオフになっている場合、印刷プレビューの印刷出力が 1 回のみ適用されます。

フィールド「サイズ（Size)」

- **「100%」オプションフィールド**
  画像が撮影時の本来のサイズで印刷されます。
- サイズは画像に含まれるサイズ情報によって決まります。
- 画像にサイズ情報が含まれていない場合、画像は 60mm の幅で印刷されます。
- SIDEXIS 撮影から直接採得したか、または「TIF」エクスポートを通じて SIDEXIS データベースにインポートした X 線撮影画像はセンサーエリアのサイズで印刷されます。
- **オプションボタン** " ページ　ー　保存 "
  印刷可能エリアを最大限使用するように印刷サイズを調整します。
- **オプションボタン** " ユーザー定義 "
  サイズを調整できます。
- **チェックボックス** " 印刷サイズの限界 "
  " 印刷サイズの限界 " チェックボックスをオンにすると、印刷サイズは最大印字可能領域に制限されます。

「位置」フィールドの内容

- **チェックボックス** " ホールのエッジ "
  " ホールのエッジ " チェックボックスをオンにすると、ページの左余白にパンチ穴用のスペースができます。
  それに伴い画像サイズは縮小されます。



- **ポジションボックス**
  画像の位置は、ポジションボックスのオプションボタンを使用して決定できます。

3.5.13 画像のスキャン

説明

SIDEXIS XG では、TWAIN 対応装置（スキャナやデジタルカメラなど）からデータベースに画像データを読み込むことができます。

複数の TWAIN 装置がシステムにインストールされている場合は、" スキャナー選択 " 機能を使用して適切な装置を選択できます。

注記

スキャンされた画像の表示や解像度は、オリジナルの画質だけでなく、スキャナの性能および設定によっても異なります。

適用範囲

すべての TWAIN 対応装置が許可されます。

この機能の主な目的は、SIDEXIS データベースに従来型の X 線画像を含めることです。

機能のアクティブ化

➢ ボタンをクリックします。

または

➢ メニューバー " 画像 " から、メニュー項目 " スキャン " を選択します。

X 線撮影のヒント

X 線画像をスキャンするときは、次を確認する必要があります。

- SIDEXIS ソフトウェアの機能をすべて活用するために、画像はグレースケールモード（256 階調）でスキャンする必要があります。
- スキャナには、スキャンした画像の最大コントラストを得るために、透明ユニットが搭載されている必要があります。
- 口腔内 X 線画像のスキャンは、600dpi の解像度で行うことをお勧めします。
- パノラマ、セファロ、または TSA X 線画像は、300dpi の解像度でスキャンします。
- 距離計測を行う必要がある場合、X 線画像の基準長さを使用して較正する必要があります。

「スキャナの選択」機能

➢ ボタンをクリックします。

または

➢ メニューバー " 画像 " から、メニュー項目 " スキャナー選択 " を選択します。

3.5.14 電子メールとしてインターネット経由で画像を送信する

説明

お使いの SIDEXIS ワークステーションでインターネットによる電子メール接続が設定されている場合、画像を電子メールで送信できます。

設定の詳細については、「システム設定 [➔ 146]」の項を参照してください。

> **⚠ 注意**
>
> ここで説明している手順では、SIDEXIS ソフトウェアで ″SMTP″ または ″MAPI″ がアクティブになっていることが前提です。
>
> ″MAPI + dialog″ がアクティブになっている場合、プレインストールされている Windows の電子メールプログラムが起動します。Windows に付属の電子メールプログラムも操作は同じです。

適用範囲

この機能は、X 線画像とビデオ画像に使用できます（ライブ画像と静止画像には使用できません）。

この画像は、アクティブになっている画像にのみ適用されます。

機能のアクティブ化

➢ ボタンをクリックします。

または

➢ " 画像 " メニューバーを使用して、メニュー項目 " 電子メール " を選択します。

ダイアログボックス

ダイアログボックスの構造

- **テキストフィールド** " 宛先 :"
  このフィールドに、受信者の電子メールアドレスを入力します。
- **テキストフィールド** " 件名 :"
  オプションとして、ここに電子メールの件名を入力できます。

- **テキストフィールド** "Text:"
  このテキストボックスには、現在アクティブな画像と歯科医の名前がヘッダとして自動的に表示されます。
  送信する画像の詳細な説明やデータをここに入力できます。
- **チェックボックス** " バックグラウンドで送信 "
  画像送信中も、継続して SIDEXIS XG で作業ができます。
- **チェックボックス** " 送信後報告 "
  電子メールが正常に送信されると、確認メッセージが画面に表示されます。
- **コマンドボタン** " 送信 "
  電子メールを宛先アドレスに送信するために使用します。
  電子メールが送信されている間、進捗インジケータによって作業の状況が表示されます。

3.5.15 画像の送信

説明

システムのインストールおよび構成中に、サービスエンジニアは、SIDEXIS から別のプログラムに画像を送信できるように、これらのプログラムを SIDEXIS と連係させることができます。たとえば、このオプションを使用してインプラントやリモート X 線分析用の計測プログラムで処理するために画像を送ることができます。

このコマンドを使用して希望の画像を送信しておくと、次回目的のアプリケーションを開いた時に、そこで利用することができます。

適用範囲

この機能は、X 線撮影画像およびビデオ画像に対して使用できます（ライブ画像および静止画には使用できません）。

この機能は、アクティブな画像に対してのみ適用されます。

ここでは WYSIWYG の原則が適用されます。画像は常に、エクスポートコマンドが選択された時点の状態でエクスポートされます。つまり、すべての処理（回転、フィルタリング、明度およびコントラストの調整）もまたエクスポートされます。ただし、これは画像全体に対して適用され、拡大した画像の詳細はエクスポートされません。

機能のアクティブ化

➢ ボタンをクリックします。

または

➢ メニューバー「" 画像 "」から、メニュー項目 " 画像の送信 " を選択します。

機能

受信者を 1 人しか設定していない場合、画像はこのコマンド発行直後に送信されます。確認メッセージなどは表示されず、同時に対応するプログラムが起動します。

複数のプログラムが SIDEXIS とインターフェースしている場合、ダイアログボックスで希望のアプリケーションを選択します。

3.5.16 画像の移動

説明

このコマンドを使用すると、誤って患者に作成した画像を正しい患者に移動できます。

- 画像の移動は記録されるため、元に戻す操作を実行すると、もう一度画像が移動されます。
- この処理では、保存されているビューも移動されます。
- 1 つまたは複数の検査の一部である画像を移動すると、移動した画像へのリンクはそのまま検査内に残ります。
  ただし、その画像は影響を受けた検査内では表示**されなくなります**。
  画像が元の場所に移動されると、影響を受けた検査内で再び表示されるようになります。
- 3D ボリューム撮影画像が移動されると、生成されたすべての 2D 画像とともに 3D ボリューム全体が移動されます。

注記

オプションの X 線コントロールブックのエントリは移動されません。

これらは、コメントを使用して、後で修正します。

注記

画像を移動すると、操作が PDATA/-sibdel.log ファイルに記録されます。

適用範囲

この機能は、保存されているすべての画像に適用できます。

この画像は、アクティブになっている画像にのみ適用されます。

機能のアクティブ化

➢ ボタンをクリックします。

または

➢ " 画像 " メニューバーを使用して、メニュー項目 " 移動 " を選択します。

↳ " 患者登録 " ウィンドウが開きます。

患者（対象）の選択

1. 患者（対象）を選択します。
2. "OK" ボタンを押します。

   ↳ セキュリティダイアログボックスが表示されます。
3. "OK" ボタンを押します。

↳ 現在アクティブな画像が移動されます。

3.6 画像の採得

3.6.1 全般

説明

SIDEXIS でデジタル X 線画像を採得する場合、X 線管装置やパノラマユニットの通常の操作に加えて、PC ソフトウェアおよび SIDEXIS ソフトウェアで撮影準備ができていることが必要です。このため、PC 側で撮影準備をする必要があります。

PC 側で撮影準備が整い、SIDEXIS で撮影準備が完了すると、モニタ上に制御のためのダイアログボックスが表示されます。

X 線撮影では、画像作成の直後に放射線量を入力できます。この値は、画像とともに保存されます。

3.6.2 安全に関する注意事項

⚠ 注意

放射線をリリースする前に、PC とソフトウェアの照射準備ができており、システムに正しい患者が登録されていることを確認します。

⚠ 注意

Windows で同時に実行されるプログラムは互いに干渉するため、撮影中に別のプログラムに切り替えないようにしてください。そうしないと画像の整合性および信頼性が保証できません。

⚠ 注意

X 線撮影が完了すると直ちに、採得した画像が自動的に患者データベースに保存されます。これにより、高いレベルのデータセキュリティが確保できます。

X 線画像が保存されると、画面のウィンドウに表示されます。

X 線画像とは異なり、患者が登録されていなくても、ビデオカメラによる撮影は可能です。この場合、タイトルバーに " 未知の患者 " と表示されます。登録されていない患者のビデオ撮影を保存したい場合は、後で患者を登録できます。ただし、ビデオ撮影を保存する際のエラーを回避し、一貫したワークフローを確実にするために、ビデオカメラで撮影する場合にも事前に患者の登録を行うことをお勧めします。

⚠ 注意

ビデオ撮影を保存する前に、正しい患者がシステムに登録されていることを確認してください。

SIDEXIS は、撮影された X 線またはビデオ撮影の説明を毎回作成します。この説明には、撮影と特定の情報が自動的に入力されます。この説明データは、撮影直後または後で（診断結果で）変更および更新できます。詳細については、「画像の説明と検査結果 [➟ 61]」の項を参照してください。

注記

同時に表示できる画像の数は制限されており、開く画像の数が多いと、システム全体のパフォーマンスが低下します。したがって、不要になった画像は常に閉じるようにする必要があります。

3.6.3 口腔内 X 線画像

3.6.3.1 単一口腔内 X 線撮影

説明

最初のコマンドは、単一の口腔内撮影画像を生成します。このコマンドを実行すると、単一画像の撮影準備がアクティブになります。準備ダイアログボックスが表示され、その後に放射線がリリースされると、画面に新しい画像が表示されます。これで手順は完了です。このオプションを使用するようにシステムを設定しておくと、撮影の前または後に、画像の説明、または診断に自動的にジャンプします。詳細は、「撮影の設定 [➔ 147]」の項を参照してください。

機能のアクティブ化

➢ ボタンをクリックします。

または

➢ ホットキー : [Ctrl] ＋ [Shift] ＋ [I] キーを同時に押します。

または

➢ メニューバー " 画像 "/" 口内法撮影 " で、メニュー項目 " 単一撮影 " を選択します。

3.6.3.2 複数撮影

説明

" 複数撮影 " コマンドでは、同じ患者に対して複数の口腔内 X 線画像が撮影できます。この時、再度システムを準備して PC で X 線画像取得を選択する必要はありません。口腔内 X 線画像が撮影されると、ユーザーが操作しなくても、自動的に撮影準備が行われます。これは、PC と X 線センサーが別の場所にあるときに、特に便利です。すべての X 線を撮影したら、準備ダイアログボックスをキャンセルして操作を完了します。

機能のアクティブ化

➢ ボタンをクリックします。

または

➢ ホットキー : [Ctrl] ＋ [Shift] ＋ [M] キーを同時に押します。

または

➢ メニューバー " 画像 "/" 口内法撮影 " で、メニュー項目 " 複数撮影 " を選択します。

3.6.3.3 口腔内撮影用テンプレート

説明

口腔内 X 線連続撮影用テンプレートを一覧から選択できます。

この機能は、SIDEXIS XG の検査コンセプトの一部です。

" テンプレート撮影 " 機能で独自の X 線連続撮影を作成できます。詳細については、「システム設定 [➔ 146]」の項を参照してください。

機能のアクティブ化

➢ ボタンをクリックします。

または

➢ ホットキー : [Ctrl] ＋ [N] キーを同時に押します。

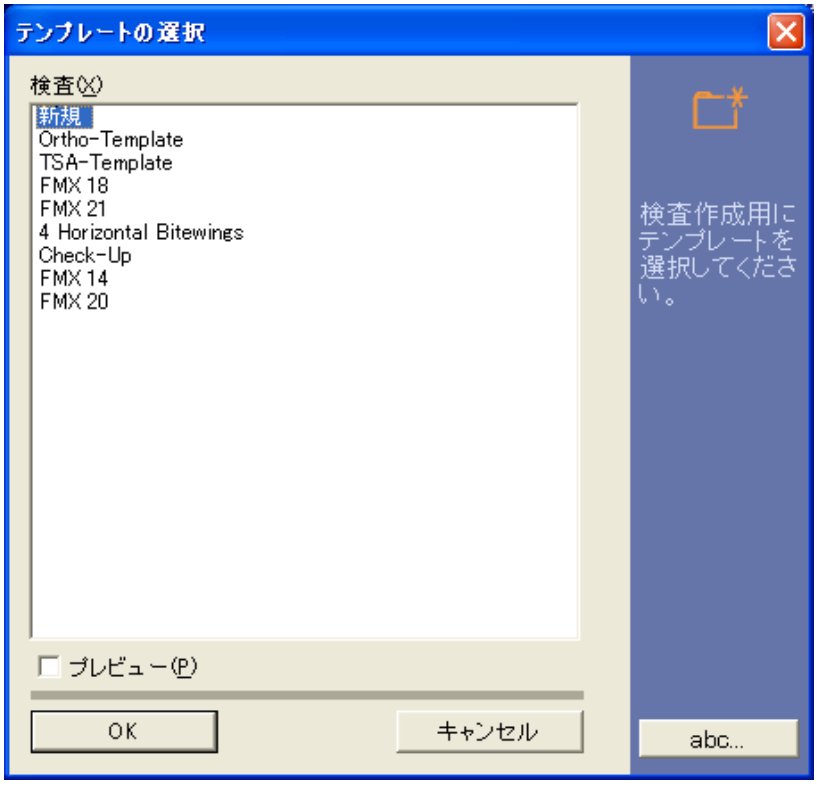
または

➢ メニューバー " 検査 " から、メニュー項目 " 新規 " を選択します。

または

➢ メニューバー " 画像 "/" 口内法撮影 " で、メニュー項目 " 新規 " を選択します。

選択ダイアログボックス



3.6.3.4 歯牙の選択

説明

対象とする歯牙の数を入力する、画像説明の項で説明した検査結果ダイアログボックスが表示されます。ダイアログボックスの下部で必要な歯をクリックし、"OK" で確定します。ボックスの残りの部分はこのコマンドと関連性がないため、選択できません。

選択ダイアログボックス

ここでもまた、準備ダイアログボックスをキャンセルするか、歯牙を選択することで作業は完了します。

複数撮影の間、ステータスバーに対応するメッセージが表示されます。

3.6.3.5 複数の口腔内 X 線撮影装置の操作

複数の X 線撮影装置が診療所に設置されネットワーク接続されている場合、口腔内 X 線撮影を行う前に、X 線印象採得装置を選択する必要があります。装置の選択は、" 歯列 / 名前 " 欄で希望の装置をクリックして実行します。選択すると、青いバーでハイライト表示されます。

選択ダイアログボックス

疑問符の付いた光学印象採得装置は、電源が入っていない可能性があります。

取消し線が付けられた装置は使用中の可能性があります。

X 線画像採得装置を選択すると、この採得ユニットと呼び出し側のコンピュータ間の接続確立方法を示すダイアログボックスが表示されます。これらのダイアログボックスには、接続エラーが発生した場合の重要な情報が表示されます。

3.6.3.6 画像の採得

説明

"X 線待機中 " メッセージが表示されると、X 線撮影装置はコンピュータ側で利用可能になります。これで撮影準備は完了です。

さらにいくつかのメッセージが表示された後、最後にデータ転送の進捗を示すダイアログボックスが表示されます。このとき、安全上の理由から " 終了 " ボタンが利用できませんので注意してください。

印象採得ダイアログボックス

機能

SIDEXIS で口腔内 X 線撮影中は、ダイアログボックスの口腔内撮影装置の図の下に警告として緑色のインジケータが点滅します。

システムにウォールボックスが搭載されている場合、撮影可能になると、ウォールボックスの緑色のインジケータ（LED）が点灯します。

このメッセージが画面上に表示され、ダイアログボックス内のインジケータが点滅しているか、またはウォールボックスの緑色のインジケータが点灯している場合、通常の方法で X 線撮影ができます。その後、X 線センサーが準備状態になります。センサーが X 線を検出すると、信号伝送が開始されます。

⚠ 注意

上述の状態の準備ダイアログボックスが表示されない、ダイアログボックス内のインジケータが点滅しない、またはウォールボックスのインジケータが点灯しない場合は、問題が解決するまで撮影は行わないでください。

" 終了 " ボタンを押すか、[Esc] キーを押すと、撮影待機状態が終了します。

注記

USB ボックスの情報

詳細は、ドキュメント「SIDEXIS – Intraoral USB Box – Operating and Installation Instructions」、REF 番号 59 15 702 を参照してください。

3.6.4 パノラマ、セファロおよび TSA 断層撮影

機能のアクティブ化

➢ ボタンをクリックします。

または

➢ ホットキー : [Ctrl] ＋ [Shift] ＋ [P] キーを同時に押します。

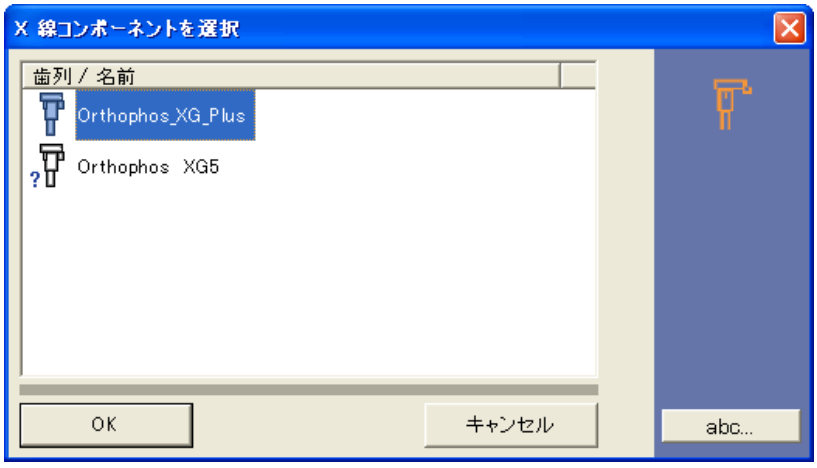
または

➢ メニューバー " 画像 " から、メニュー項目 " パノラマ X 線撮影 " を選択します。

複数のパノラマ X 線撮影装置の操作

複数の X 線撮影装置が診療所に設置されネットワーク接続されている場合、X 線印象採得装置を選択してからパノラマ X 線、セファロ X 線、または TSA 撮影を行います。装置の選択は、" 歯列 / 名前 " 欄で希望の装置をクリックして実行します。選択すると、青いバーでハイライト表示されます。

選択ダイアログボックス



疑問符の付いた印象採得装置は、電源が入っていない可能性があります。

取消し線が付けられた装置は使用中の可能性があります。

X 線印象採得装置を選択すると、採得ユニットと呼び出し側のコンピュータ間の接続確立方法を示すダイアログボックスが表示されます。これらのダイアログボックスには、接続エラーが発生した場合の重要な情報が表示されます。

画像の採得

"X 線待機中 " メッセージが表示されると、X 線撮影装置はコンピュータ側で利用可能になります。これで撮影準備は完了です。

さらにいくつかのメッセージが表示された後、最後にデータ転送の進捗を示すダイアログボックスが表示されます。このとき、安全上の理由から " 終了 " ボタンが利用できませんので注意してください。

別の X 線撮影装置は、システムによって自動的に認識および区別されます。

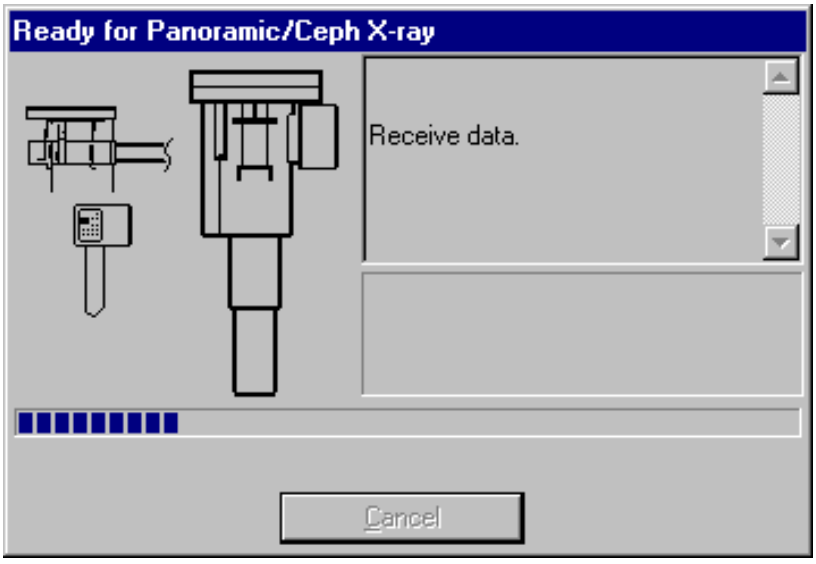
SIDEXIS で X 線撮影中は、印象採得ダイアログボックス内で警告として緑のインジケータが点滅します。

⚠ 注意

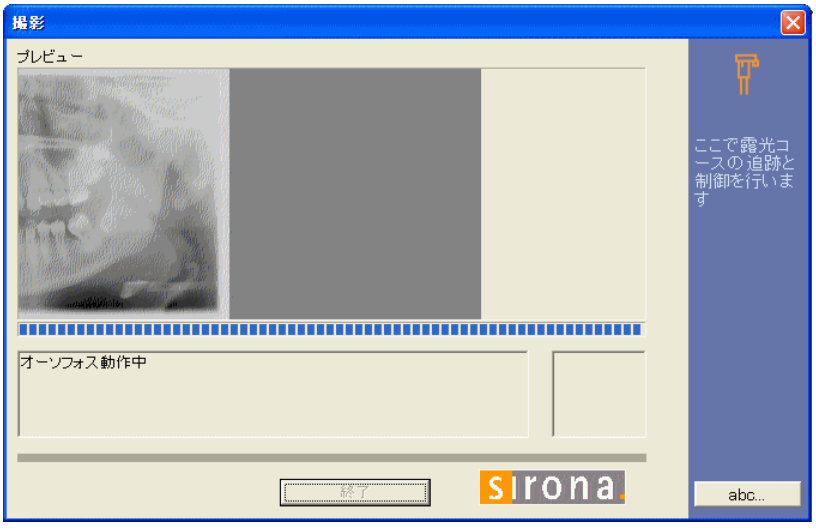
このような準備ダイアログボックスが表示されない、またはダイアログボックスのインジケータが点滅しない場合は、問題が解決するまで ORTHOPHOS で撮影できません。

" 終了 " ボタンを押すか、[Esc] キーを押すと、撮影待機状態が終了します。一度撮影が開始されると、ORTHOPHOS からしか停止できません。

ORTHOPHOS DS 装置の印象採得ダイアログボックス



ORTHOPHOS XG DS 装置の印象採得ダイアログボックス



ORTHOPHOS XG DS 装置用に X 線撮影データを転送する間、印象採得ダイアログボックス内で X 線撮影のプレビュー画像が生成されます。

3.6.5 3D X 線撮影

機能のアクティブ化

➢ ボタンをクリックします。

または

➢ ホットキー : [Ctrl] ＋ [Shift] ＋ [3] キーを同時に押します。

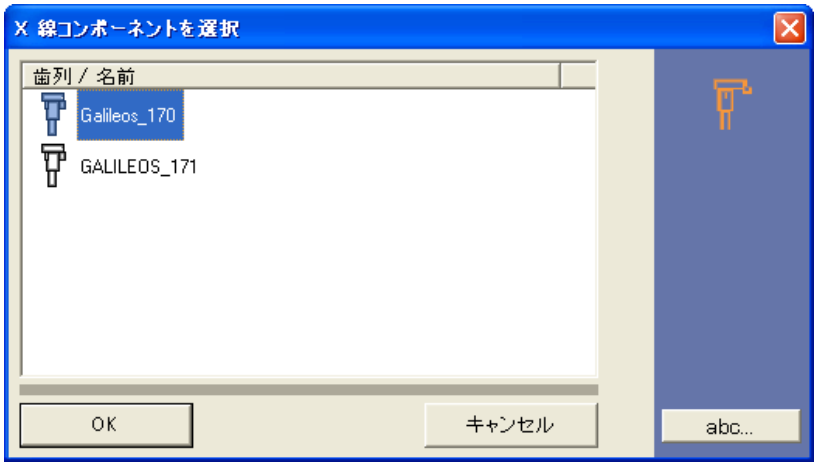
または

➢ メニューバー " 画像 " から、メニュー項目 "3D スキャン " を選択します。

複数の 3D X 線撮影装置による操作

複数の X 線撮影装置が診療所に設置されネットワーク接続されている場合、3D X 線撮影を行う前に、X 線印象採得装置を選択する必要があります。装置の選択は、" 歯列 / 名前 " 欄で希望の装置をクリックして実行します。選択すると、青いバーでハイライト表示されます。

選択ダイアログボックス



疑問符の付いた印象採得装置は、電源が入っていない可能性があります。

取消し線が付けられた装置は使用中の可能性があります。

X 線印象採得装置を選択すると、採得ユニットと呼び出し側のコンピュータ間の接続確立方法を示すダイアログボックスが表示されます。これらのダイアログボックスには、接続エラーが発生した場合の重要な情報が表示されます。

画像の採得

"X 線待機中 " メッセージが表示されると、X 線撮影装置はコンピュータ側で利用可能になります。これで撮影準備は完了です。

さらにいくつかのメッセージが表示された後、最後にデータ転送の進捗を示すダイアログボックスが表示されます。このとき、安全上の理由から " 終了 " ボタンが利用できませんので注意してください。

別の X 線撮影装置は、自動的に認識され、システムによって区別されます。

SIDEXIS で X 線撮影中は、印象採得ダイアログボックス内で警告として緑色のインジケータが点滅します。

⚠ 注意

このような準備ダイアログボックスが表示されない、またはダイアログボックスのインジケータが点滅しない場合は、問題が解決するまで ORTHOPHOS で撮影できません。

" 終了 " ボタンを押すか、[Esc] キーを押すと、撮影待機状態が終了します。一度撮影が開始されると、GALILEOS からしか停止できません。

3.6.6 GALILEOS によるパノラマ X 線画像採得

説明

GALILEOS システムでは、GALAXIS 視覚化ソフトウェアを使用せずに、パノラマビューが作成できます。

コマンド

GALILEOS の取扱説明書を参照してください。

3.6.7 ビデオ撮影

説明

この項では SIDEXIS XG の " 検査 " におけるビデオ撮影の統合を説明します

機能

基本的に、SIROCAM のライブビデオ画像は、カメラをホルダーから取り出すと起動します。起動した後は、フットスイッチを使用して、表示されているライブ画像を停止（静止画像）させるか、実際のライブ画像の表示を行うことができます。口腔外ビデオカメラが接続されている場合、SIROCAM をホルダーにつけたままでフットスイッチを作動して口腔外ライブ画像をアクティブにできます。

システムに SIROCAM と口腔外ビデオカメラが装備されている場合、SIROCAM をホルダーから外している間、すべての関連コマンドが SIROCAM 対象となります。SIROCAM がホルダーに入っているときは、口腔外カメラが優先します。ただし、アクティブなビデオ画像のコンテキストメニューで 2 つのカメラを切り替えることも可能です。

フットスイッチによる制御で撮影を行う方法のほかに、ソフトウェアユーザーインターフェイスで使用できるコントロールオプションがあります。これらについては、次で説明します。

3.6.7.1 ライブビデオ画像（SIROCAM）

機能の直接アクティブ化

➢ SIROCAM をホルダーから外します。

↳ ライブビデオ画像が開始されます。

注記

必要に応じて、ビデオ画像のポップアップメニューで SIROCAM に切り替えます。

機能を間接アクティブ化

最初に空のビデオウィンドウを開いて開始することもできます。

➢ ボタンをクリックします。

または

➢ ホットキー : [Ctrl] ＋ [Shift] ＋ [V] キーを同時に押します。

または

➢ メニューバー " 画像 " から、メニュー項目 " ビデオ " を選択します。

↳ 空の白いウィンドウが表示されます。

➢ ここで、SIROCAM をホルダーから外します。

↳ ライブビデオ画像が開始されます。

3.6.7.2 ライブビデオ画像の開始（全貌撮影）

機能のアクティブ化

➢ SIROCAM がホルダーに入っているときは、メニューバー " 画像 " を使用して、メニュー項目 " ビデオ " を選択します。

↳ ライブビデオ画像が開始されます。

注記

必要であれば、ビデオ画像のコンテキストメニューで全貌カメラに切り替えます。

3.6.7.3 ビデオの開始 / 停止

ビデオの停止（ライブ画像 > 静止画像）

➢ 画像のコンテキストメニューで、メニュー項目 " ビデオの開始 / 停止 " を選択します。

または

➢ ホットキー : "[Enter]" キーを押します。

または

➢ フットスイッチを短く踏みます（スイッチを放すと画像が停止します）。

ビデオ開始（静止画 > ライブ画像）

➢ 画像のコンテキストメニューで、メニュー項目 " ビデオの開始 / 停止 " を選択します。

または

➢ ホットキー : "[Enter]" キーを押します。

または

➢ ハードウェアのフットスイッチを短く踏みます。

3.6.7.4 撮影（ビデオ静止画像 > 保存）

説明

撮影方法は、SIROCAM が導入されているシステムやトリートメントセンターの種類によって数通りあります。

機能のアクティブ化

➢ ホットキー : [Ctrl] ＋ [S] キーを同時に押します。

↳ 現在の静止画像がデジタル化され、新しいライブ画像が生成されます。

注記

デジタル化されたビデオ画像は、自動的には保存されません。

追記 1

例 : **SIROCAM 2**

➢ フットスイッチを長めに踏みます（約 2 秒）。

↳ この場合、現在の静止画がデジタル化された後に自動的に保存されます。

↳ 保存後に、新しいライブ画像が作成されます。

注記

詳細は、トリートメントセンターの取扱説明書を参照してください。

追記 2

例 : **SIVISION 3** ドクターユニットに内蔵の SIROCAM 付き

- **SIVISION 2**
- **SIVISION 3** ドクターユニットに内蔵の SIROCAM 付き

➢ トリートメントシステムで該当機能を実行します（通常、「C+」フットスイッチと [S] キーを押す、または「C」フットスイッチを左に動かすことで実行）。

注記

詳細は、トリートメントセンターの取扱説明書を参照してください。

3.6.7.5 撮影をキャンセルしてビデオ画像を閉じる

機能のアクティブ化

✓ **SIROCAM** を使用したライブ画像モード**のみ**

➢ SIROCAM を中断します。

または

✓ ビデオライブ画像および静止画像

➢ ホットキー : [Del] キーを押します。

注記

X 線撮影やビデオ撮影とは異なり、ライブビデオ画像はズームできません。低解像度モニター（800×600 ピクセル以下）では、ライブビデオ画像は画面マージンでクリップされます。

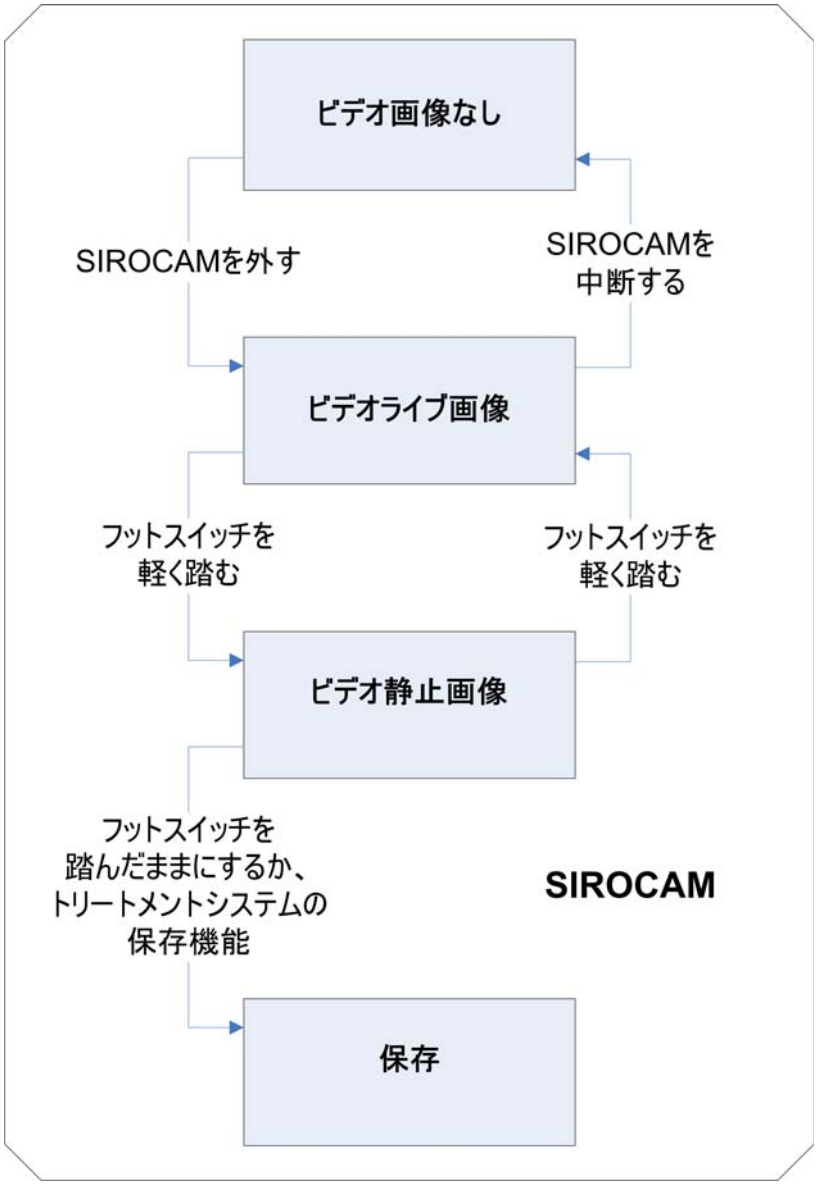
3.6.7.6 オーバービュー表示

次に、画像の関連図を示します。

SIROCAM

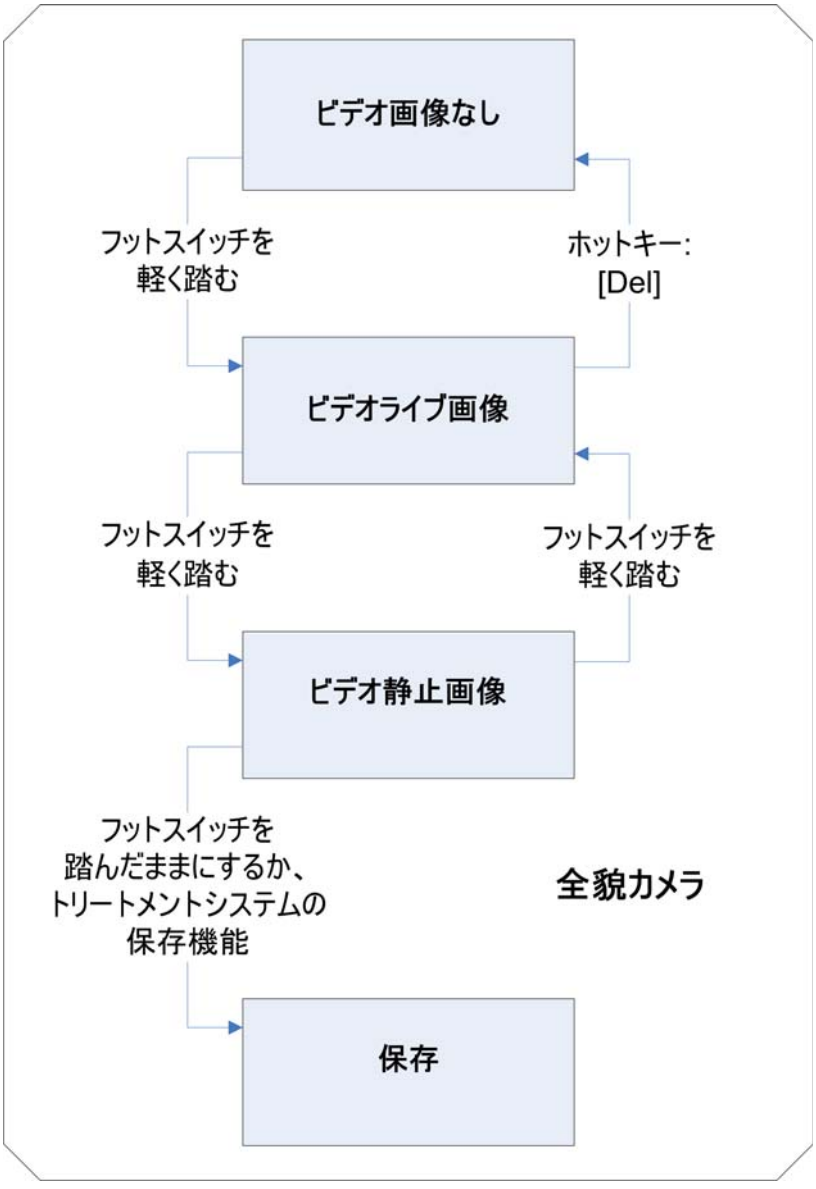
SIROCAM をホルダーから外すと、追加で接続された全貌カメラより優先されます。

ただし、現在アクティブなビデオ画像のポップアップメニューで口腔外カメラに切り替えることができます（コンテキストメニューは右クリックで開きます）。



全貌カメラ

SIROCAM をホルダーから外すと、追加で接続された全貌カメラより優先されます。ただし、現在アクティブなビデオ画像のポップアップメニューで口腔外カメラに切り替えることができます（コンテキストメニューは右クリックで開きます）。



3.7 分析ツール

説明

分析ツールを使用すると、X 線およびビデオ撮影の解釈がより簡単になります。

3.7.1 ワークスペース内でオブジェクトを選択する

説明

標準のマウスポインタを使用して、ワークスペース内のオブジェクトを選択します。

これは、矢印の形をしています。

適用範囲

ワークスペース内のすべてのオブジェクト

機能のアクティブ化

➢ ボタンをクリックします。

または

➢ メニューバー " 分析 " から、メニュー項目 " 選択 " を選択します。

機能

ワークスペース内でオブジェクトを選択する方法は、複数あります。

単一選択 :

1. 選択するオブジェクトの上に標準のマウスポインタを移動します。
2. 左マウスボタンでオブジェクトを選択します。

複数選択 :

1. [Shift] キーと [Ctrl] キーを押したままにします。
2. 選択するオブジェクトの上に標準のマウスポインタを移動して、左クリックで選択します。
3. 制御装置 [Shift] と [Ctrl] を放します。

領域選択 :

1. 左マウスボタンを押したまま、使用するオブジェクトの周りに選択フレームを描きます。
2. 左マウスボタンを放します。

3.7.2 オリジナル画像の復元

説明

" 原画 " 機能を利用すると、いずれの時点でも、すでに行った変更をすべてを破棄して、オリジナルビューに戻ることができます。このコマンドでは、画像フィルタを含むすべての画像操作だけでなく、ワークスペース内での画像の位置も対象となります。

注記
画像内に配置したオブジェクトは破棄されます。

適用範囲

この機能は、X 線画像とビデオ画像に使用できます（ライブ画像と静止画像には使用できません）。

この機能では、保存されているオリジナル画像に戻るため、保存されていない画像には使用できません。

機能のアクティブ化

➢ ボタンをクリックします。

または

➢ ホットキー : [Ctrl] ＋ [Y] キーを同時に押します。

または

➢ ポップアップメニューから " 原画 " を選択します。

または

➢ メニューバー " 分析 " から、メニュー項目 " 原画に戻す " を選択します。

注記

安全上の理由から、変更を元に戻す前に、コマンドの再確認を求めるメッセージが表示されます。

3.7.3 測定ツール

3.7.3.1 距離計測

説明

この機能の目的は、X 線画像の寸法、距離、またはサイズ比を決定するためです。また、補間点を設定することにより、曲線も測定できます。

⚠ 注意

距離計測、口腔内撮影、および ORTHOPHOS 撮影の場合は、必ず基準オブジェクトを基準として使用してください。「距離計測結果の補正 [➔ 98]」の項を参照してください。

注記

長さは相対値で表されます。

相対値は、画像採得に使用したセンサーのサイズによって異なります。

また、相対値はインポートした画像にも適用されます。

注記

長さを正確に測定するために必要な情報がインポートした画像やビデオ撮影画像に含まれていない場合、測定結果がピクセル値でしか表示されないことがあります。

たとえば、SIDEXIS 以外の装置で撮影された場合などです。

ただし表示は〝距離計測キャリブレーション〟機能を使用してミリメートルの単位に切り替えることができます（「距離計測結果の補正 [➔ 98]」の項を参照してください）。

3.7.3.1.1 適用範囲

説明

この機能は、X 線画像とビデオ画像に使用できます（ライブ画像と静止画像には使用できません）。

特殊なケース : ORTHOPHOS XG Plus による TSA 撮影

⚠ 注意

ORTHOPHOS XG Plus による TSA 撮影には、様々な拡大率があります。

部分的な画像の拡大率は、使用する技法によって異なりますので注意してください。

設定

- 左側には、部分的な横断面像（TSA）が 3 枚ありますが、それぞれの拡大率は縦方向位置によって多少異なります（倍率は、標準的な TSA の薄層と同じ）。
- 左側にあるのは、倍率が約 1:1.24（パノラマ撮影の場合とほぼ同じ）の部分的な側面像です。

ORTHOPHOS XG Plus による TSA 撮影の標準倍率

照射領域	拡大率 TSA 撮影（3x）	拡大率側面（1X）	縦方向位置
前歯	1:1.38	1:1.24	0-5
犬歯	1:1.38	1:1.24	6-14
子臼歯	1:1.34	1:1.24	15-35
臼歯	1:1.40	1:1.24	36-65

注意 : 層中心にあるオブジェクトと関連する正確な位置決めの点から見た場合、いずれの拡大率も近似値です。

3.7.3.1.2 測定

測定ツールのアクティブ化

➢ ボタンをクリックします。

または

➢ メニューバー " 分析 " から、" 距離計測 " 機能を選択します。

単純な線の測定

1. マウスポインタで始点を決定します。
2. マウスの左ボタンをクリックして、始点を確定します。
3. 測定する終点までマウスポインタをドラッグします。

   ↳ 始点と終点が線で結ばれます。
4. マウスの左ボタンをダブルクリックして、測定された長さを確定します。

複数の補間点にまたがる長さの測定

1. マウスポインタで始点を決定します。
2. マウスの左ボタンをクリックして、始点を確定します。
3. 測定する最初の補間点までマウスポインタをドラッグします。
4. マウスの左ボタンをクリックして、この補間点を確定します。
5. 測定の終点まで、手順３と４を繰り返します。
   ↳ 測定した長さは、セグメントごとに延長できます。
6. マウスの左ボタンをダブルクリックして、測定された長さを確定します。

測定値の表示

- 始点と終点の間の長さは、結合線の横とプログラムウィンドウ下部のステータスバーに表示されます。
- 全長は、最後の線セグメントの横とステータスバーに表示されます。
- 線セグメント横の表示はカラーバーで強調表示され、ワークスペース内で自由に移動することができます。
  また、測定部分と測定値は破線で結ばれたままになります。

注記

複数の長さが同時に表示される場合、常にステータスバーには個々に選択した距離測定結果が表示されます。

➢ アクティブな距離測定を切り替えることで、値を比較できます。

画面の例

測定結果の保存

距離測定結果はビュー内または検査内で保存可能です。

3.7.3.2 距離計測結果の補正

説明

口腔内撮影時に、画像センサーの受光面に対し、X 線が垂直に入射されていない場合、測定された距離は、長すぎる結果になります。この場合、投影修正を行います。

注記

ユーザーによって入力された補正値は、それぞれの画像が開かれている間、アクティブであり続けます。

補正値は保存されていないため、画像が閉じられると失われます。

注記

複数の画像が表示されている場合、補正値は補正を行った現在アクティブな画像のみに適用されます。

適用範囲

この機能は 1 つ以上の距離計測結果が既に利用可能な時にのみ選択できます。

注記

補正値は、基準値の近接値である場合のみ正確さが確保されます。これは、歯牙に対するセンサーの角度が他の画像領域では異なるためです。

測定ツールのアクティブ化

➢ ボタンをクリックします。

または

➢ メニューバー " 分析 " から、" 距離計測キャリブレーション " 機能を選択します。

距離計測結果の適応

1. まず、画像の既知の基準の長さを測定します（たとえば、長さが定義された根管ファイルなど）。
2. " 距離計測キャリブレーション " ダイアログボックスを開きます。
   ↳ 以前測定した値がダイアログボックス内に"距離"として表示されます。
3. " 実測値 " 編集ボックスに、修正値として実際の値を入力します。この値は、2 つの矢印キーを使用して、0.1mm 刻みで調整できます。
   ↳ SIDEXIS XG により、計算した補正率が表示されます。
4. "OK" ボタンをクリックして、ダイアログボックスを閉じます。

↳ この画像で続けて行われるすべての距離計測では、計算済みの補正率が使用されます。

↳ 現在アクティブな補正率をユーザーに認識させるために、すべての測定値にはステータスバーおよび画像内で "ref." というラベルが付きます。

補正の非アクティブ化

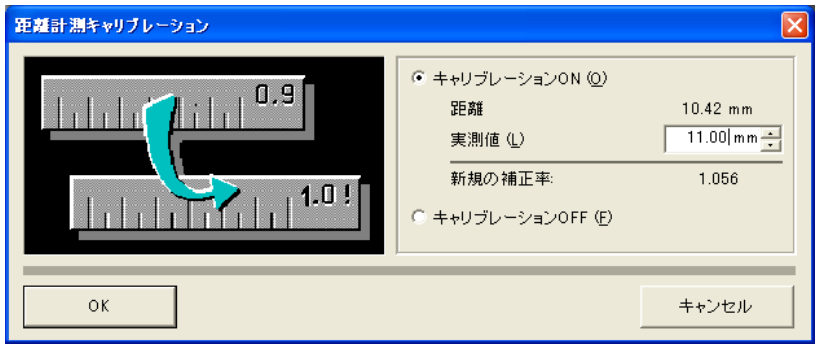
1. 長さ補正を行わずに測定を継続する場合は、" 距離計測キャリブレーション " ダイアログボックスをもう一度開き、" キャリブレーション OFF" オプションボタンをアクティブにします。
2. "OK" ボタンをクリックして、ダイアログボックスを閉じます。

例

- " 距離 " = 11.26mm
- " 実測値 " = 10.10mm
- " 新規の補正率 :" = 0,897

同一画像のすべての後続する測定に、0.879 が掛けられます。

画面の例



3.7.3.3 角度の計測

説明

SIDEXIS XG には、簡単に角度を決定するための機能も用意されています。

注記

角度は相対値で表されます。

相対値は、画像採得に使用したセンサーのサイズによって異なります。

また、これはインポートした画像にも適用されます。

適用範囲

この機能は、X 線画像とビデオ画像に使用できます（ライブ画像と静止画像には使用できません）。

インポートされた画像の場合、インポート中に対応する角度情報が検出されなかった場合、角度の決定には平方ピクセルが使用されます。

測定ツールのアクティブ化

➢ ボタンをクリックします。

または

➢ メニューバー " 分析 " から、" 角度計測 " 機能を選択します。

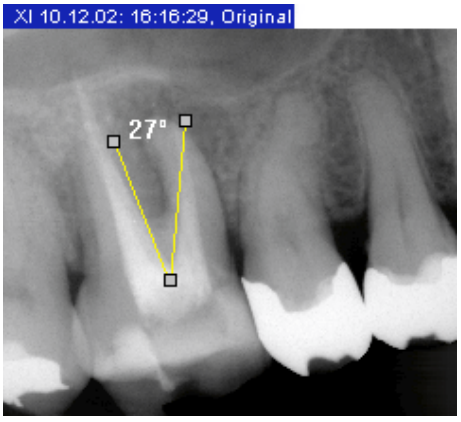
操作

角度の計測は距離計測と同様の手順で行います。

1. 角度の頂点となるポイントにマウスポインタを置きます。
2. マウスの左ボタンをクリックして、この位置を確定します。
3. マウスポインタを使用して、測定する角度の最初の辺を描きます。
4. マウスの左ボタンをクリックして、この位置を確定します。
5. マウスポインタをドラッグして、2 つ目の辺を描きます。ここで、左または右に測定できます。
6. マウスの左ボタンをクリックして、この位置を確定します。

- 角度は 180 度まで測定できます。角度は、2 辺間およびウィンドウ下部のステータスバーに表示されます。
- 画像内での角度の計測はカラーバーでハイライト表示され、ワークスペース内で自由に移動することができます。
  - また、角度計測結果と辺は破線で結ばれたままになります。

画面の例



3.7.3.4 相対的な骨密度の測定

説明

この機能を使用すると、相対的な骨密度を測定できます。絶対的な測定は、較正がないため不可能です。

ただし、相対的な骨密度計測は、定量的表現を使用して、より簡単に検査結果を確定または棄却する場合に使用できます。

注記

角度は相対値で表されます。相対値は、画像採得に使用したセンサーのサイズによって異なります。

また、相対値はインポートした画像にも適用されます。

適用例

- 歯側面のカリエスと歯周病の有無の判断
- カリエスと歯周病の進行度の判断
- 歯根の頂点の検出
- 炎症の局所診断
- 炎症の治癒または悪化の判別
- インプラントにおける骨量が増加または減少の決定

適用範囲

この測定ツールは、X 線撮影を使用しているときのみ動作します。

測定ツールのアクティブ化

➢ ボタンをクリックします。

または

➢ メニューバー " 分析 " から、" 相対的な骨密度の比較測定 " 機能を選択します。

操作

1. マウスポインタで始点を決定します。
2. マウスの左ボタンをクリックして、この始点を確定します。
3. 終点までマウスポインタをドラッグします。
   ↳ カーソルの横に現在の密度がパーセントの値で表示されます。
4. マウスの左ボタンをダブルクリックして、終点を確定します。

↳ " 相対的な骨密度分布の表示 " ウィンドウが表示されます。

3.7.3.5 相対的な骨密度分布の表示

説明

現在アクティブな画像で " 相対的な骨密度の比較測定 " 機能を使用して測定部分を決定した後、この分布図表示機能を利用して測定部分に沿った骨密度が表示できます。

> **⚠ 注意**
> 測定を行う前に ″ レリーフ ″ などのフィルタを使用することはできません。

適用範囲

この表示は、密度プロファイル測定セクションのみで動作します。

表示ダイアログボックスを開く

" 属性 " 機能を使用すると、ダイアログボックスが開きます。

> **⚠ 注意**
> 表示する測定部分を選択しておく必要があります。
>
> 測定部分全体に適用される場合に限り、平滑化フィルタを使用できます。

➢ **ホットキー :** [Alt] キーと [Enter] キーを同時に押します。

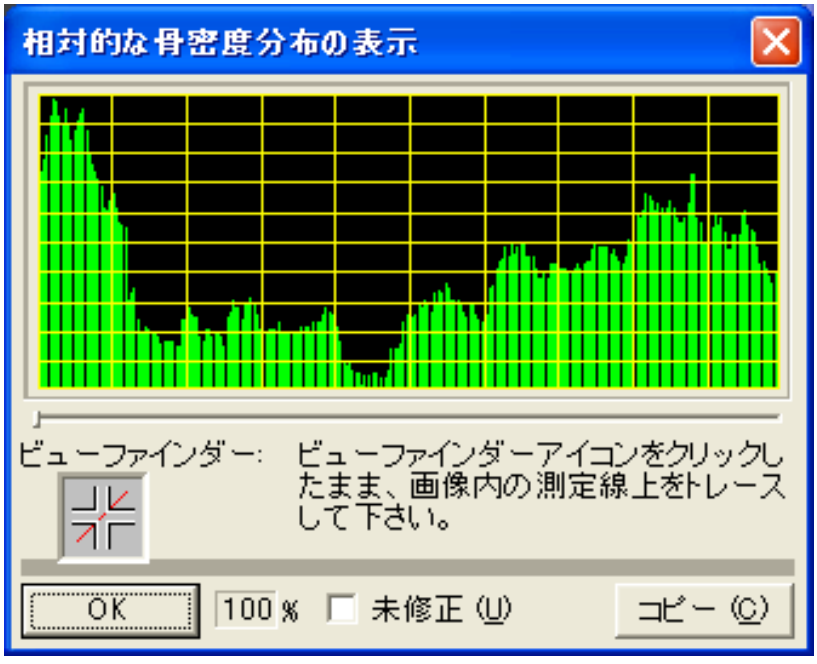
または

➢ ボタンをクリックします。

または

➢ メニューバー " 分析 " から、" プロパティ ..." 機能を選択します。

表示ダイアログボックスの要素



- 緑のバーの長さは、相対的な骨密度を表します。
  画像の明るい領域では対応する長いバーが生成され、画像の暗い領域では短いバーが生成されます。

- 最低密度に値 0 を割り当て、最高密度に最大のバーの長さを割り当てると、チャートが作成されて展開されます。
  この展開は、" 未修正 " チェックボックスをクリックすると非アクティブ化できます。

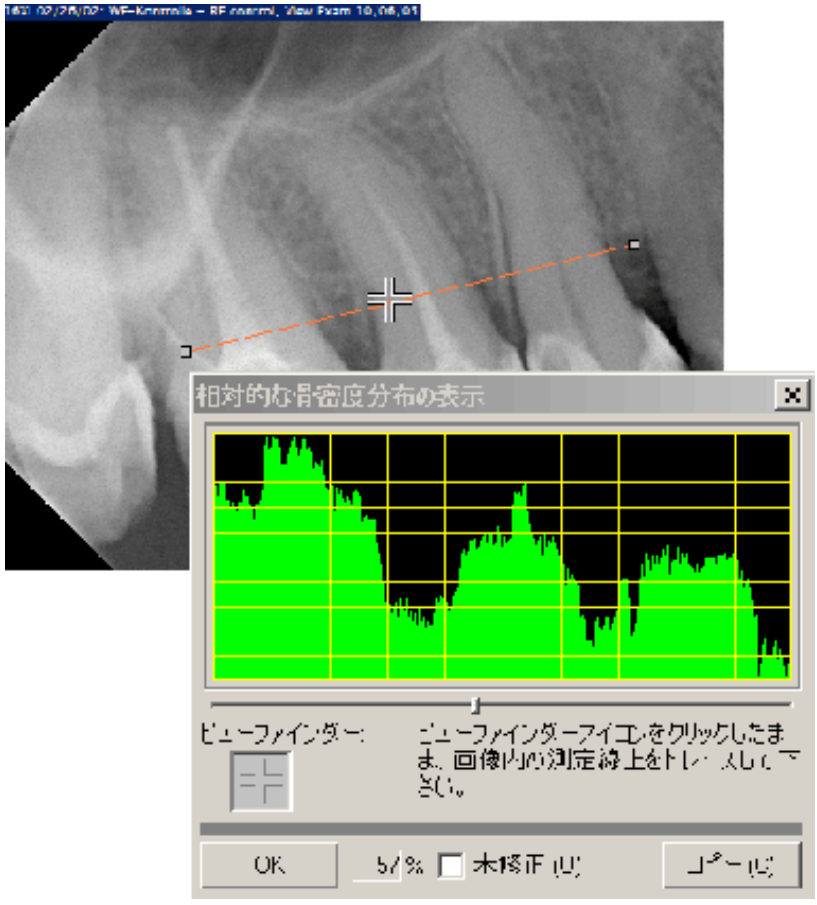
コピー

プロファイルに表示された値は、" コピー " ボタンを使用して、未修正値（0 ～ 255）として Windows のクリップボードにコピーできます。

この機能によって、ユーザーは他のプログラムでの評価を実行できます。

測定位置とチャート間の割り当て

" 相対的な骨密度分布の表示 " ダイアログボックスのビューファインダーによって、測定位置とチャートの関係を明確にできます。



1. ビューファインダー上にマウスポインタを移動します。
2. 右マウスのボタンを押したままの状態で、ファインダーのアイコンを分布図の表示から測定部分までドラッグします。

⇘ 測定部分内の現在の位置がプロファイルチャートに白い線で示され、プロファイルチャートの下に小さいスライダとして示されます。

⇘ この位置の相対的な骨密度値が "OK" ボタンの横にあるフィールドに表示されます。

3.7.4 表示ツール

3.7.4.1 画像の拡大、縮小

説明

ズーム機能を使用すると、現在アクティブな画像の表示倍率を変更できます。

拡大、縮小には区別しておくべき 2 つのタイプがあります。

- 基本の拡大、縮小では画像全体のサイズを拡大または縮小します。

  この場合、画像の表示サイズが変化します。

- もう 1 つの拡大、縮小では詳細ビューのみが変化します。

  この場合、画像の表示サイズは変化しません。

適用範囲

この機能は、X 線画像とビデオ画像に使用できます（ライブ画像と静止画像には使用できません）。

機能のアクティブ化

拡大

➢ ボタンをクリックします。

または

➢ ホットキー : [+] キーを押します。

または

➢ ポップアップメニューから " 拡大 " を選択します。

または

➢ メニューバー " 表示 "/" 画像 "/" ズーム " で、メニュー項目 " 拡大 " を選択します。

縮小

➢ ボタンをクリックします。
または
➢ ホットキー : [-] キーを押します。
または
➢ ポップアップメニューから " 縮小 " を選択します。
または
➢ メニューバー " 表示 "/" 画像 "/" ズーム " で、メニュー項目 " 縮小 " を選択します。

詳細情報

➢ ボタンをクリックします。
または
➢ ホットキー : [Ctrl] ＋ [+] キーを同時に押します。
または
➢ マウスのスクロールホイールを前方（上）に回します。
または
➢ メニューバー " 表示 "/" 画像 "/" ズーム " で、メニュー項目 " フレーム固定拡大 " を選択します。

要約情報

➢ ボタンをクリックします。

または

➢ ホットキー : [Ctrl] ＋ [-] キーを同時に押します。

または

➢ マウスのスクロールホイールを逆に回します。

または

➢ メニューバー " 表示 "/" 画像 "/" ズーム " で、メニュー項目 " フレーム固定縮小 " を選択します。

機能

拡大、縮小機能を実行するたびに、表示スケールが一段階ずつ増減します。

" 表示域 " 機能と組み合せると、選択したズーム係数が表示されます（「表示域 [➟ 106]」の項を参照してください）。

3.7.4.2 ハンド

説明

表示する画像が使用可能なウィンドウより大きい場合（ズーム係数が 1:1 より大きい場合）、スクロールバーを使用して、画像の周囲を水平または垂直に移動できます（別の画像詳細が表示されます）。

いわゆる " 手 " モードは、画像を水平および垂直方向に同時に移動させる、簡単で直感的な方法です。

適用範囲

注記

表示する画像がフルフレームモードで利用可能なウィンドウよりも大きい場合、ハンドモードが自動的に起動します。

この機能は、画像の一部しか表示されない場合に X 線撮影画像およびビデオ画像に対して使用できます（ライブ画像および静止画には使用できません）。

機能のアクティブ化

➢ ボタンをクリックします。

または

➢ ホットキー : [Ctrl] キーを押して、左マウスボタンをダブルクリックします。

または

➢ メニューバー " 分析 " から、メニュー項目 " ハンド " を選択します。

アクティブ状態の表示

この機能がアクティブな間は、マウスポインタが次のような形になります。

操作

画像ウィンドウを左クリックすると、マウスを希望の方向にドラッグして、画像の周囲を移動できます。

3.7.4.3 表示域

説明

サイズや選択したズーム係数が原因で、ワークスペースで全体を表示できない画像を表示するためのツールがあります。

- このツールを " 表示域 " と呼びます。
- " 表示域 " ツールを使用して、様々な画像領域を簡単かつ迅速に配置および表示できます。
- " 表示域 " ツールでは、現在表示されている画像の部分を明確にする一方で、この部分を直感的に 2 次元移動できます。
- 画像のズーム係数が示されます。

このため、スクロールバーやキーボード、表示されている画像部分の移動 [➔ 105] 機能の代替として使用できます。

適用範囲

この機能は、X 線画像とビデオ画像に使用できます（ライブ画像と静止画像には使用できません）。

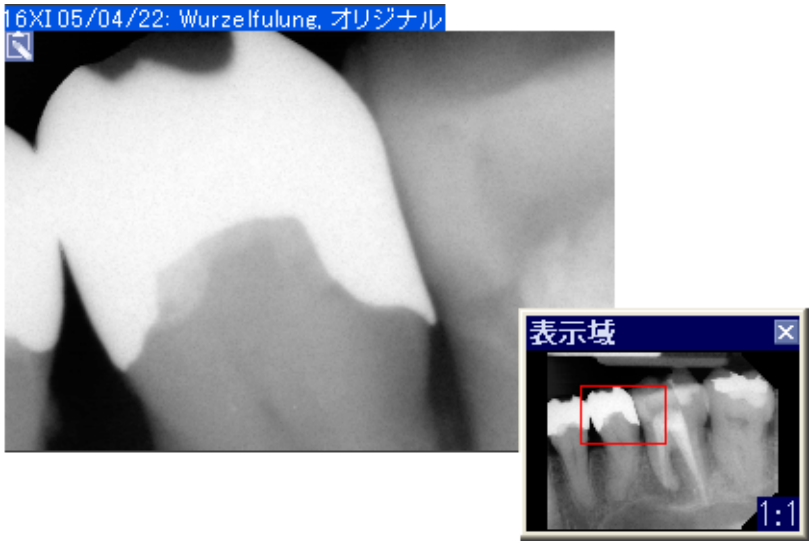
機能のアクティブ化

➢ ボタンをクリックします。

または

➢ メニューバー " 表示 " から、メニュー項目 " 拡大 " を選択します。

表示



この機能のために、追加ウィンドウがワークスペース内に表示されます。この " 表示域 " と呼ばれるウィンドウには、現在アクティブな画像の完全なコピーが小さく表示されます。

別の画像に切り替えたり画像サイズを（回転などで）変更すると、それに従って " 表示域 " も変更されます。

" 表示域 " 内では、赤色のフレームによって画像ウィンドウに表示されている領域が示されます。

画像詳細のズーム係数は、" 表示域 " ウィンドウの右下隅に表示されます。

表示域ウィンドウを使用した操作

1. マウスポインタを赤色フレーム内に置きます。
2. 左マウスボタンを押します。
3. マウスを移動させます。
   ↳ 赤色フレームがマウスポインタの動きに追随します。
4. 希望の領域に移動後、左マウスボタンを放します。

新しい画像詳細が関連画像ウィンドウに表示されます。

ハンドモードを使用した操作

画像詳細はハンドモードで移動させることができます（「表示されている画像部分の移動 [➔ 105]」の項を参照）。

追加コンテキストメニュー

" 表示域 " では、追加支援としてコンテキストメニューが提供されます。コンテキストメニューを使用して、表示された画像領域を四分円にしたり、画像の中心に位置付けることができます。

ズーム倍率と画像ウィンドウのサイズに応じて、様々に重なった部分画像が作成されます。さらに、ポップアップメニューを使用して、現在と 1 つ前の位置を（側面比較などのために）交互に切り替えることができます。

3.7.4.4 タイル表示

説明

SIDEXIS ワークスペースで複数の画像ウィンドウが同時に開いている場合、一部の画像情報が重なって見えなくなることがあります。

" タイル表示 " 機能は、開いているすべてのウィンドウが重ならないように、ウィンドウをワークスペース内に整列します。特定の状況では、これによりウィンドウサイズが小さくなることがあります。

適用範囲

この機能は、X 線画像とビデオ画像に使用できます（ライブ画像と静止画像には使用できません）。

機能のアクティブ化

➢ ボタンをクリックします。

または

➢ メニューバー " 表示 "/" 画像 "/" 整列 " で、メニュー項目 " タイル表示 " を選択します。

3.7.4.5 オーバービュー表示

説明

" タイル表示 " と同様の機能です。
また、可能な場合はスクロールバーを表示しないでズームを適用します。スクロールバーは、ズーム係数が最低値に達した場合のみ表示されます。これにより、読み込んだすべての画像を概要の形式で表示できます。

適用範囲

この機能は、X 線画像とビデオ画像に使用できます（ライブ画像と静止画像には使用できません）。

機能のアクティブ化

➢ ボタンをクリックします。
または
➢ メニューバー " 表示 "/" 画像 "/" 整列 " で、メニュー項目 " オーバービュー " を選択します。

3.7.4.6 歯列概要

説明

" タイル表示 " 機能とは対照的に、このコマンドは、開いている画像ウィンドウを解剖学的位置に従ってすべて並べ替えます。この整列では、表示される歯の数を指定した口腔内 X 線画像とビデオ撮影画像の両方が考慮されます。明確な割り当てのない口腔内撮影画像や、他のすべての画像タイプは、ワークスペースの中央に表示されます。すべてのウィンドウにズームが適用され、X 線画像全体が見えるように調整されます。

口腔内 X 線撮影画像を並べているときに、複数のウィンドウが同一の位置にあるように見える場合、これらは 1 フレームの幅ずつ重ねてカスケード表示されます。後ろに隠れている画像ウィンドウは、フレームをクリックすると前面に表示されます。

適用範囲

この機能は、X 線画像とビデオ画像に使用できます（ライブ画像と静止画像には使用できません）。

機能のアクティブ化

➢ ボタンをクリックします。

または

➢ メニューバー " 表示 "/" 画像 "/" 整列 " で、メニュー項目 " ステータス表示 " を選択します。

画面の例

3.7.4.7 カスケード表示

説明

このウィンドウ機能は、" タイル表示 " 機能と逆の動作をします。

開いているウィンドウが、カスケードになるように重ねて並べられます。

- この場合、すべてのウィンドウタイトルが見えます。
- ここでも、各ウィンドウのサイズを調整できます。
- ウィンドウをクリックしてアクティブ化し、前面に表示します。

適用範囲

この機能は、X 線画像とビデオ画像に使用できます（ライブ画像と静止画像には使用できません）。

機能のアクティブ化

➢ ボタンをクリックします。

または

➢ メニューバー " 表示 "/" 画像 "/" 整列 " で、メニュー項目 " カスケード表示 " を選択します。

3.7.4.8 フルフレームモード

説明

現在アクティブな画像ウィンドウが拡大されて、使用可能なワークスペース全体に広がります。

適用範囲

この機能は、X 線画像とビデオ画像に使用できます（ライブ画像と静止画像には使用できません）。

機能のアクティブ化

➢ 画像をダブルクリックします。

または

➢ ボタンをクリックします。

または

➢ メニューバー " 表示 "/" 画像 " で、メニュー項目 " 中央表示 " を選択します。

または

➢ " 拡大画像タイトル " 機能がアクティブである場合 : 画像タイトルのボタンをクリックします（「オプション [➟ 188]」の項を参照してください）。

機能の終了

➢ 画像をダブルクリックします。

または

➢ ホットキー : [Esc] キーを押します。

または

➢ ボタンをクリックします。

または

➢ メニューバー " 表示 "/" 画像 " で、メニュー項目 " 元の表示に戻す " を選択します。

または

➢ " 拡大画像タイトル " 機能がアクティブである場合 : 画像タイトルのボタンをクリックします（「オプション [➟ 188]」の項を参照してください）。

追加情報

- フルフレームモードでは画像を移動することはできません。
- 表示されている画像詳細が 1 つのみの場合、ハンドモードが自動的に起動します（「表示されている画像部分の移動 [➙ 105]」の項を参照してください）。
- フルフレームモードにおいて画像を回転させると、後で通常モードに切り替えることができます。

3.7.4.9 ズーム

説明

この機能を使用すると、個々の画像詳細を拡大できます。

適用範囲

この機能は、X 線画像とビデオ画像に使用できます（ライブ画像と静止画像には使用できません）。

機能のアクティブ化

➢ ボタンをクリックします。

または

➢ メニューバー " 表示 " から、メニュー項目 " ズーム " を選択します。

↳ 検査ワークスペースの右上隅にズームウィンドウが表示されます。

操作

1. マウスポインタをズームウィンドウ内に置きます。
2. 左マウスボタンを押したまま、マウスポインタをズームウィンドウの外までドラッグします。
   ↳ 選択フレームが表示されます。ズームウィンドウに、該当する画像詳細と選択したズーム率が表示されます。
3. 使用する画像詳細を見つけたら、左マウスボタンを放します。

↳ 選択フレームが非表示になります。

↳ 選択フレームの最後の内容が、ズームウィンドウに表示されます。

ズームウィンドウがアクティブである間、手順 1 から必要なだけズーム機能を繰り返すことができます。

ズームウィンドウの移動

ズームウィンドウは、タイトルバーをクリックしてマウスの左ボタンを押したままドラッグすることで、画像内の任意の位置に移動できます。

ズーム倍率の変更

ズーム倍率は、ウィンドウ下のスライダを使用して 1:1 から 8:1 の間で設定できます。ズーム倍率は、" ズーム 3:1" のように、ズームウィンドウのタイトルバーに表示されます。

ズームの非アクティブ化

別の機能がアクティブ化されると、ズームは自動的に非アクティブ化されます。

ズーム機能は、ズームウィンドウの外側を左クリックするか、キーボードの任意のキーをクリックすることで、手動で非アクティブ化できます。

3.7.4.10 回転

説明

この機能を使用すると、選択した方向に画像が回転します。画像は 1 段階ごとに回転させることができ、機能を複数回選択すると元の位置に戻ります。

右に 90 度回転

➢ ボタンをクリックします。

または

➢ ホットキー : [Ctrl] ＋ [R] キーを同時に押します。

または

➢ メニューバー " 表示 "/" 画像 "/" 回転 " で、メニュー項目 " 右に回転 " を選択します。

左に 90 度回転

➢ ボタンをクリックします。

または

➢ ホットキー : [Ctrl] ＋ [L] キーを同時に押します。

または

➢ メニューバー " 表示 "/" 画像 "/" 回転 " で、メニュー項目 " 左回転 " を選択します。

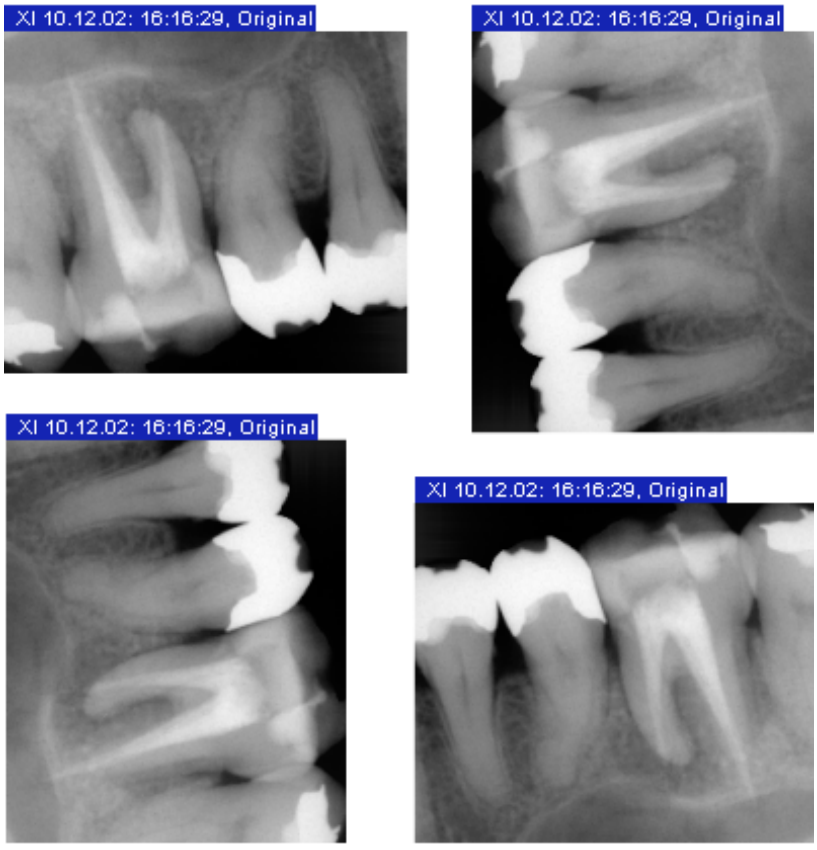
180 度回転

➢ ボタンをクリックします。

または

➢ メニューバー " 表示 "/" 画像 "/" 回転 " で、メニュー項目 " 画像を 180° 回転 " を選択します。

画面の例



3.7.4.11 ホットキーを使用して画像間をジャンプする

説明

複数の画像を含む検査が開いている場合、[Ctrl] ＋ [Tab] で次の画像を選択することができます。

特にフルフレームモードにおいて操作の快適性が向上します。

機能のアクティブ化

➢ ホットキー : [Ctrl] ＋ [Tab] キーを同時に押します。

3.7.4.12 ルーラーの表示

説明

オプションで X 線画像のルーラーを表示できます。

このルーラーはミリメートル単位です。

アクティブ化と非アクティブ化

➢ メニューバー " 表示 "/" 画像 " で、メニュー項目 " ルーラ " を選択します。

3.7.5 画像フィルタ

説明

SIDEXIS XG は、画像情報の準備、解釈および分析のための強力で豊富な画像処理機能群を提供します。次で説明する処理機能は、必ず現在アクティブな画像に適用されます。

基本

画像情報処理の機能を理解するために、ここではいくつかの方針と関連用語を説明します。

X 線センサーとビデオカメラのデジタルデータは、コンピュータで表示可能な画像情報に処理されます。情報の最小要素はピクセルと呼ばれます。この言葉は「画素（picture element）」という用語に由来します。取り込まれた画像は個々のスキャンポイント（ピクセル）に分割され、数値コードとしてコンピュータのメモリに格納されます。各スキャンポイント（ピクセル）は、キャプチャした小さい画像領域のグレーまたはカラーの値に対応して割り当てられた値です。

画像は、コンピュータ内で一連の明確に定義された数値として使用できるため、画像情報は値を選択的に変更することで処理できます。画像処理結果は、画面ピクセルとして画像に表示されるか、印刷ピクセルとして印刷できます。

各画像では、多数の単一ピクセルを個別に数値として定義する必要がありますが、画像ファイルは非常に大きくなります。このため、これらのデータボリュームを管理するには、大容量の RAM（処理用）と大きな容量のメモリが必要です。

ピクセル変更の特性や変更するピクセルの量によって、画像データ処理はある程度の時間がかかります。

⚠ 注意

上記の理由から、同時に開く画像の数を制限する必要があります。多数の画像を開くと、システム全体のパフォーマンスが低下し、処理時間が長くなります。画像の大きさも問題を引き起こす要因となります。したがって、不要になった画像は常に閉じることが必要です。

3.7.5.1 明度とコントラストの調節

説明

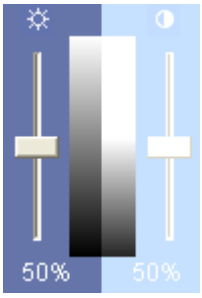
画像の詳細を強調またはより正確に表示する場合や、画質を向上させる場合には、ディスプレイの明度およびコントラストを調節することができます。

適用範囲

この機能は、X 線画像とビデオ画像に使用できます（ライブ画像と静止画像には使用できません）。

調節機能は選択した画像に適用され、任意の時点でアクティブにできます。

明度の調整



➢ 左スライダで明度を調整します。

または

➢ ホットキー : 上向き矢印キーを押します。

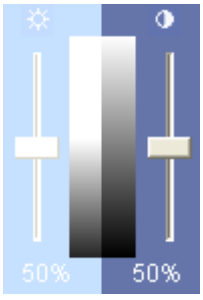
↳ 画像が明るくなります。

または

➢ ホットキー : 下向き矢印キーを押します。

↳ 画像が暗くなります。

コントラストの調整



➢ 右スライダでコントラストを調整します。

または

➢ ホットキー : 右向き矢印キーを押します。

↳ コントラストが減少します。

または

➢ ホットキー : 左向き矢印キーを押します。

↳ コントラストが増加します。

表示

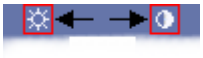
調整の強さは、2 つのスライダ間のグレースケール領域に反映されます。

明度やコントラストに対して行ったそれぞれの変更は、基本値を 50% としてスライダの下に表示されます。

操作

1. 該当するスライダのコントロールボタンの上にマウスポインタを置きます。
2. 左マウスボタンを押したままにします。
3. コントロールボタンをマウスで上下にドラッグします。
   ↳ スライダの設定に合わせて、選択した画像が変化します。
4. 目的の表示設定が得られたら、左マウスボタンを放します。

値のリセット



➢ スライダの上にあるアイコンをクリックします。

↳ 値が 50%（＝ 50%）にリセットされます。

3.7.5.2 マウスアジャスタを使った明度とコントラストの設定

説明

マウスアジャスタと呼ばれる機能は、輝度およびコントラストの調整が簡単にできます。この機能では、輝度とコントラストを同時に調整できます。

適用範囲

この機能は、X 線画像とビデオ画像に使用できます（ライブ画像と静止画像には使用できません）。

調整は、選択された画像に適用されます。

機能のアクティブ化

➢ ボタンをクリックします。

または

➢ ホットキー : [Ctrl] ＋ [Shift] ＋ [M] キーを同時に押します。

または

➢ メニューバー " 分析 " から、メニュー項目 " マウスアジャスター " を選択します。

機能の表示

この機能がアクティブな間は、検査ワークスペース内のマウスポインタが以下のような形になります。

操作

1. 検査ワークスペースで、左マウスボタンを押したままにします。
2. 必要に応じてマウスを動かします。
   - 縦に動かすと、輝度が変わります。
   - 横に動かすと、コントラストが変わります。
   - 値の変更は、関連する読取り専用のボックスとグレースケール領域およびスライダで即座に確認できます。
3. 目的の表示設定が得られたら、左マウスボタンを放します。

マウスアジャスタがアクティブな間は、何度でも手順 1 以降を繰り返して調整できます。

3.7.5.3 画像フィルタの関心領域を決定する

説明

通常、画像処理機能およびコマンドは、画像全体に影響を与えます。ただし、これらを選択的に画像の領域に適用する（特にフィル多機能のグループや、輝度およびコントラストの設定）ことは可能です。

操作する画像領域を制限することで、フィルタ操作はより高速化され、別個の部分を他の方法で処理することができます。

適用範囲

この機能は、X 線画像とビデオ画像に使用できます（ライブ画像と静止画像には使用できません）。

対象領域を選択すると、その後のフィルタ操作は定義された画像領域のみに適用されます。フィルタは、選択された対象領域のみに作用します。

対象領域は、削除するか、新しい領域で置き換えられるまで、アクティブであり続けます。

機能のアクティブ化

➢ ボタンをクリックします。

または

➢ メニューバー " 分析 " から、メニュー項目 " 範囲指定 " を選択します。

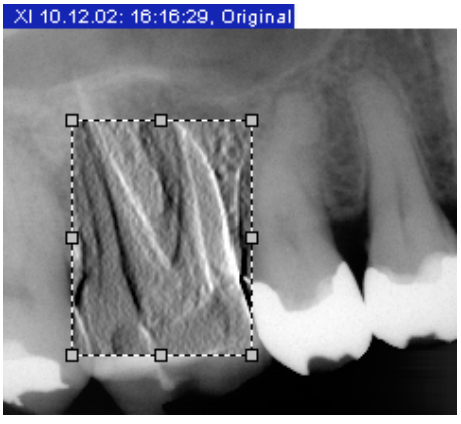
機能の表示

この機能がアクティブな間は、マウスポインタが次のような形になります。

対象領域の定義

1. 対象領域の角にマウスポインタを置きます。
2. 左マウスボタンを押したまま、対象領域の周りにフレームを描きます。
   ↳ 長方形を描くと、選択領域の中とウィンドウ下部のステータスバーにサイズが示されます。
3. 左マウスボタンを放します。

選択した関心領域が点線の枠で囲まれます。



画面の例

対象領域の移動

対象領域の内側にマウスポインタを置き、左マウスボタンをクリックして、領域をドラッグして移動します。

対象領域の削除

1. マウスポインタを対象領域に置きます。
2. 右マウスボタンを押します。
3. " 削除 " 機能をクリックします。

↳ 対象領域が画像から削除されます。

3.7.5.4 関心領域の明度とコントラストの調節

説明

対象領域の輝度およびコントラストの調整は、フィルタの場合とは別の作用があります。

- " 対象の範囲内のみ " 機能が選択されている場合のみ、個々の分析領域の明度とコントラストの設定を調整できます。
- 明度とコントラストの設定は、" 適用 " 機能を選択した後にのみ、対象領域に永久的に適用されます（「明度とコントラストの設定を適用する [➔ 118]」の項を参照）。

適用範囲

対象領域の X 線画像とビデオ画像（ライブ画像と静止画像は含まれない）。

フィルタのアクティブ化

➢ ボタンをクリックします。

または

➢ メニューバー " 分析 "/" 明度 / コントラストの調整 " で、メニュー項目 " 対象の範囲内のみ " を選択します。

注記

″ 対象の範囲内のみ ″ 機能を使用しない場合は、選択した明度およびコントラストの値が画像全体に適用されます。

例

1. メニュー " 分析 " を使用して、" 範囲指定 " 機能をアクティブ化します。
2. メニュー項目 " 明度 / コントラストの調整 " のメニュー " 分析 " を使用して、" 対象の範囲内のみ " 機能をアクティブ化します。
3. マウスで、使用する X 線画像の対象領域を定義します。マウスポインタの形が異なっていることに注意してください。

これで、対象領域は輝度およびコントラストのコントロールを使用して変更できます。

明度とコントラストの調節が完了したら、" 適用 " コマンドでその設定を適用します。

3.7.5.5 明度とコントラストの設定を適用する

説明

" 適用 " 機能を使用して、選択した明度とコントラストの設定を対象領域に恒久的に適用します。

適用範囲

X 線画像とビデオ画像（ライブ画像と静止画像は含まれない）

機能のアクティブ化

➢ ボタンをクリックします。
または
➢ メニューバー " 分析 "/" 明度 / コントラストの調整 " で、メニュー項目 " 適用 " を選択します。

3.7.5.6 反転

説明

" 反転 " 機能は、画像ピクセルの輝度値を反転します。この処理の間に、輝度およびコントラストの値がそれぞれ調整されます。X 線のポジティブまたはネガティブビューは、この方法で取得できます。

注記

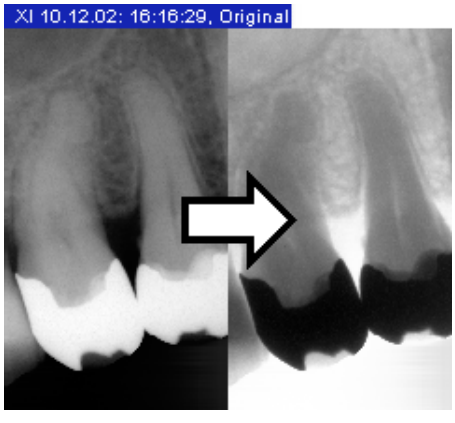
この操作は、機能を再度アクティブ化することで取り消すことができます。

適用範囲

このフィルタは、X 線撮影を使用しているときのみ動作します。

フィルタのアクティブ化

➢ ボタンをクリックします。
または
➢ ホットキー : [Ctrl] ＋ [I] キーを同時に押します。
または
➢ ポップアップメニュー " フィルター " から " 反転 " を選択します。
または
➢ メニューバー " 分析 "/" フィルター " で、メニュー項目 " 反転 " を選択します。



画面の例

3.7.5.7 色

説明

画像の細部がより鮮明に識別できるように、擬似カラーモードで画像を表示できます。画像のグレースケール値を、中間調の画像よりも肉眼で見分けやすい色で置き換えます。

輝度およびコントラスト調整の影響

カラー表示は、輝度とコントラストの調整による影響を受けます。画像処理機能は、擬似カラーモードでも使用できます。

適用範囲

このフィルタは、X 線撮影を使用しているときのみ動作します。

フィルタのアクティブ化

➢ ボタンをクリックします。

または

➢ ホットキー : [Ctrl] ＋ [F] キーを同時に押します。

または

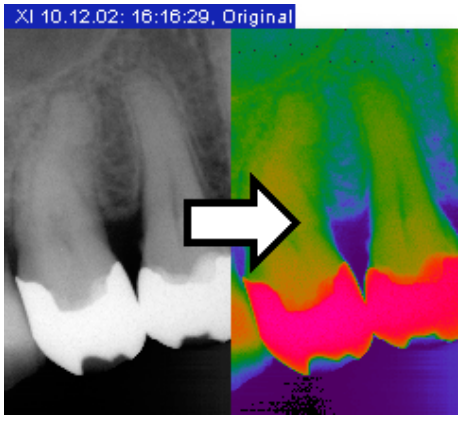
➢ ポップアップメニュー " フィルター " から " カラー " を選択します。

または

➢ メニューバー " 分析 "/" フィルター " で、メニュー項目 " カラー " を選択します。

注記

この動作は、機能を再度アクティブ化することで元に戻すことができます。



画面の例

3.7.5.8 コントラストの最適化

説明

画像フィルタは、画像の現在のグレースケール分布を分析し、非線形統計方式を使用してそれらを最適化します。

推奨する使用方法

この機能は、コントラスト分布が使用可能なグレースケール値の範囲全体に渡っていない画像に使用することを特に推奨します。

> **⚠ 注意**
>
> コントラスト最適化フィルタは、関連するローカル環境を最適化するために評価し、オリジナル画像の輝度値が同一でフィルタされた画像に異なるグレースケールを適用します。

適用範囲

このフィルタは、X 線撮影を使用しているときのみ動作します。

フィルタのアクティブ化

➢ ボタンをクリックします。

または

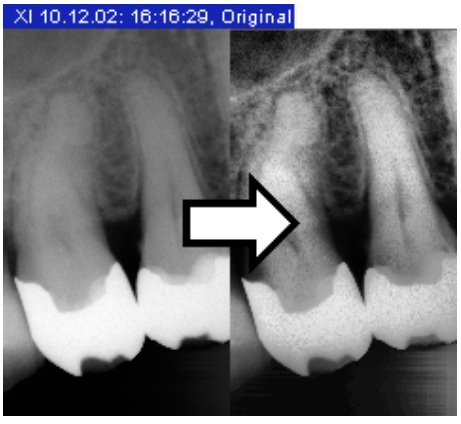
➢ ポップアップメニュー " フィルター " から " コントラストの最適化 " を選択します。

または

➢ メニューバー " 分析 "/" フィルター " で、メニュー項目 " コントラストの最適化 " を選択します。

例

たとえば、非常にコントラストの低い「不鮮明な」画像の細部を見ることができます。



画面の例

3.7.5.9 平滑化

説明

" 平滑化 " フィルタは、コントラストの非常に高い画像やノイズの多い画像を改善する上で役立ちます。

これは、隣接するピクセルのコントラストを低減または平均化します。後述の " シャープネス " フィルタとは対照的に、このフィルタでは角が滑らかになります。滑らかな印象の画像が作成されます。画像全体の鮮明度は低下します。

注記

″ 平滑化 ″ および ″ シャープネス ″ フィルタ操作の効果は、相互に打ち消しあうことはありません。

適用範囲

このフィルタは、X 線撮影を使用しているときのみ動作します。

フィルタのアクティブ化

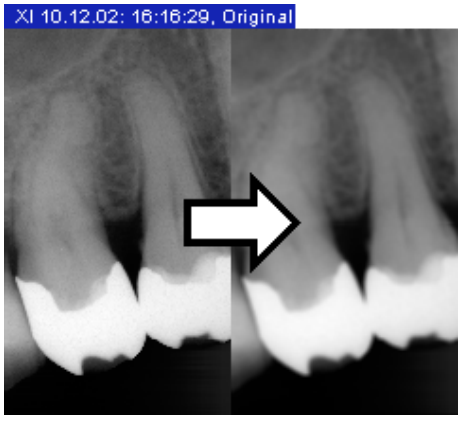
➢ ボタンをクリックします。

または

➢ ポップアップメニュー " フィルター " から " 平滑化 " を選択します。

または

➢ メニューバー " 分析 "/" フィルター " で、メニュー項目 " 平滑化 " を選択します。



画面の例

3.7.5.10 シャープネス

説明

" 平滑化 " フィルタとは反対に、このフィルタでは隣接するピクセルのコントラストを増加します。

この機能は、縁や輪郭を強調する効果があり、鮮明な印象の画像が作成されます。

注記

これは、ノイズが多い画像の画質に悪影響を与えることがあります。

注記

″ 平滑化 ″ および ″ シャープネス ″ フィルタ操作の効果は、相互に打ち消しあうことはありません。

適用範囲

このフィルタは、X 線撮影を使用しているときのみ動作します。

フィルタのアクティブ化

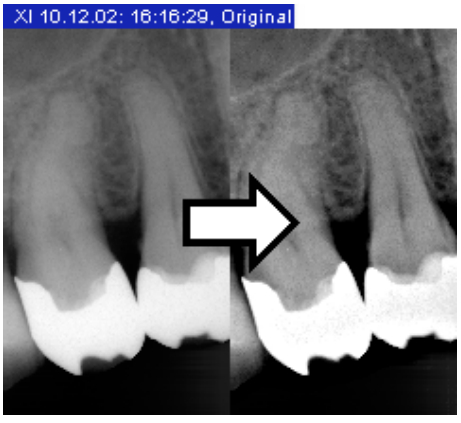
➢ ボタンをクリックします。

または

➢ ポップアップメニュー " フィルター " から " シャープネス " を選択します。

または

➢ メニューバー " 分析 "/" フィルター " で、メニュー項目 " シャープネス " を選択します。



画面の例

3.7.5.11 シャープネス（ユーザー定義）

説明

➢ " シャープネス (ユーザー定義) " フィルタでは、" シャープネス " フィルタを個別に設定できます。

注記

″ 平滑化 ″ および ″ シャープネス ″ フィルタ操作の効果は、相互に打ち消しあうことはありません。

適用範囲

このフィルタは、X 線撮影を使用しているときのみ動作します。

フィルタのアクティブ化

➢ ボタンをクリックします。

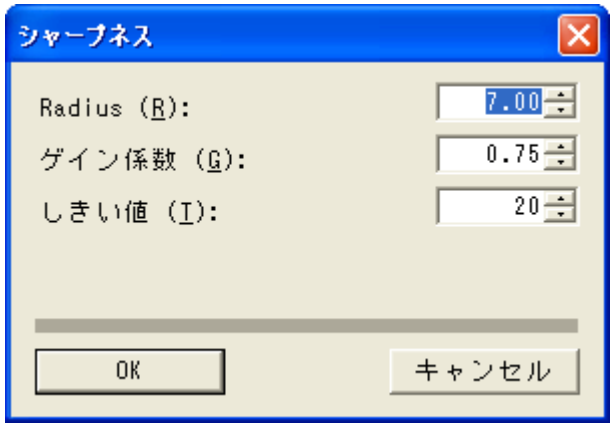
または

➢ ポップアップメニュー " フィルター " から " シャープネス (ユーザー定義) " を選択します。

または

➢ メニューバー " 分析 "/" フィルター " で、メニュー項目 " シャープネス (ユーザー定義) " を選択します。

設定ダイアログボックス



操作

1. 必要なパラメータを設定します。
2. "OK" をクリックして設定を確定します。

↳ これにより、設定が画像に適用されます。

3.7.5.12 ドットノイズの除去

説明

デジタル X 線画像の撮影時に、単一ピクセルエラーが発生する場合があります。これらのピクセルエラーは、最適な解像度（100%）を選択したとき、黒いドットとして現れますが、

SIDEXIS XG には、周囲のピクセルを評価してこれらの黒いドットを削除する機能があります。

適用範囲

このフィルタは、X 線撮影を使用しているときのみ動作します。

フィルタのアクティブ化

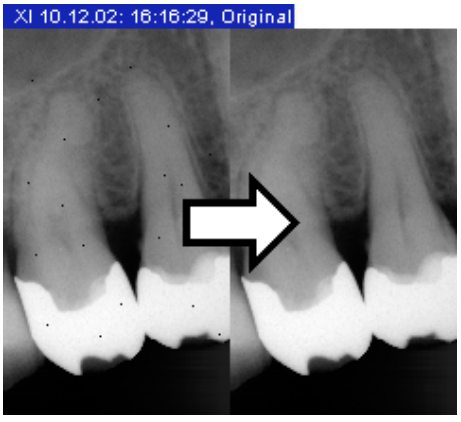
➢ ボタンをクリックします。

または

➢ ポップアップメニュー " フィルター " から " ドットノイズ除去フィルター " を選択します。

または

➢ メニューバー " 分析 "/" フィルター " で、メニュー項目 " ドットノイズ除去フィルター " を選択します。



画面の例

3.7.5.13 ノイズの低減 (平均)

説明

単一ピクセルが散在したり、軽度の不安定な情報が存在するとノイズのある画像になりますが、画像全体の鮮明度を低下させずに、これらの要素を除去します。

このフィルタは、ノイズの少ない画像やコントラストが低い「ソフトな」画像に適用しても、あまり変化は見られません。

適用範囲

このフィルタは、X 線撮影を使用しているときのみ動作します。

フィルタのアクティブ化

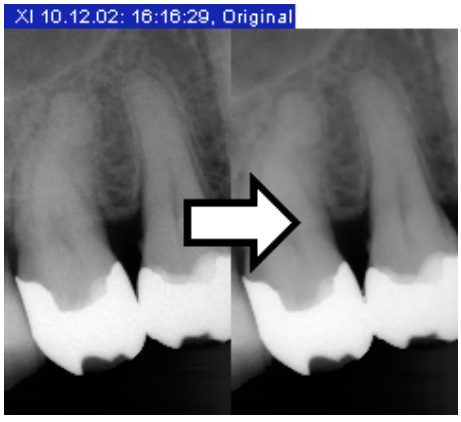
➢ ボタンをクリックします。

または

➢ ポップアップメニュー " フィルター " から " ノイズの低減 " を選択します。

または

➢ メニューバー " 分析 "/" フィルター " で、メニュー項目 " ノイズの低減 " を選択します。



画面の例

3.7.5.14 レリーフ表示

説明

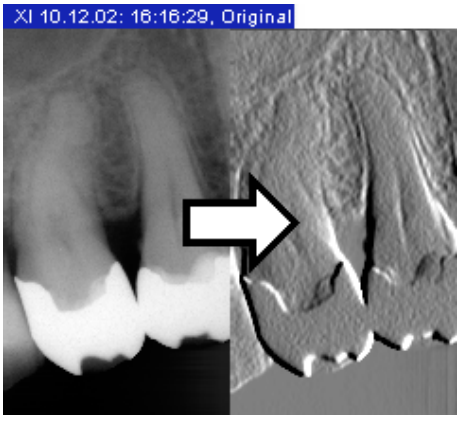
このフィルタ操作の間、高コントラスト画像詳細の境界線が分析され、より明るく、またはより暗く表示されます。その結果、画像の境界や輪郭が強調され、レリーフ調の画像が作成されます。

適用範囲

このフィルタは、X 線撮影を使用しているときのみ動作します。

フィルタのアクティブ化

➢ ボタンをクリックします。
または
➢ ポップアップメニュー " フィルター " から " レリーフ表示 " を選択します。
または
➢ メニューバー " 分析 "/" フィルター " で、メニュー項目 " レリーフ表示 " を選択します。



画面の例

3.7.5.15 直前のフィルタ操作の取り消し

説明

最後に行ったフィルタ操作の効果は、" 取り消し " 機能を選択して取り消すことができます。
フィルタ操作がまだ実行されていないか、この機能がすでに適用されている場合は、コマンドを使用できません。
多くの操作が行われたビューの場合、この操作には時間がかかることがあります。

適用範囲

この機能は、X 線撮影を使用しているときのみ動作します。

機能のアクティブ化

➢ ボタンをクリックします。
または
➢ ホットキー : [Ctrl] ＋ [Z] キーを同時に押します。
または
➢ ポップアップメニューから " フィルターの取り消し " を選択します。
または
➢ メニューバー " 編集 " から、メニュー項目 " フィルターの取り消し " を選択します。

3.7.5.16 トーチ機能

説明

これらの機能では、画像フィルタを使用し、移動可能な対象領域内にツールを表示します。この対象領域は、分析対象の画像上でマウスにより懐中電灯の光線のように移動することができます。

適用範囲

この機能は、X 線撮影を使用しているときのみ動作します。

機能の表示

この機能がアクティブになっている間は、検査ワークスペース内のマウスポインタが以下のような形になります。

機能

これらの機能の効果の詳細は、それぞれの機能の説明を参照してください。

ROI 設定

サイズの設定

➢ メニューバー " 分析 "/" マウスツール " で、使用するメニュー項目を選択します。

- " 範囲：小 "
- " 範囲：中 "
- " 範囲：大 "
- " 範囲：特大 "

形の設定

➢ メニューバー " 分析 "/" マウスツール " で、使用するメニュー項目を選択します。

- " クロス "
- " 長方形 "

3.7.5.16.1 コントラストの最適化

説明

設定に関する詳細は、「コントラストの最適化 [➔ 120]」の項を参照してください。

機能のアクティブ化

➢ ボタンをクリックします。

または

➢ メニューバー " 分析 "/" マウスツール " で、メニュー項目 " コントラストの最適化 " を選択します。

3.7.5.16.2 反転

説明

設定に関する詳細は、「反転 [➔ 118]」の項を参照してください。

機能のアクティブ化

➢ ボタンをクリックします。

または

➢ メニューバー " 分析 "/" マウスツール " で、メニュー項目 " 反転 " を選択します。

3.7.5.16.3 拡大

説明

設定に関する詳細は、「画像の拡大、縮小 [➔ 104]」の項を参照してください。

機能のアクティブ化

➢ ボタンをクリックします。

または

➢ メニューバー " 分析 "/" マウスツール " で、メニュー項目 " 拡大 " を選択します。

3.7.5.17 変換関数

説明

SIDEXIS XG バージョン 1.5 以降では、16 ビットの階調で X 線画像を採得、処理することができます。

16 ビットの X 線画像は、画面に表示できるように、自動的に 8 ビット階調画像に変換されます。

この処理は " ガンマ補正 " 機能を使用して行います。

この変換は、16 ビットの X 線画像の既存の階調範囲で均一に実行されます。

ここで " ガンマ補正 " 機能を使用した場合、16 ビット X 線画像から 8 ビット階調画像への変換は個々に影響を受けます。

可能性

以下の可能性が存在します。

ウィンドウ化

ウィンドウ化の間、いわゆる「ウィンドウ」が X 線画像の階調スペクトル内で選択されます。

その後、ウィンドウに含まれる階調トーンが 8 ビットの階調レベル（256 階調トーン）で均等に分配されます。ウィンドウよりも下の値はすべて黒で表示されます。ウィンドウよりも上の値はすべて白で表示されます。

注記

ウィンドウのサイズを小さくすると、対象の構造のコントラストが増加し、重点的に鮮明なレリーフで表示することができます。

ガンマ補正

中間トーンの表示は、調整可能なガンマ機能を使用して変更できます。

適用範囲

この機能は、X 線撮影を使用しているときのみ動作します。

機能のアクティブ化

➢ ボタンをクリックします。

または

➢ " 表示 " メニューバーを使用して、メニュー項目 " ガンマ補正 " を選択します。

機能

この機能は、操作例によって説明されています。

注記

8 ビット階調の X 線画像の表示も、″ ガンマ補正 ″ 機能による有益な影響を受けることが可能です。

3.7.5.17.1 操作例

条件

X 線画像の表示を改善します。

コマンド

1. 対象となる X 線画像を起動します。
2. " ガンマ補正 " 機能をアクティブにします。

↳ " ガンマ補正 " ウィンドウが表示されます。

準備

機能をわかりやすく説明するために、" ガンマ補正 " ウィンドウは " ガンマ " 表示から " リニア " 表示に切り替える必要があります。

1. マウスの左ボタンで " ガンマ " フィールドをクリックします。

   ↳ ポップアップメニューが開きます。
2. " リニア " 機能を選択します。

↳ "ガンマ補正"ウィンドウが、"ガンマ"表示から"リニア"表示に切り替わります。

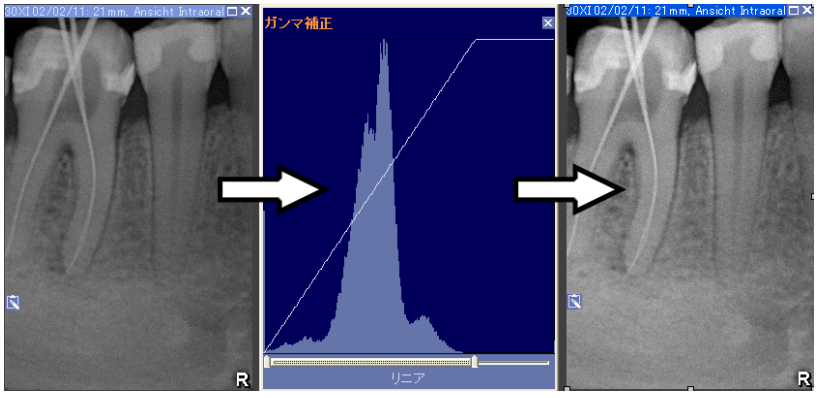
設定

- " ガンマ補正 " 機能
  " ガンマ補正 " 機能がヒストグラム上に線で表示されます。この線は基本設定では直線です。
- ヒストグラム
  ヒストグラムでは、黒から白までの線形スケール上に、アクティブな X 線画像のすべてのポイントの統計的分布が表示されます。

  スケールの特定の位置の上にある縦棒の高さは、画像内の対応する階調値を持つピクセルの数を表しています。
- " リニア " 機能
  " リニア " 機能によって、" ガンマ補正 " 機能のウィンドウ化の際にウィンドウに含まれる階調トーンが 8 ビット階調レベル（256 階調トーン）上で均一に分布するように調整されます。

ウィンドウ化（「線形」機能用）

画面の例



X 線画像の表示を良好にするための基本は、ヒストグラムで実際に使用されるカラープロファイルが、表示画面の 256 階調レベル上で均一に分布するように調整することです。また、X 線画像のヒストグラム内側のエリアはウィンドウ化を通じて選択する必要があります。

例に示したヒストグラムでは、最初の暗い部分（左端）と最後の明るい部分（右端）に色値はありません。

1. ヒストグラム下の " ガンマ補正 " ウィンドウ内のスライダにより、使用する色空間を制限します。
2. 使用するヒストグラム開始部分と終了部分までスライダを押していきます。
3. これで " ガンマ補正 " 機能は区切られた領域内でのみ直線になります。区切られた領域を超える階調レベルは黒または白で表示されます。

↳ X 線画像の表示（左側のサンプル画像）は明らかに改善されています（右側のサンプル画像）。

中間トーンの変更（ガンマ機能）

中間のトーンを明るくしたり、暗くしたい場合があります。これはガンマ機能を使用して行うことができます。

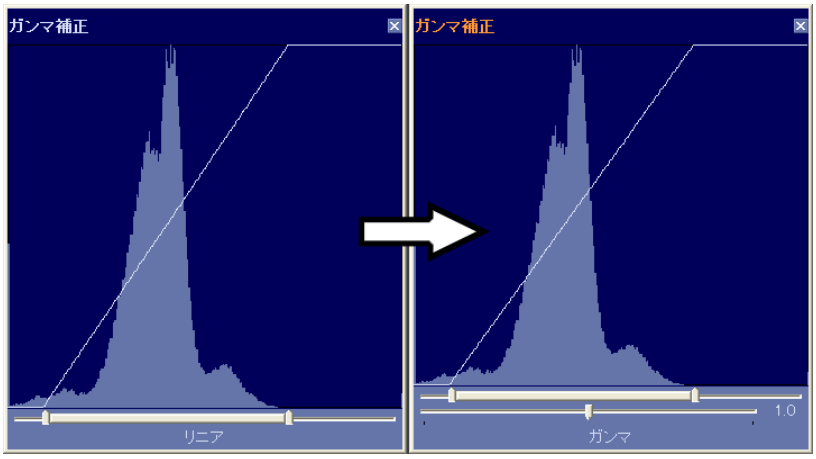
1. マウスの左ボタンで " リニア " フィールドをクリックします。

   ↳ ポップアップメニューが開きます。
2. " ガンマ " 機能を選択します。

↳ 値が 1.00 の追加スライダが " ガンマ補正 " ウィンドウに表示されます。

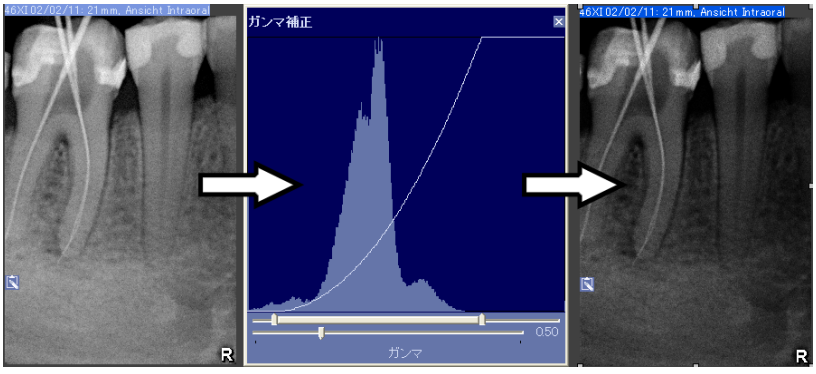
↳ X 線画像の表示は変化しません。

画面の例



中間トーンを暗くする

画面の例



➢ スライダを左側に押します。

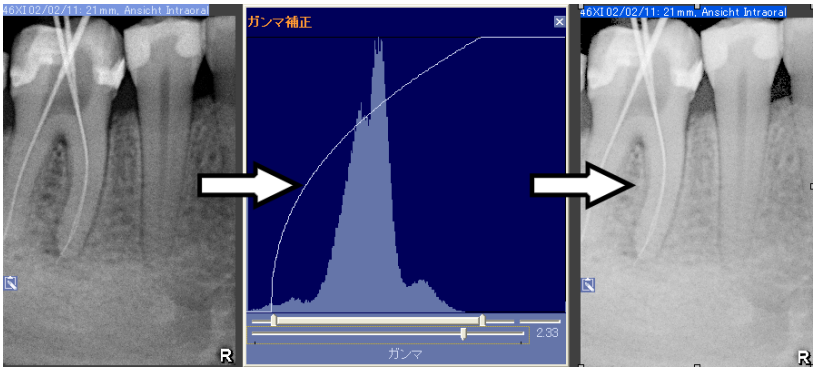
↳ "ガンマ補正" 機能のラインが下側に曲がります。

↳ 表示値が減少します（サンプル画像では 0.49）。

↳ 値を下げるほど中間トーンが暗くなります。

中間トーンを明るくする

画面の例



➢ スライダを右側に押します。

↳ "ガンマ補正" 機能のラインが下側に曲がります。

↳ 表示値が増加します（サンプル画像では 2.03）。

↳ 値を上げるほど中間トーンが明るくなります。

リセット

1. マウスの左ボタンで " ガンマ " フィールドをクリックします。
   ↳ ポップアップメニューが開きます。
2. " リセット " 機能を選択します。

↳ X 線画像と " ガンマ補正 " 機能が元の状態に戻ります。

3.7.6 描画ツール

説明

描画、注記、およびヒントなどのベクトルオブジェクトも、従来型の X 線と同様に、ここで画像に挿入できます。そのための様々なツールが用意されています。

適用範囲

すべての描画ツールはワークスペース内で自由に使用できます。

3.7.6.1 矢印

説明

矢印を使用して、診断検査結果と撮影画像の位置を結合できます。診断検査結果または撮影画像が移動した場合でも、この結合は保存されます。

適用範囲

ワークスペース内で自由に使用できます。

機能のアクティブ化

➢ ボタンをクリックします。

または

➢ メニューバー " 分析 "/" 描画ツール " で、メニュー項目 " 矢印線 " を選択します。

機能

この描画機能の使用方法は、以下の各項で説明します。

- 「オブジェクトの形状とサイズの変更 [➟ 38]」
- 「オブジェクトプロパティの表示と変更 [➟ 39]」
- 「ワークスペースからオブジェクトを削除する [➟ 40]」

3.7.6.2 フリーハンドライン

説明

この機能は、ワークスペース内でフリーハンドラインを描くために使用します。

適用範囲

ワークスペース内で自由に使用できます。

機能のアクティブ化

➢ ボタンをクリックします。

または

➢ メニューバー " 分析 "/" 描画ツール " で、メニュー項目 " 手で描いたライン " を選択します。

機能

この描画機能の使用方法は、以下の各項で説明します。

- 「オブジェクトの形状とサイズの変更 [➟ 38]」
- 「オブジェクトプロパティの表示と変更 [➟ 39]」
- 「ワークスペースからオブジェクトを削除する [➟ 40]」

3.7.6.3 ライン

説明

この機能では、ワークスペース内で任意の数の節点を使用してラインを引くことができます。

適用範囲

ワークスペース内で自由に使用できます。

機能のアクティブ化

➢ ボタンをクリックします。

または

➢ メニューバー " 分析 "/" 描画ツール " で、メニュー項目 " 矢印線 " を選択します。

機能

この描画機能の使用方法は、以下の各項で説明します。

- 「オブジェクトの形状とサイズの変更 [➝ 38]」
- 「オブジェクトプロパティの表示と変更 [➝ 39]」
- 「ワークスペースからオブジェクトを削除する [➝ 40]」

3.7.6.4 テキストフィールド

説明

この機能を使用して、ワークスペース内で一行のテキストフィールドを生成できます。

適用範囲

ワークスペース内で自由に使用できます。

機能のアクティブ化

➢ ボタンをクリックします。

または

➢ メニューバー " 分析 "/" 描画ツール " で、メニュー項目 " テキスト " を選択します。

機能

この描画機能の使用方法は、以下の各項で説明します。

- 「オブジェクトの形状とサイズの変更 [➝ 38]」
- 「オブジェクトプロパティの表示と変更 [➝ 39]」
- 「ワークスペースからオブジェクトを削除する [➝ 40]」

3.7.6.5 歯列矯正専用描画ツール

説明

この描画ツールは、X 線（セファロ）撮影画像の基準ポイントに役立ちます。

測定の対象となる X 線（セファロ）画像内のオブジェクトの右側にあるテキストボックスに十字を配置します。

X 線（セファロ）画像では、必要に応じて複数の基準ポイントを定義できます。デフォルトでは、関連テキストボックスに連続番号が付けられます。

適用範囲

ワークスペース内で自由に使用できます。

機能のアクティブ化

➢ ボタンをクリックします。

または

➢ メニューバー " 分析 "/" 描画ツール " で、メニュー項目 " クロス " を選択します。

機能

この描画機能の使用方法は、以下の各項で説明します。

- 「オブジェクトの形状とサイズの変更 [➔ 38]」
- 「オブジェクトプロパティの表示と変更 [➔ 39]」
- 「ワークスペースからオブジェクトを削除する [➔ 40]」

3.7.6.6 長方形

説明

SIDEXIS XG では、長方形を描くこともできます。

適用範囲

ワークスペース内で自由に使用できます。

機能のアクティブ化

➢ ボタンをクリックします。

または

➢ メニューバー " 分析 "/" 描画ツール " で、メニュー項目 " 長方形 " を選択します。

機能

この描画機能の使用方法は、以下の各項で説明します。

- 「オブジェクトの形状とサイズの変更 [➔ 38]」
- 「オブジェクトプロパティの表示と変更 [➔ 39]」
- 「ワークスペースからオブジェクトを削除する [➔ 40]」

3.7.6.7 楕円形

説明

SIDEXIS XG では、楕円を描くこともできます。

適用範囲

ワークスペース内で自由に使用できます。

機能のアクティブ化

➢ ボタンをクリックします。

または

➢ メニューバー " 分析 "/" 描画ツール " で、メニュー項目 " 楕円 " を選択します。

機能

この描画機能の使用方法は、以下の各項で説明します。

- 「オブジェクトの形状とサイズの変更 [➟ 38]」
- 「オブジェクトプロパティの表示と変更 [➟ 39]」
- 「ワークスペースからオブジェクトを削除する [➟ 40]」

4 特殊機能

4.1 説明

患者データ管理機能や画像管理機能、画像撮影機能、画像処理機能に加え、SIDEXIS XG には特定の特殊作業を行うための個別の機能が用意されています。

4.2 特殊機能 – 常に手前に表示

説明

SIDEXIS XG では、現在どのプログラムがアクティブでも、常に SIDEXIS の画像ウィンドウを手前に表示することができます。この機能により、SIDEXIS 画像を参照として目の前に表示しながら、Word(R) 文書や診療所内の管理プログラムで診断を入力することができます。

適用範囲

現在アクティブな画像。

機能のアクティブ化

➢ ボタンをクリックします。

または

➢ メニューバー " 表示 "/" 画像 " で、メニュー項目 " 常に一番上に表示 top" を選択します。

4.3 画像ストックの移動

説明

デジタル X 線画像およびビデオ画像を生成するとデータ量が大きくなるため、患者データベースおよび画像データベースのサイズも大幅に増大する可能性があります。これにより、PC に恒久的に取り付けられている記憶メディア（ハードディスク）の使用可能なメモリが大幅に減少します。極端な場合、この記憶メディアに以降の撮影が保存できなくなります。このようになると、新しく撮影を行うことができません。

このため、作成した記録で現在不必要なものは、別の場所に保存することができます。

これらの画像に占有されていたハードディスク領域が解放され、新しく撮影した画像を保存できます。

⚠ 注意

データ移動とバックアップコピーの作成を混同しないでください。移動とは異なり、バックアップでは安全のためにデータが別の記憶メディアにコピーされます。

注記

恒久的に取り付けられている記憶メディア上の利用可能なディスク領域は、情報ダイアログボックスで確認できます（「SIDEXIS インターネット接続に関する情報 [➔ 26]」を参照）。

移動のタイプ

移動には、2 種類あります。

これらは、「サービス（Service）メニュー」[➔ 164] で設定できます。

- 追加ハードディスクに保存する。

  追加ハードディスクには以下が含まれます。
  – コンピュータの追加ハードディスク
  – コンピュータの外付けハードディスク（例 : USB または Firewire によって接続するもの）
  – ネットワークに組み込まれたハードディスク（権限の割り当てに注意）

- リムーバブル外部記憶メディアへの移動

  ハードディスクに保存された画像を、リムーバブル記憶メディアに移動することを意味します。

注記

複数のリムーバブル記憶メディアを使用することによって、システムの容量を大きくすることが可能です。

適用範囲

この機能は、画像データベースのすべての X 線およびビデオ画像に使用できます。

機能

データの移動中、SIDEXIS は画像を移動した外部記憶メディアを覚えています。

追加ハードディスクを使用する場合 :

ユーザーがエクスポートした画像の表示を要求すると、SIDEXIS は追加ハードディスクから必要な画像を自動的に読み込みます。

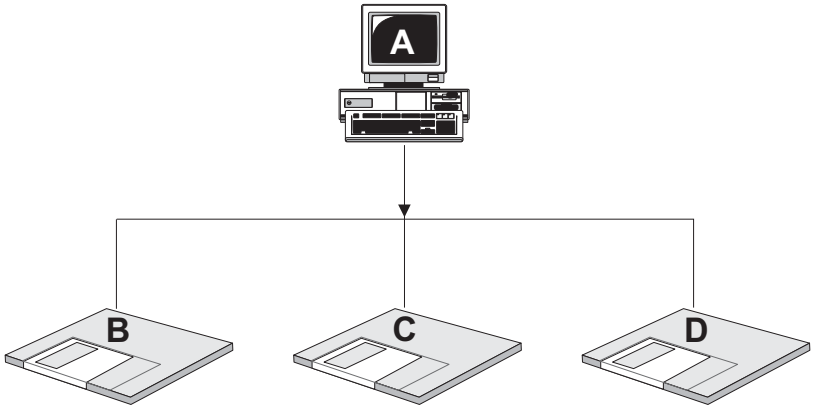
交換式外部メディアを使用する場合 :

ユーザーが移動した画像を表示しようとすると、SIDEXIS が該当する記憶メディアの挿入を促すメッセージを表示します。

この方法を使用すると、移動したすべての画像は、ユーザーが移動の記録を作成しなくても、もう一度表示できます。

SIDEXIS の取扱説明書に従って、使用した記憶メディアにラベルを付けておけば十分です。

移動の例 :



A	ここに残っているデータ： ● すべての患者データ ● すべてのプレビュー画像 ● 2007 年第 4 四半期以降のすべての画像
B	SIDEXIS の移動 1: ● 1. 2007 年四半期 ● 2007 年第 2 四半期の一部
C	SIDEXIS の移動 2: ● 2007 年第 2 四半期の残り ● 2007 年第 3 四半期の一部
D	SIDEXIS の移動 3: ● 2007 年第 3 四半期の残り

4.3.1 追加ハードディスクを使用する場合の手順

機能を使用する前に

データ移動を開始する前に、患者全員をシステムに登録することが必要です。マルチワークステーション環境では、システム全体のすべての SIDEXIS ステーションにおいて患者のチェックアウトが必要となります。

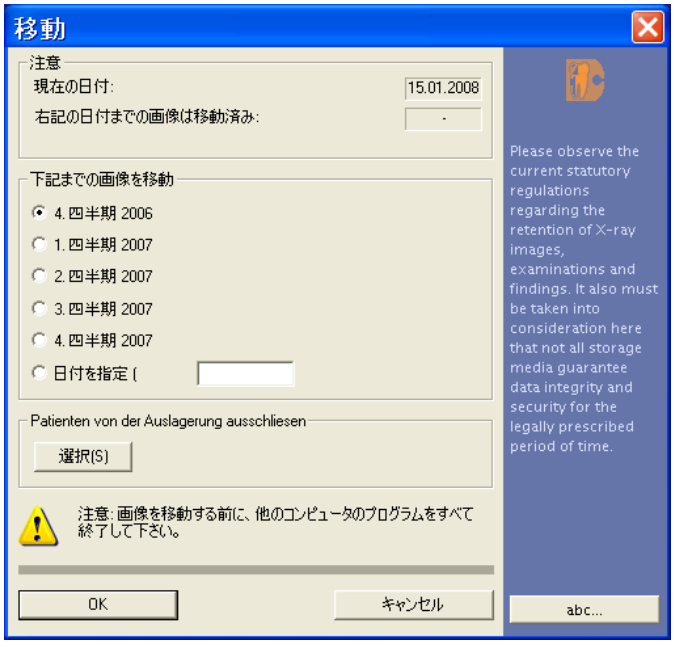
その後、移動手順を開始して移動範囲を決定できます。

機能のアクティブ化

➢ ボタンをクリックします。
または
➢ " エクストラ " メニューバーを使用して、メニュー項目 " 移動 " を選択します。

1. 期間の選択

四半期による期間か、特定の日付までのデータを移動するように選択できます。どちらを選択するかは、個々の撮影データのボリュームによって異なります。



オプション：" 患者を移動対象から外します。"

" 患者を選択してください。" ボタンをクリックして、" 選択 " ダイアログボックスを閉じます。

画像が移動されたすべての患者のチェックボックスがアクティブになり、選択された状態になります。

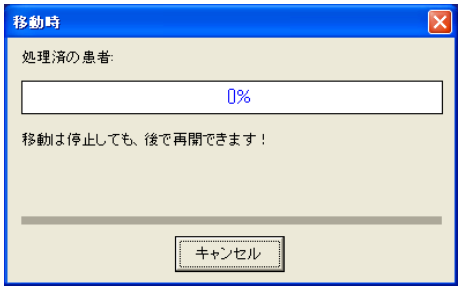
移動から除外する患者については、チェックボックスをオフにしてください。

- これにより、現在治療中の患者が分かります。

2. ダイアログの確認

移動はダイアログを確認すると実行されます。

3. 移動手順



データの移動には時間がかかることがあります。進捗状態はダイアログボックスで確認できます。" キャンセル " ボタンをクリックすると、いつでも移動を終了できます。実際に移動処理が終了するまで、多少時間がかかることがあります。これは、現在の画像の処理をまず完了する必要があるためです。進行中に移動を停止した場合でも、同じ日付を指定すると、後で続行できます。

⚠ 注意

移動中は、記憶メディアをドライブから取り出さないでください。取り出すと、データが失われることがあります。

4.3.2 交換式外部メディアを使用する場合の手順

機能を使用する前に

データ移動を開始する前に、患者全員をシステムに登録することが必要です。マルチワークステーション環境では、システム全体のすべての SIDEXIS ステーションにおいて患者のチェックアウトが必要となります。

その後、移動手順を開始して移動範囲を決定できます。

移動する前に、十分な数のフォーマット済み記憶メディアを用意してください。

記憶メディアの数が十分でない場合、移動手順が中断されることがあります。その場合は、後で移動を継続することができます。

記憶メディアに対する推奨事項

- データメディアには目立つ色（緑色）で印を付けてください。
- データセキュリティ上の理由から、データメディアはデンタルディーラーに発注してください。
  Sirona Dental Systems GmbH は、コンピュータディーラーから購入したデータメディアが正しく動作することを保証できません。

機能のアクティブ化

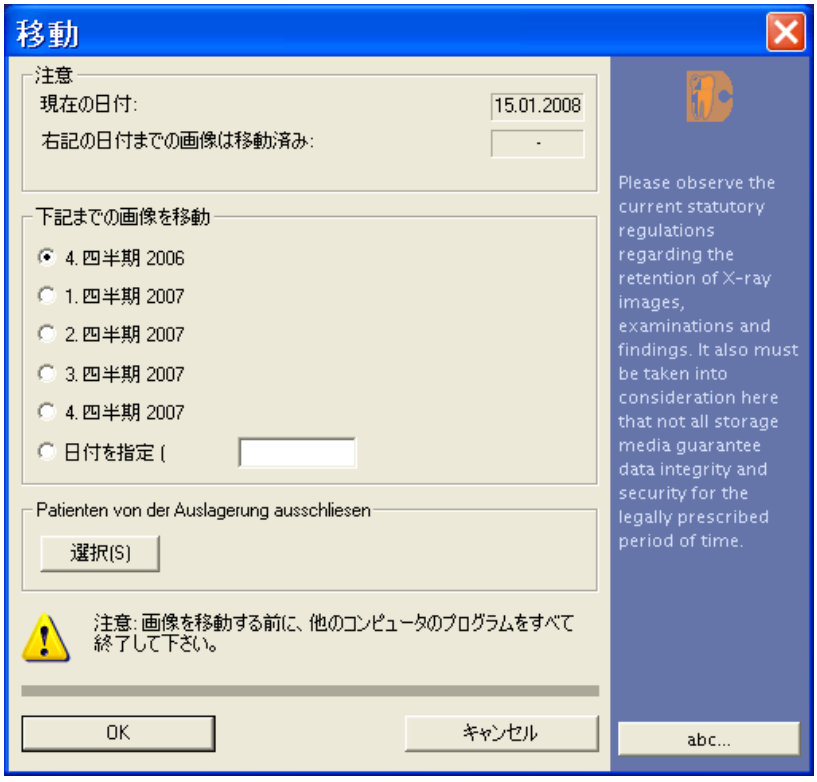
➢ ボタンをクリックします。

または

➢ " エクストラ " メニューバーを使用して、メニュー項目 " 移動 " を選択します。

1. 期間の選択

四半期による期間か、特定の日付までのデータを移動するように選択できます。どちらを選択するかは、個々の撮影データのボリュームによって異なります。



オプション：" 患者を移動対象から外します。"

" 患者を選択してください。" ボタンをクリックして、" 選択 " ダイアログボックスを閉じます。

画像が移動されたすべての患者のチェックボックスがアクティブになり、選択された状態になります。

移動から除外する患者については、チェックボックスをオフにしてください。

- これにより、現在治療中の患者が分かります。

ダイアログボックスの確定後、1 ステップごとに手順を説明するメッセージが表示されますので、それに従ってください。

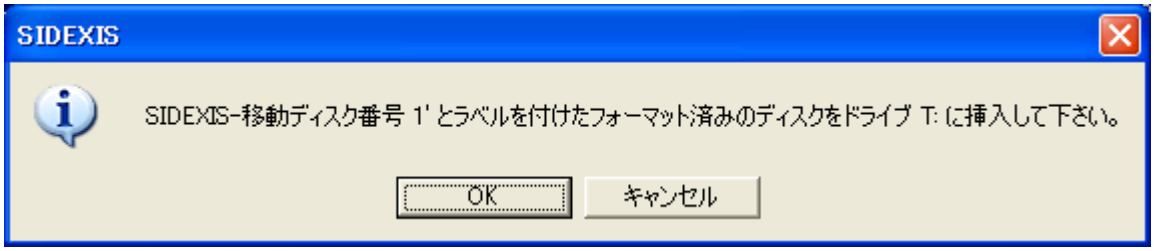
2. ダイアログの確認

ダイアログボックスの確定後、1 ステップごとに手順を説明するメッセージが表示されますので、それに従ってください。

2. 記憶メディアのラベル付け

⚠ 注意

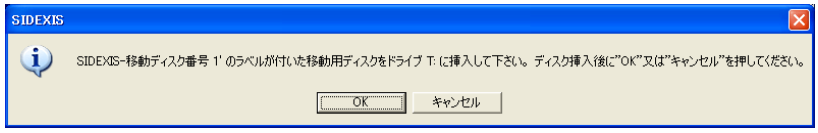
移動した画像をいつでも取り出せるようにするために、プログラムによって求められたときは、すぐにリムーバブル記憶メディアにラベルを付けてください。



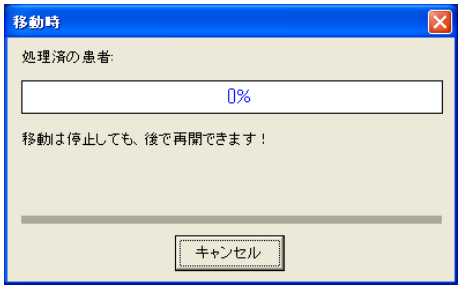
記憶メディアがいっぱいになった場合の対応方法

⚠ 注意

いっぱいになった記憶メディアは、偶発的な削除や上書きを防止するために、書込み禁止にすることで機械的に保護する必要があります。



3. 移動手順



データの移動には時間がかかることがあります。進捗状態はダイアログボックスで確認できます。" キャンセル " ボタンをクリックすると、いつでも移動を終了できます。実際に移動処理が終了するまで、多少時間がかかることがあります。これは、現在の画像の処理をまず完了する必要があるためです。進行中に移動を停止した場合でも、同じ日付を指定すると、後で続行できます。

⚠ 注意

移動中は、記憶メディアをドライブから取り出さないでください。取り出すと、データが失われることがあります。

4.3.3 移動した画像を開く

全般（General）

画像選択に関連のあるすべての情報（画像タイプ、画像の日付、短い説明、およびプレビュー）は、ハードディスクに残っており、画像（容量を圧迫する）のみが移動されたため、後で移動した画像を選択しても、移動していない画像を選択するときと操作は変わりません。

⚠ 注意

移動した画像を明確にするために、これらはダイアログボックス〝画像を選択〟の一覧で「≫」が付けられています。

「SIDEXIS データベースから取得した画像を開く [➔ 53]」の項を参照してください。

補足：交換式外部データメディア

交換式の外部データメディアを使用する場合は、対応するデータメディアを挿入する必要があります。

記憶メディアを挿入してメッセージを確認すると、通常通り画像が表示されます。使用する画像の取得と表示は自動で行われます。

4.4 定常性テスト

説明

ドイツの法規則により、X 線撮影システムの撮影品質は、一定間隔で定常性を確認する必要があります。

SIDEXIS の導入時や、既存の X 線撮影装置に変更を加えるときは、サービスエンジニアが現在の X 線装置の情報を SIDEXIS に保存します。

適用範囲

この機能は、デジタル X 線撮影技術のみに適用されます。

機能のアクティブ化

➢ ボタンをクリックします。

または

➢ メニューバー " エクストラ " から、メニュー項目 " 定常性テスト " を選択します。

操作

これらの定常性テストは、システムで提供される X 線ログブックと併せて実行します。

資格のある技術者のみがサービスパスワードを使用して機器データを作成、変更、および削除できます。

サービスエンジニアによる承認テストが終わると、ユーザーが通常の定常性テストを実行できます。

設定

「システム設定 [➔ 146]」の項を参照してください。

4.5 3D データ量の削減

3D データベースは、非常に大量の記憶容量を必要とするため、時々 3D RAW データの量を削減することをお勧めします。

データの削減は、次の機能を使用して実行できます。

- RAW データを手動で削除する
- RAW データを自動的に削除する

4.5.1 RAW データを手動で削除する

説明

SIDEXIS データベースから手動で RAW データを削除できます。

- 3D GALILEOS 撮影の場合、この手順を実行して記憶領域を節約することを特にお勧めします。
- ご使用の IT システムが最新の高性能システムである場合、この手順は口腔内撮影やパノラマ撮影には必要ありません。そのため、" 補正しローデータを削除してください。" 機能を 3D GALILEOS 撮影のみに制限することができます。
- RAW データの削除では、個々の患者を手動で除外することができます。これは、患者を現在治療中の場合に意味があります。

機能のアクティブ化

➢ " エクストラ " メニューバーを使用して、メニュー項目 " 補正しローデータを削除してください。" を選択します。

↳ "3D データの容量リデュース " ダイアログボックスが表示されます。

詳細な手順は、「削除処理 [→ 145]」の項を参照してください。

4.5.2 RAW データを自動的に削除する

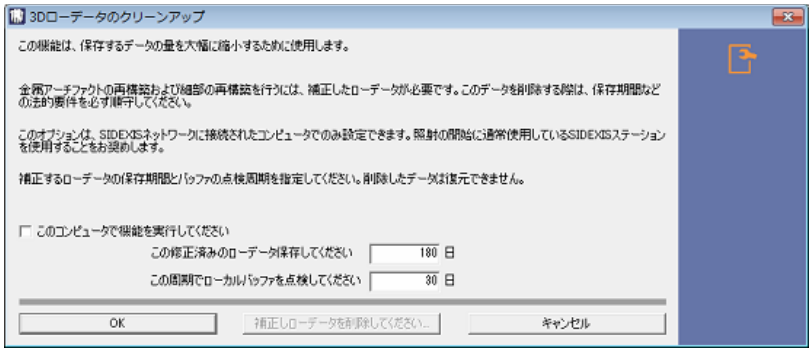
注記

この機能は、データを受信する SIDEXIS ステーションで実行することを推奨します。

機能のアクティブ化

start/programs/SIDEXIS および SIDEXIS Manager を使用して、SIDEXIS Manager を開きます。

3D Data Reduction（3D データ整理）ボタンをクリックして、この機能をアクティブにします。



未処理データの保存時間およびチェック間隔を指定できます。

機能の起動

機能をアクティブ化するとき、設定時間の後に "3D データの容量リデュース " ダイアログが表示されます。

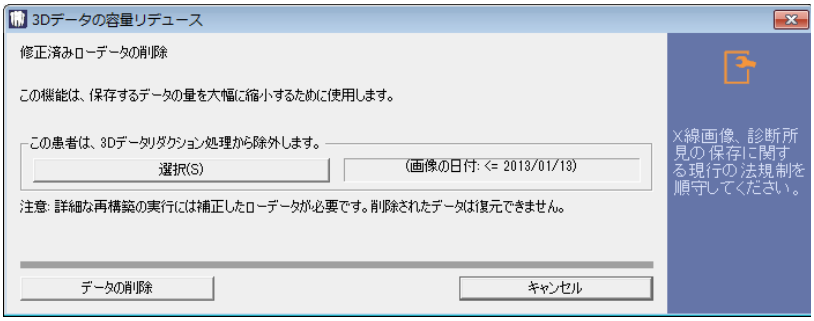
詳細な手順は、「削除処理」の項を参照してください。

4.5.3 削除処理

要件

"3D データの容量リデュース " ダイアログボックスが表示されます。

画面の例



オプション : 3D データ整理から患者を除外する

" 選択 " ボタンをクリックして、" 患者を選択してください。" ダイアログボックスを閉じます。

RAW データを削除するすべての患者のチェックボックスがアクティブになり、選択された状態になります。

移動から除外する患者については、チェックボックスをオフにしてください。

- これにより、現在治療中の患者が分かります。

注記

3D データが現在アクティブかどうかに関係なく、データベース内のすべての患者が表示されます。

操作

➢ " データの削除 " ボタンを押します。

↳ RAW データが削除されます。

4.6 SIDEXIS XG のインターネット接続

説明

メニューバー " ヘルプ " にあるメニュー項目 "SIDEXIS XG の Web サイトにアクセスしてください。" を使用すると、SIDEXIS XG インターネットページを選択できます。

また、メニュー項目 "SIDEXIS XG のユーザー領域に移動してください。" を使用すると、SIDEXIS XG のユーザー領域を直接表示できます。

5 システム設定

説明

この「" システム設定 "」機能を利用して、各作業モードや既存のシステム環境に SIDEXIS システムを適合させることができます。

注記

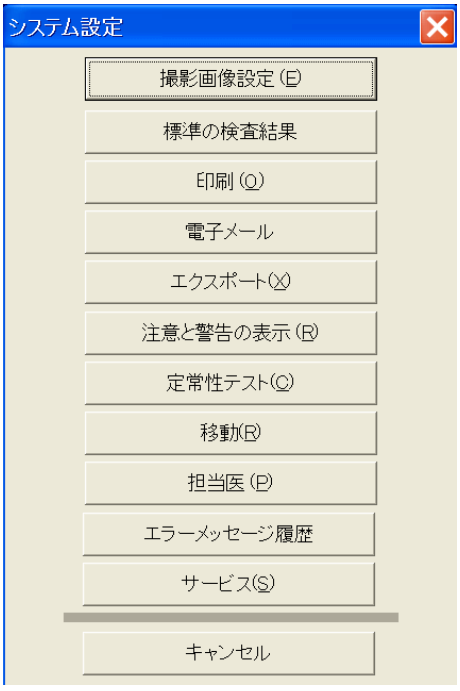
システムの構成を始める前に、登録済みの患者がすべて自動的にチェックアウトされます。

機能のアクティブ化

➢ ボタンをクリックします。

または

➢ メニューバー「" エクストラ "」から、メニュー項目 " システムの設定 " を選択します。



画面の例

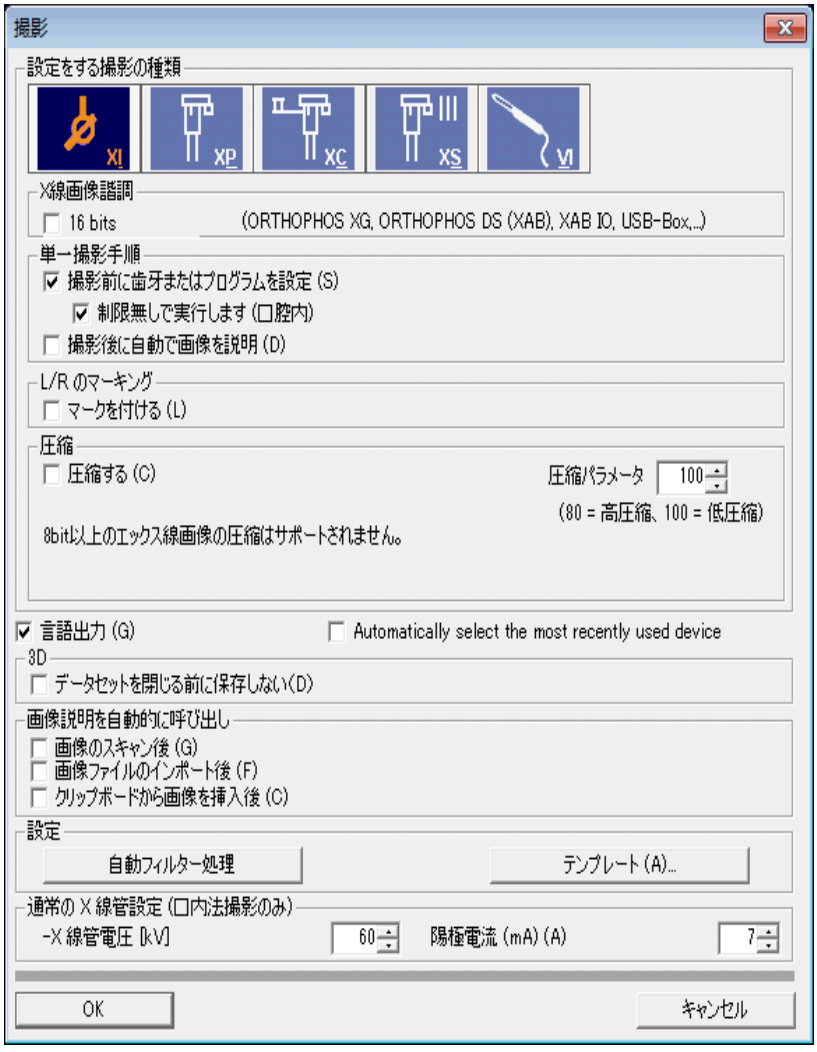
5.1 撮影の設定

機能のアクティブ化

1. " エクストラ " メニューバーを使用して、メニュー項目 " システムの設定 " を選択します。
2. " 撮影画像設定 " ボタンを押します。

↳ " 撮影 " ダイアログボックスが表示されます。

ダイアログボックス



ダイアログの構造

" 設定をする撮影の種類 "

このオプションは、撮影順序の設定を可能にします。

別のボタン（個別または組み合わせ）をクリックすると、選択した設定をアクティブにする画像タイプを決定できます。

" 設定をする撮影の種類 "/X 線撮影の値の範囲

新規に採得した 16 ビット階調の X 線画像は、"16 bits" チェックボックスを使用して処理および管理できます。

注記

ビット階調が 8 ビット以上の X 線画像の圧縮は、現在サポートされていません。

" 設定をする撮影の種類 "/" 単一撮影手順 "

- " 撮影前に歯牙またはプログラムを設定 " オプションを使用して、撮影対象領域に関する詳細の自動照会をアクティブまたは非アクティブにします（歯牙の部位、領域、プログラム）。このオプションをアクティブにすると、対象領域が不明な場合（例：新着の X 線オーダー）、撮影直前に対象領域の指定を促すメッセージが表示されます。検査結果ダイアログボックスは、このために表示されるので、システムの撮影準備が整う前に確認しておくことが必要です。SIDEXIS は、この情報を使用して、画像を解剖学的に正しい向きと位置に表示することができます。

  ″ 制限無しで実行します (口腔内)″ 機能（口腔内のみ）：

  - アクティブ化された機能

    撮影のスイッチをオフにする前の対象領域の必須入力

    撮影は対象領域を入力せずに作成できます。

  - 非アクティブ化された機能

    撮影のスイッチをオンにする前の対象領域の必須入力

    歯牙は撮影の前に選択する必要があります。

- " 撮影後に自動で画像を説明 " オプションは、自動検査結果機能をアクティブまたは非アクティブにします。このオプションをアクティブにすると、撮影直後にダイアログボックスが表示され、検査結果の入力を促すメッセージが表示されます。

" 設定をする撮影の種類 "/"L/R のマーキング "

この機能は、歯牙位置マーカーを画像に挿入するかどうかを決定します。

⚠ 注意

01XC、02XC タイプの画像の L/R マーカーについて

SIDEXIS で **R** および **L** の文字を使用したオプションの画像マーキングをアクティブにすると、セファロ画像の撮影時に画像の右下隅に **R** の文字が常に挿入されます。これにより、混乱する場合があります。このマーキングは、フィルム撮影で馴染みの **R/L** マーカーに相当するものではありません。

すべてのセファロ画像において、**R** マーカーは X 線ビームの方向を示すものではなく、画像が**裏返しではなく**、元の方向で表示されていることを確認するためのものです。

- **画面の例**

" 設定をする撮影の種類 "/" 圧縮 "

- " 圧縮する " オプションは、画像を撮影直後に圧縮するために使用します。
  X 線およびビデオ画像は、ハードディスクやリムーバブル記憶メディアに保存すると大量の記憶領域を占有するため、SIDEXIS では圧縮保存というオプションが提供されています。この方法により、撮影によって必要になるディスク容量が大幅に削減されます。

注記

ビット階調が 8 ビット以上の X 線画像の圧縮は、現在サポートされていません。

- 圧縮率は " 圧縮パラメータ " ボックスで設定します。SIDEXIS が使用する JPEG 圧縮では、選択する圧縮率によって失われる **画像情報**の量が異なります。

画像情報の損失を制限するために、圧縮率の設定には以下の制限値が適用されます。

画像タイプ	圧縮率の許容設定範囲	推奨圧縮率
IO	90 ～ 100	100
XP	80 ～ 100	90
XC	80 ～ 100	90

次の表に、各種圧縮率で期待される圧縮比を示します。

圧縮率	口腔内 X 線	パノラマ X 線
100	約 1.5 ～ 2	約 2 ～ 3
90	約 5 ～ 8	約 10 ～ 18
80	約 9 ～ 13	約 22 ～ 33

圧縮および解凍操作に要する時間は、システムのパフォーマンスによって異なるため、高速な PC では特に問題になりません。

" 言語出力 "

オーディオ出力をアクティブにします。

"Automatically select the most recently used device"

撮影準備がアクティブになると、最後に使用した X 線装置がアクティブになります。

この機能によって、複数の X 線装置が同じ撮影タイプに利用可能な場合、選択フィールドが開かないようになります。

「SIDEXIS iX」iPad アプリケーションを使用する場合に有用です。

" 画像説明を自動的に呼び出し "

画像説明ダイアログボックスをいつ自動的に開くかを決めます（「画像の説明と検査結果 [→ 61]」の項を参照）。

" 設定 "/" 自動フィルター処理 "

⚠ 注意

この設定ウィンドウは、X 線およびビデオ画像の画面表示を最適化する場合にのみ使用します。

SIDEXIS XG データベース内の画像データは変更されません。

説明

使用する画像タイプに応じて、診断画像表示に適した固有の設定が存在します。

該当する画像タイプの画面表示に対して SIDEXIS XG が自動的に実行する設定はここで作成します。

設定

画像タイプに応じて、以下の画面表示を設定できます。

- " フィルター "

  ここで画面表示に対してフィルタを 3 つまで指定できます。

  この指定を行うために 3 つのリストボックスを使用できます。

  リストボックスは上から順に処理されます。

  例 :

  ″ シャープネス ″ フィルタを使用して画像表示を最適化後、″ ノイズの低減 ″ フィルタを使用して画像表示の増加したノイズを低減します。

- " 設定 "

  – ″ 明度 ″ / ここで輝度を設定します。

  – ″ コントラスト ″ / ここでコントラストを設定します。

  – ″ ズーム ″/ ここで表示サイズを設定します。″ ズーム ″ の設定を 1:1 にすると、ズームは選択した解像度に合わせて調整されます。

- " はい " チェックボックス

  ″ はい ″ チェックボックスを選択することによって、設定は対応する画像タイプに対してアクティブになります。

" 設定 "/" テンプレート "

検査に使用する撮影テンプレートの設定ワークスペースを開始します。「撮影テンプレートの編集 [➔ 151]」の項を参照してください。

" 通常の X 線管設定 (口内法撮影のみ)"

"-X 線管電圧 [kV]" および " 陽極電流 (mA) " ボックスに、口内法 X 線撮影で使用する X 線管アセンブリの一般的な設定が入力されます。これらの値は、画像データベースのドキュメントのみに必要とされます。

⚠ 注意

X 線管アセンブリ設定に入力した値は、実際の装置設定にはまったく影響しません。

5.2 撮影テンプレートの編集

説明

専用の構成ワークスペースを使用して、既存の撮影テンプレートの編集や新しいテンプレートを作成します。

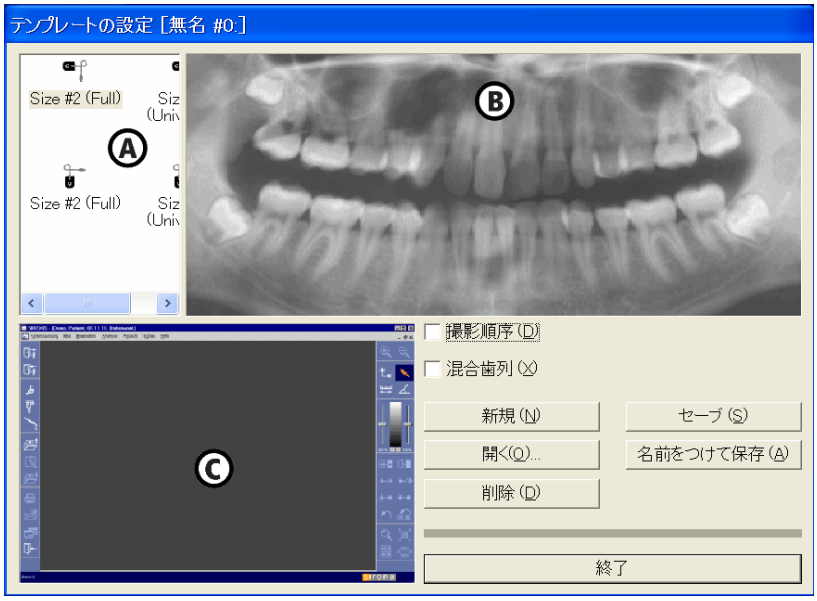
機能のアクティブ化

1. メニューバー「" エクストラ "」から、メニュー項目 " システムの設定 " を選択します。
2. 「" 撮影画像設定 "」ボタンを押します。
   ↳ 「" 撮影 "」ダイアログボックスが表示されます。
3. 「" 設定 "」フィールドで、「" テンプレート "」ボタンをクリックします。

↳ コンフィギュレーションワークスペースが表示されます。

5.2.1 コンフィギュレーションワークスペース

コンフィギュレーションワークスペース



A	センサー選択
B	歯牙ウィンドウ
C	撮影テンプレートウィンドウ

ボタンの機能

- " 新規 "
  新しい空の撮影テンプレートを作成します。
- " 開く "
  既存の撮影テンプレートを開きます。
- " 保存 "
  撮影テンプレートを保存します。
- " 名前をつけて保存 "
  撮影テンプレートを新しい名前で保存します。
- " 削除 "
  アクティブな撮影テンプレートを削除します。
- " 終了 "
  コンフィギュレーションワークスペースを閉じます。

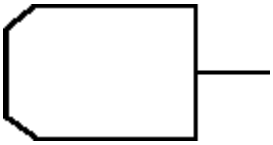
5.2.2 新しい撮影テンプレートの作成

センサーの選択基準

マウスを使用してセンサー選択領域 **A** のセンサーを、以下の基準で選択します。

- センサーのタイプ（**フルサイズまたはユニバーサル**）
- 口内の位置 **/ 垂直または水平**

画面の例



機能のアクティブ化

1. " 新規 " ボタンをクリックします。
2. 撮影が混合歯列用の場合は、" 混合歯列 " チェックボックスをオンにします。
3. マウスを使用してセンサー選択領域 **A** のセンサーを、以下の基準で選択します。
4. マウスの左ボタンを押したままの状態で、選択したセンサーを歯牙ウィンドウ **B** までドラッグします。
   ↳ 選択したセンサーとセンサーケーブルの位置が略図で表示されます。
5. センサーを希望の位置に配置し、マウスの左ボタンを放します。

↳ これで、左下隅の撮影テンプレートウィンドウ **C** にセンサーの撮影位置が表示されます。

センサーホルダーの自動選択

SIDEXIS は、撮影テンプレートで選択した歯牙領域に合わせて撮影位置を設定します。使用するセンサーホルダーは自動的に事前選択されます（この事前選択はユーザーが確認する必要があります）。

センサーホルダーのタイプは、以下の色で識別されます。

- **青**

  前歯用
- **黄**

  臼歯用
- **赤**

  咬翼用

ここで、撮影位置を詳細に決定したり、初期撮影位置やセンサーのプロパティを変更することができます（以降の項を参照）。

画面の例

5.2.3 既存の撮影テンプレートの編集

説明

新しい撮影テンプレートを始めから作成するより、既存のテンプレートを編集する方が便利な場合があります。

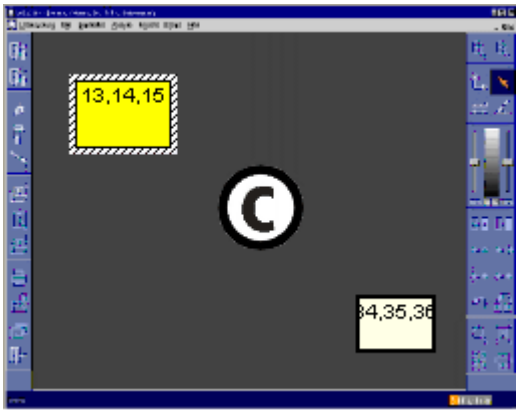
操作

1. この場合、まず作業に最も適した既存テンプレートを開きます。
2. そのテンプレートを「" 名前をつけて保存 "」ボタンを使って別の名前で保存します。

↳ これで、「新しい撮影テンプレートの作成 [➔ 152]」で説明するように、不要な位置を削除したり、新しい位置を追加したりすることができます。

5.2.4 撮影テンプレートウィンドウでの撮影位置の変更

画面の例



機能

➢ マウスを使用して、変更する撮影位置を選択し、マウスポインタをそこに置いたままにします（変更する撮影位置は「**濃い**」色によって識別可能であり、非アクティブな撮影位置は「**薄い**」色で表示されます）。

- マウスの左ボタンを押したままの状態で、撮影位置を画面上の任意の位置にドラッグできます。
- 右クリックすると、追加機能を備えたコンテキストメニューが表示されます。

コンテキストメニューの機能

- " ズーム + "
  撮影位置が段階的に拡大されます。
- " ズーム - "
  撮影位置が段階的に縮小されます。
- " 回転 "
  撮影位置のセンサーが右に 90 度回転し、もう一度押すと左に 90 度回転します。
- " 歯牙 "
  「画像内でこの検査に割り当てる歯牙をクリックしてください。割り当てた歯牙を再度クリックすると、画像への割り当てがキャンセルされます。」のメッセージが表示されます。「歯牙の登録変更」を参照してください。
- サイズ #2（フル）
  印を付けた撮影位置のセンサータイプをフルサイズセンサーに切り替えます。

- サイズ #1（ユニバーサル）
  印を付けた撮影位置のセンサータイプをユニバーサルセンサーに切り替えます。
- "Anterior"
  センサーホルダーを前歯撮影用（青）に切り替えます。
- "Bitewing"
  センサーホルダーを咬翼撮影用（赤）に切り替えます。
- "Posterior"
  センサーホルダーを臼歯撮影用（黄）に切り替えます。
- " 削除 "
  撮影テンプレートの撮影位置を削除します。

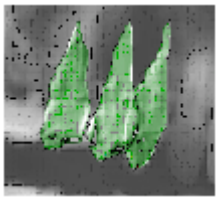
5.2.5 歯牙の登録変更

説明

アクティブな撮影位置に登録されたそれぞれの歯は、歯ウィンドウ **B** でハイライト表示**されます。**

撮影位置に一覧表示された歯牙は、個別に削除および挿入できます。

画面の例



機能

1. 撮影テンプレートウィンドウ **C** で該当する撮影位置をアクティブにします。
2. 歯牙ウィンドウ **B** で、この撮影に追加する、または撮影から削除する歯牙をクリックします。
3. この操作を取り消すには、もう一度歯牙をクリックします。

5.2.6 撮影位置順序の定義

説明

デフォルトでは、センサー画像の取得順序は、撮影テンプレートで入力されたセンサーの順に定義されています。

この順序は変更できます。

機能

1. 「" 撮影順序 "」チェックボックスをオンにします。
2. 希望の順序で撮影位置をクリックします。

注記

順序を再度変更する場合や、この操作中に設定を誤った場合は、チェックボックスをオフにし、もう一度オンにしてから手順をやり直す必要があります。

5.3 標準の検査結果の処理

説明

「" 画像の説明 "」と「" オーダー作成 "」ダイアログボックス内のコンテキストメニュー（画面例を参照）を通じて提供された標準の検査結果を個別に適用することができます。

画面の例

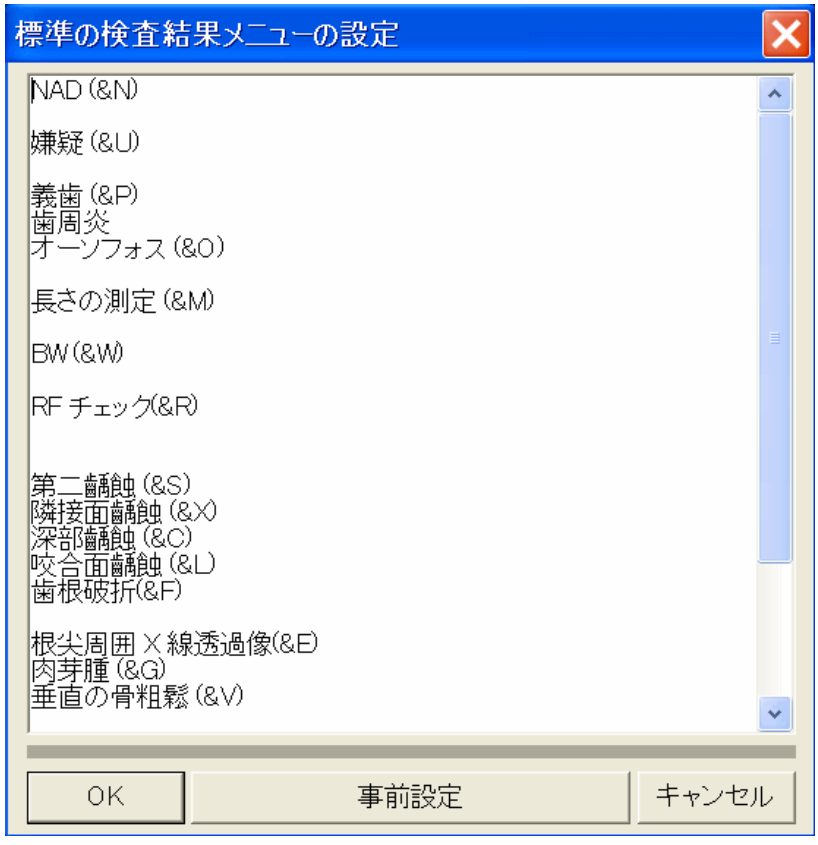
機能のアクティブ化

1. メニューバー「" エクストラ "」から、メニュー項目 " システムの設定 " を選択します。
2. 「" 標準の検査結果 "」ボタンを押します。

↳ 編集ダイアログが表示されます。

機能

この操作を行うには、キーボードを使用して直接一覧にテキストを入力します。



[Enter] キーを使用して個々のエントリーを入力します。エントリーは、できる限り短くしてください。

「&」記号を使用して、独自のホットキーを定義できます。「&」記号の後ろに入力する文字が、このエントリーのホットキーになります。メニューではこの文字が下線を付けて表示されます。「&」記号は表示されません。各エントリー内で、この文字は一度しか使用

できません。ホットキーを最適に利用するために、すべてのメニューで一意のホットキーを使用することをお勧めします。同じホットキーを 2 度割り当てることは避けてください。

各ブロックの間を空白行で区切って見やすくします。2 行連続して空白行を入れると、新しい欄ができます。

「" 事前設定 "」ボタンを使用すると、初期設定に戻すことができます。

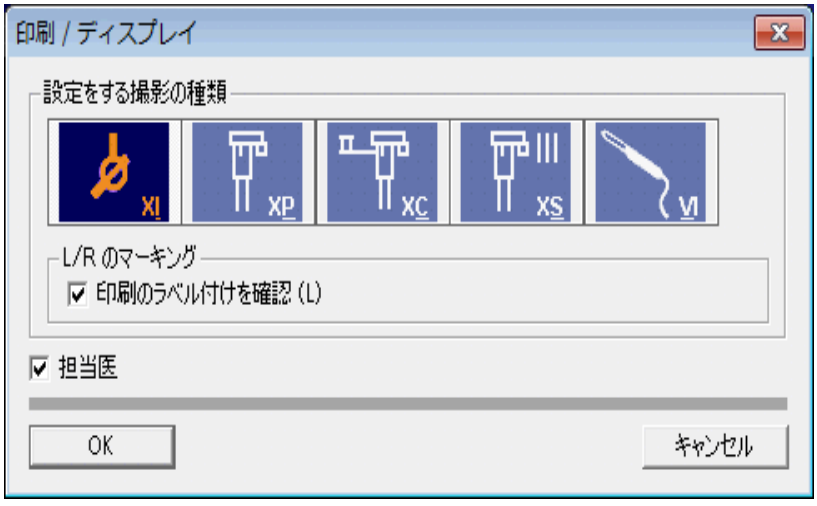
5.4 印刷の設定

機能のアクティブ化

1. " エクストラ " メニューバーを使用して、メニュー項目 " システムの設定 " を選択します。
2. " 印刷 " ボタンを押します。

ダイアログボックスが開きます。

ダイアログボックス



" 設定をする撮影の種類 " 領域

この機能は、関連する画像にまだ "L/R のマーキング " がない印刷画像に歯牙位置マーカーを挿入するかどうかを決定します。

ボタンを（個別にまたは組み合わせて）クリックして、選択した設定をアクティブにする画像タイプを決定します（「撮影の設定 [➟ 147]」の項も参照）。

" 担当医 " チェックボックス

" 担当医 " チェックボックスをオフにした場合、担当医データは印刷されません。

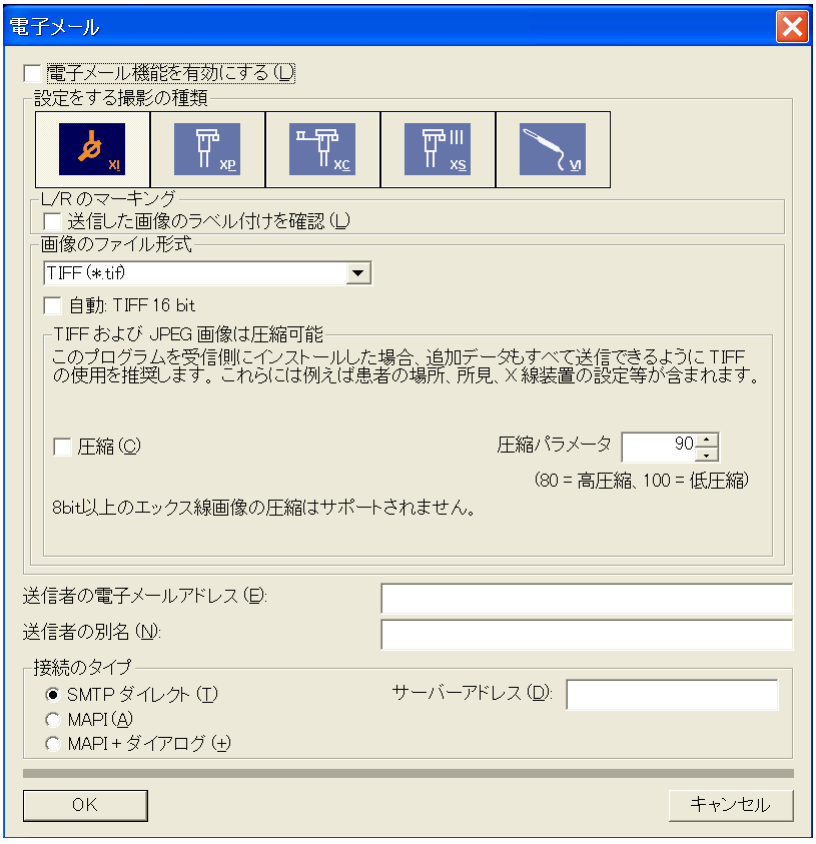
5.5 電子メールの設定

機能のアクティブ化

1. メニューバー「" エクストラ "」から、メニュー項目 " システムの設定 " を選択します。
2. 「" 電子メール "」ボタンを押します。

➥ ダイアログボックスが表示されます。

ダイアログボックス



" 電子メール機能を有効にする "

電子メール機能をアクティブにします

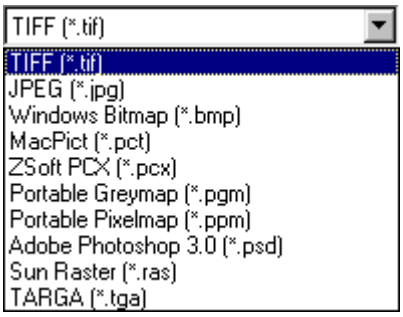
ダイアログの構造

" 設定をする撮影の種類 "

ボタンを（個別にまたは組み合わせて）クリックし、選択した設定をアクティブにする画像タイプを決定できます。

" 設定をする撮影の種類 " / "L/R のマーキング "

ここでは、この画像に対して「"L/R のマーキング "」がまだ選択されていない場合に、歯の位置マーカーを電子メールで送信するかどうかを選択できます（「撮影の設定 [➙ 147]」の項を参照)。



" 設定をする撮影の種類 "/ " 画像のファイル形式 "

ドロップダウンリストから、画像を電子メールで送る場合に使用するファイル形式を選択します。

TIFF および JPEG 画像は圧縮できます（「撮影の設定 [→ 147]」の項を参照）。

注記

ビット深度が 8 ビット以上の X 線画像の圧縮は現在サポートしていません。

" 送信者の電子メールアドレス :"

ここに送信者の電子メールアドレスを必ず**入力してください。**

" 送信者の別名 :"

ここに送信者の別名を入力できます。

" 接続のタイプ "

電子メールサービスを選択します。

- **"SMTP ダイレクト "**

  SIDEXIS 電子メールダイアログボックスが開きます。この場合、サーバーのアドレスを入力する必要があります。

- **"MAPI"**

  SIDEXIS 電子メールダイアログボックスが開きます。

- **"MAPI + dialog"**

  オペレーティングシステムの電子メールクライアントを開きます（Microsoft® Outlook など）。

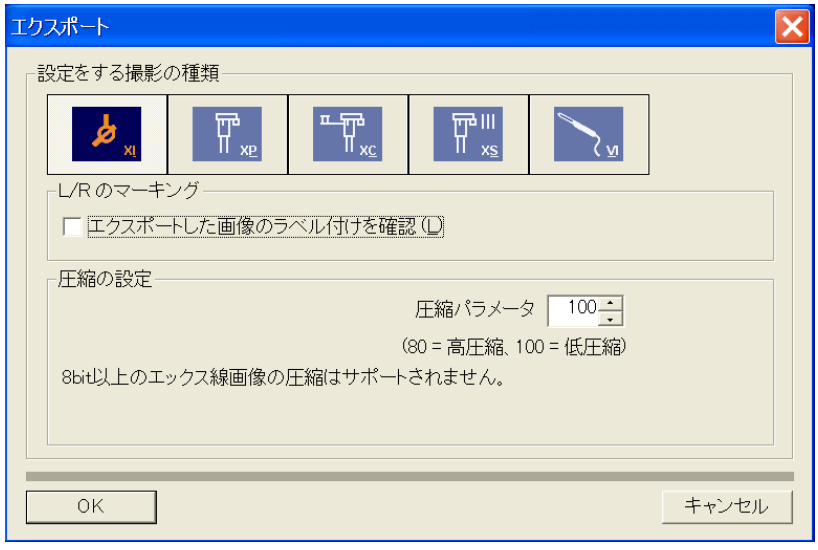
5.6 エクスポート機能の設定

機能のアクティブ化

1. メニューバー「" エクストラ "」から、メニュー項目 " システムの設定 " を選択します。
2. 「" エクスポート "」ボタンを押します。

➥ ダイアログボックスが表示されます。

ダイアログボックス



ダイアログの構造

" 設定をする撮影の種類 "

この機能を使用すると、X 線画像の設定をエクスポートできます。

ボタンを（個別にまたは組み合わせて）クリックし、選択した設定をアクティブにする画像タイプを決定できます。

" 設定をする撮影の種類 " / "L/R のマーキング "

ここでは、この画像に対して「"L/R のマーキング "」がまだ選択されていない場合に、歯の位置マーカーを印刷画像に挿入するかどうかを選択できます（「撮影の設定 [➙ 147]」の項を参照）。

" 設定をする撮影の種類 " / " 圧縮の設定 "

TIFF および JPEG 画像は圧縮できます（「撮影の設定 [➙ 147]」の項を参照）。

注記

ビット深度が 8 ビット以上の X 線画像の圧縮は現在サポートしていません。

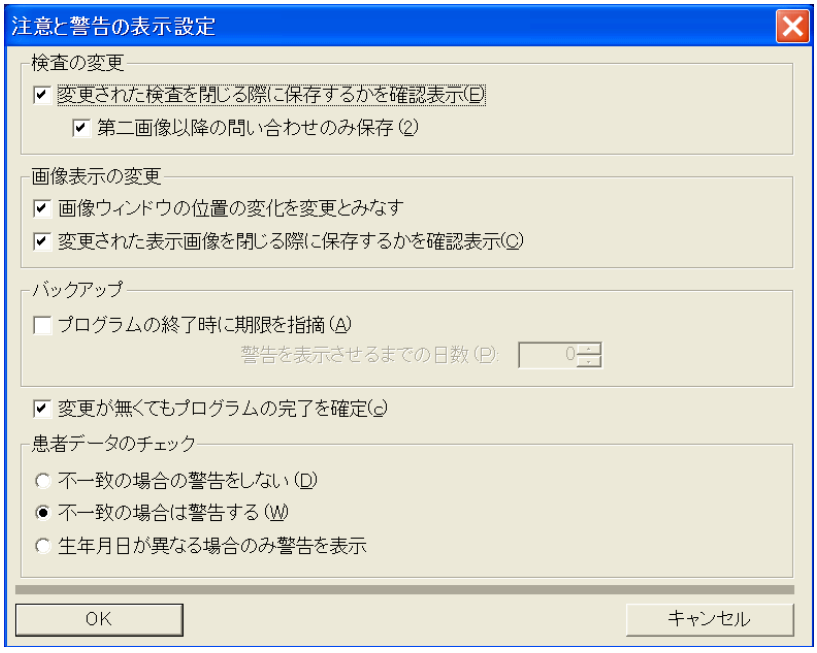
5.7 リマインダー機能の設定

機能のアクティブ化

1. メニューバー「" エクストラ "」から、メニュー項目 " システムの設定 " を選択します。
2. 「" 注意と警告の表示 "」ボタンを押します。

➥ ダイアログボックスが表示されます。

ダイアログボックス



ダイアログの構造

" 検査の変更 "

検査を閉じる前に検査の変更を確認します。

プログラムにより、変更を保存するか否かを尋ねられます。

" 画像表示の変更 "

画像を閉じる前に画像の変更を確認します。

プログラムにより、変更を保存するか否かを尋ねられます。

" バックアップ "

SIDEXIS ソフトウェアを終了すると、ここで指定した時間間隔（日数）でメッセージが表示されます。

" 患者データのチェック "

このオプションは、画像に保存された患者データと現在の患者データを比較する場合に利用します。

5.8 定常性テストオプションの設定

機能のアクティブ化

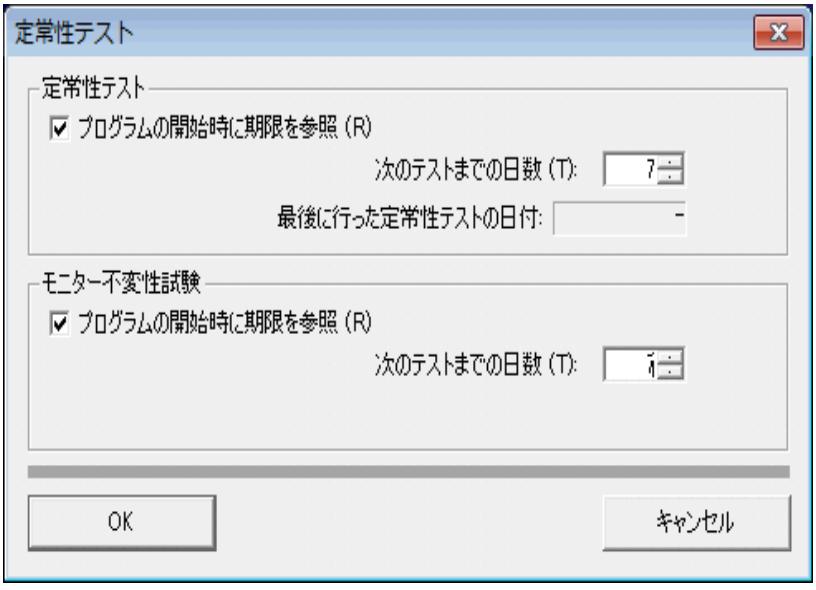
1. " エクストラ " メニューバーを使用して、メニュー項目 " システムの設定 " を選択します。
2. " 定常性テスト " ボタンを押します。

↳ ダイアログボックスが開きます。

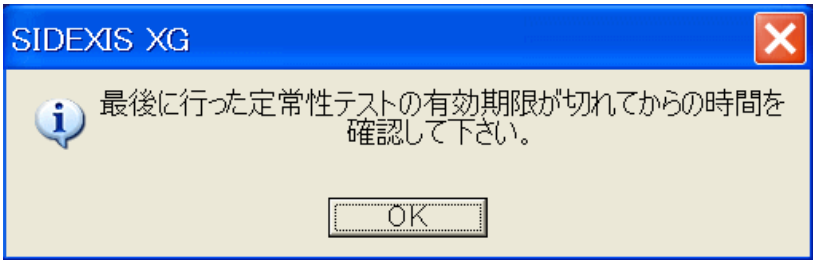
定常性テストの設定

" 定常性テスト " 領域

定常性テストを X 線装置で実行する必要があるステーションでは、" 定常性テスト " 領域で対応するエントリを入力できます。この操作を行うには、" プログラムの開始時に期限を参照 " オプションをアクティブにし、次回のテスト実施期限を入力する必要があります。このステーションで前回実行された定常性テストの日付も、参考として表示されます。



SIDEXIS XG システムを起動すると、次回のテスト日が表示されます。



定常性テストが不要なワークステーションの場合は、プログラムの起動中にメッセージが表示されないようにするため、" プログラムの開始時に期限を参照 " オプションをオフにするだけで十分です。

" モニター不変性試験 " 領域

定常性テストのリマインダー機能と同時に、" モニター不変性試験 " 領域でモニター定常性テストのリマインダーも設定できます。

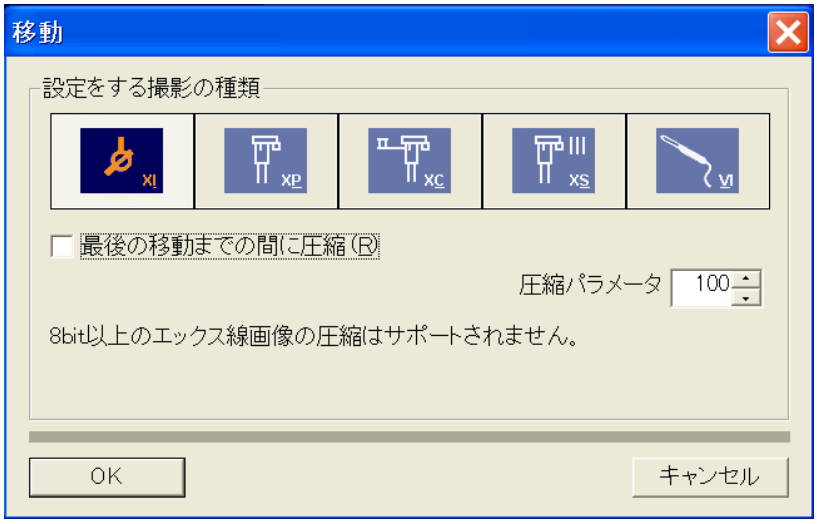
5.9 移動機能の設定

機能のアクティブ化

1. メニューバー「" エクストラ "」から、メニュー項目 " システムの設定 " を選択します。
2. 「" 移動 "」ボタンを押します。

➥ ダイアログボックスが表示されます。

ダイアログボックス



ダイアログの構造

" 設定をする撮影の種類 "

ボタンを（個別にまたは組み合わせて）クリックし、選択した設定をアクティブにする画像タイプを決定できます。

" 設定をする撮影の種類 "/" 最後の移動までの間に圧縮 ""

このオプションが選択されていると、移動中、画像がすでに圧縮されているか否かをシステムがチェックします。圧縮されていない場合、画像は「" 圧縮パラメータ "」の指定に従って圧縮されます。

注記

ビット深度が 8 ビット以上の X 線画像の圧縮は現在サポートしていません。

" 設定をする撮影の種類 "/ " 圧縮パラメータ "

「撮影の設定 [➟ 147]」の項を参照してください。

5.10 担当医データの設定

注記

バージョン 4.2 から、複数の担当医を単一のリストで管理できるようになりました。このためには、ODBC データベースストラクチャが必要です。これは SIDEXIS 4.2 が新規インストールとしてセットアップされている場合です。それ以外の場合、このメニューは利用できません。

機能のアクティブ化

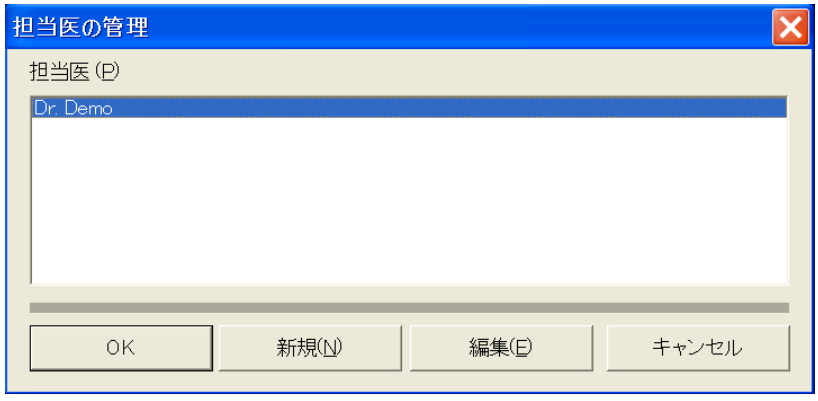
1. メニューバー「" エクストラ "」から、メニュー項目 " システムの設定 " を選択します。
2. 「" 担当医 "」ボタンを押します。

↳ ダイアログボックスが表示されます。

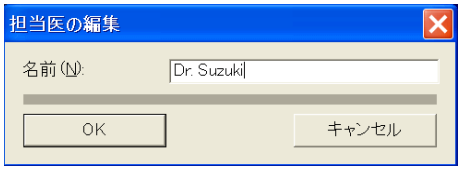
説明

新規に患者が登録されると、「" 新患 "」ダイアログボックスのピックリストから該当する担当医を選択できます（「新しい患者のデータは、どのように作成するのですか？ [➔ 48]」の項を参照してください）。

「" 担当医の管理 "」ダイアログボックスを使用すると、該当するデータを管理できます。



新しい担当医を追加した場合、「" 新規 "」ボタンをクリックすると、以下のダイアログボックスが表示されます。



ここに担当歯科医の名前を入力し、「"OK"」で確定します。

「" 編集 "」ボタンをクリックすると、同じダイアログボックスが表示されます。担当歯科医師の名前を修正または上書きします。

「" 担当医の管理 "」ダイアログボックスの内容を変更して「"OK"」で確定すると、新しいデータを追加するために SIDEXIS の再起動を促すメッセージが表示されます。

5.11 エラーログの表示

説明

サービスエンジニア専用の機能です。

「sidexis.log」ファイル（最大ファイルサイズ 100KB）が表示されます。このファイルには最近のエラーメッセージが記録されています。

機能のアクティブ化

1. メニューバー「" エクストラ "」から、メニュー項目 " システムの設定 " を選択します。
2. 「" エラーメッセージ履歴 "」ボタンを押します。

5.12 サービス

説明

「" サービス "」は、ハードウェアおよびソフトウェアコンポーネントのコンフィギュレーションと重要なシステムパラメータの調整を行うための専用プログラム領域です。このプログラム領域には、許可された技術者だけがサービスパスワードを使用してアクセスできます。

機能のアクティブ化

1. メニューバー「" エクストラ "」から、メニュー項目 " システムの設定 " を選択します。
2. 「" サービス "」ボタンを押します。

6 ボタンとホットキー

6.1 「検査」ツールバー

患者の登録

➢ ホットキー :「[Pos1]」キーを押します。

「患者の登録にはどのダイアログボックスを使用するのですか？ [➙ 44]」の項を参照してください。

患者のチェックアウト

「患者をチェックアウトするにはどうすればよいのですか？ [➙ 51]」の項を参照してください。

患者の新規登録

「新しい患者のデータは、どのように作成するのですか？ [➙ 48]」の項を参照してください。

患者データの変更

「患者のデータは、どのように修正するのですか？ [➙ 49]」の項も参照してください。

患者データの削除

「患者のデータは、どのように削除するのですか？ [➙ 50]」の項も参照してください。

1 つ先の手順

➢ ホットキー :[Enter] キーを押します。

「ワークフロー支援 [➙ 20]」の項を参照してください。

1 つ前の手順

➢ ホットキー :「[Esc]」キーを押します。

「ワークフロー支援 [➙ 20]」の項を参照してください。

中断されたワークフローの再開

「ワークフロー支援 [➙ 20]」の項を参照してください。

手順の繰り返し

「ワークフロー支援 [➙ 20]」の項を参照してください。

オーダーの作成

「マルチワークステーション環境におけるオーダーの発行 [➙ 22]」の項を参照してください。

オーダーの受理

「マルチワークステーション環境におけるオーダーの受理 [➔ 24]」の項を参照してください。

新規検査を開く

➢ ホットキー :[Ctrl]+[N] キーを同時に押します。

「検査の新規生成 [➔ 28]」の項を参照してください。

既存の検査を開く

➢ ホットキー :[Ctrl]+[O] キーを同時に押します。

「保存した検査を開く [➔ 30]」の項を参照してください。

検査を閉じる

「検査を閉じる [➔ 37]」の項を参照してください。

検査の保存

➢ ホットキー :[Shift]+[F12] キーを同時に押します。

「検査の保存 [➔ 32]」の項を参照してください。

検査を新しい名前で保存する

➢ ホットキー :「[F12]」キーを押します。

「検査の保存 [➔ 32]」の項を参照してください。

検査をテンプレートとして保存する

「自己生成テンプレート [➔ 43]」の項を参照してください。

テンプレートの管理

「テンプレートの管理 [➔ 43]」の項を参照してください。

検査データベースから検査を削除する

「検査の削除 [➔ 37]」の項を参照してください。

検査の印刷

「検査の印刷 [➔ 33]」の項を参照してください。

検査の印刷プレビュー

「印刷プレビュー [➔ 74]」の項を参照してください。

検査を印刷するプリンタの設定

「検査の印刷 [➔ 33]」の項を参照してください。

検査のインポート

「検査のインポート [➔ 36]」の項を参照してください。

検査のエクスポート

「検査の工クスポート [➔ 34]」の項を参照してください。

プログラムの切り替え

「プログラムの切り替え [➔ 25]」の項を参照してください。

プログラムの終了

「SIDEXIS XG の終了 [➔ 27]」の項を参照してください。

6.2 「画像」ツールバー

口腔内撮影のアクティブ化

➢ ホットキー :[Ctrl]+[Shift] +[I] キーを同時に押します。

「口腔内 X 線撮影 [➔ 81]」の項を参照してください。

複数の口腔内撮影のアクティブ化

「口腔内 X 線撮影 [➔ 81]」の項を参照してください。

新規検査を開く

➢ ホットキー :[Ctrl]+[N] キーを同時に押します。

「検査の新規生成 [➔ 28]」の項を参照してください。

パノラマ、セファロおよび TSA 断層撮影のアクティブ化

➢ ホットキー :[Ctrl]+[Shift] +[P] キーを同時に押します。

「パノラマ、セファロおよび TSA 断層撮影 [➔ 86]」の項を参照してください。

口腔内ビデオ撮影のアクティブ化

「ビデオ撮影 [➔ 89]」の項を参照してください。

画像のスキャン

「画像のスキャン [➔ 76]」の項を参照してください。

スキャナの設定

「画像のスキャン [➔ 76]」の項を参照してください。

画像データベースから表示する画像を選択する

「SIDEXIS データベースから取得した画像を開く [➔ 53]」の項を参照してください。

画像を閉じる

➢ ホットキー :[Esc] キーを押します。

「画像を閉じる [➔ 65]」の項を参照してください。

現在の画像を新しい画像として保存する

「画像表示の保存 [➔ 52]」の項を参照してください。

画像の削除

「SIDEXIS データベースから取得した画像を削除する [➔ 66]」の項を参照してください。

画像の印刷

➢ ホットキー :[Ctrl]+[P] キーを同時に押します。

↳ インストールされているデフォルトプリンタで画像が印刷されます。

「画像と検査結果の印刷 [➔ 73]」の項を参照してください。

「イメージビュー」の印刷プレビュー

「印刷プレビュー [➔ 74]」の項を参照してください。

画像の送信

「画像の送信 [➔ 78]」の項を参照してください。

電子メールで画像を送信する

「電子メールとしてインターネット経由で画像を送信する [➔ 77]」の項を参照してください。

画像のインポート

「画像のインポート [➔ 72]」の項を参照してください。

画像のエクスポート

「画像の工クスポート [➔ 70]」の項を参照してください。

6.3 「編集」ツールバー

直前のフィルタ操作の取り消し

➢ ホットキー :[Ctrl]+[Z] キーを同時に押します。

「最後のフィルタ操作を取り消す [➔ 126]」の項を参照してください。

Windows クリップボードに選択した画像をコピーする

➢ ホットキー :[Ctrl]+[C] キーを同時に押します。

「Windows クリップボードに選択中の画像をコピーする [➔ 40]」の項を参照してください。

Windows クリップボードから画像をワークスペースに貼り付ける

➢ ホットキー :[Ctrl]+[V] キーを同時に押します。

「Windows クリップボードから画像を貼り付ける [➔ 41]」の項を参照してください。

オブジェクトの削除

➢ ホットキー :「[Del]」キーを押します。

「ワークスペースからオブジェクトを削除する [➔ 40]」の項を参照してください。

6.4 「分析」ツールバー

マウスアジャスタを使った明度とコントラストの設定

➢ ホットキー :[Ctrl]+[Shift] +[M] キーを同時に押します。

「マウスアジャスタを使った明度とコントラストの設定 [➔ 115]」の項を参照してください。

ワークスペース内のオブジェクトを選択するための標準のマウスポインタ

「ワークスペース内でオブジェクトを選択する [➔ 94]」の項を参照してください。

ハンド

➢ ホットキー :[Ctrl] キーを押して、左マウスボタンをダブルクリックします。

「画像セグメントの移動 [➔ 105]」の項を参照してください。

画像フィルタの関心領域を決定する

「画像フィルタの関心領域を決定する [➔ 116]」の項を参照してください。

コントラストの最適化

「トーチ機能 [➔ 127]」の項を参照してください。

反転

「トーチ機能 [➔ 127]」の項を参照してください。

拡大

「トーチ機能 [➔ 127]」の項を参照してください。

矢印

「矢印 [➔ 132]」の項を参照してください。

フリーハンドライン

「フリーハンドライン [➔ 132]」の項を参照してください。

ライン

「ライン [➔ 133]」の項を参照してください。

テキストフィールド

「テキストフィールド [➔ 133]」の項を参照してください。

歯列矯正専用描画ツール

「歯列矯正専用描画ツール [➔ 134]」の項を参照してください。

長方形

「長方形 [➔ 134]」の項を参照してください。

楕円形

「楕円形 [➔ 135]」の項を参照してください。

距離計測

「距離計測 [➔ 95]」の項を参照してください。

距離計測値の調整

「距離計測結果の補正 [➔ 98]」の項を参照してください。

角度の計測

「角度の計測 [➔ 99]」の項を参照してください。

相対的な骨密度の測定

「相対的な骨密度の測定 [➔ 101]」の項を参照してください。

オリジナル画像の復元

「オリジナル画像の復元 [➔ 94]」の項を参照してください。

オブジェクトプロパティの表示

「オブジェクトプロパティの表示と変更 [➔ 39]」の項を参照してください。

コントラストの最適化フィルタ

「コントラストの最適化 [➔ 120]」の項を参照してください。

平滑化フィルタ

「平滑化 [➔ 121]」の項を参照してください。

シャープネスフィルタ

「シャープネス [➔ 122]」の項を参照してください。

可変シャープネスフィルタ

「シャープネス（ユーザー定義）[➔ 123]」の項を参照してください。

ノイズ低減フィルタ

「ノイズの低減 [➔ 125]」の項を参照してください。

ドットフィルタ

「ドットノイズの除去 [➔ 124]」の項を参照してください。

レリーフ表示フィルタ

「レリーフ表示 [➔ 126]」の項を参照してください。

画像の反転

➢ ホットキー :[Ctrl]+[I] キーを同時に押します。

「反転 [➔ 118]」の項を参照してください。

擬似カラー表示

➢ ホットキー :[Ctrl]+[F] キーを同時に押します。

「色の塗りつぶし [➔ 116]」の項を参照してください。

明度とコントラストの設定を適用する

「明度とコントラストの設定を適用する [➔ 118]」の項を参照してください。

関心領域内でのみアクティブな明度とコントラストの調節

「関心領域の明度とコントラストの調節 [➔ 117]」の項を参照してください。

6.5 「表示」ツールバー

選択画像の最大化

「フルフレームモード [➔ 109]」の項を参照してください。

選択中の画像を標準サイズに縮小する

➢ ホットキー :[Esc] キーを押します。

「フルフレームモード [➔ 109]」の項を参照してください。

拡大

➢ ホットキー :[+] キーを押します。

「画像の拡大、縮小 [➔ 104]」の項を参照してください。

縮小

➢ ホットキー :[-] キーを押します。

「画像の拡大、縮小 [➔ 104]」の項を参照してください。

詳細情報

➢ ホットキー :[Ctrl]+[+] キーを同時に押します。

「画像の拡大、縮小 [➔ 104]」の項を参照してください。

要約情報

➢ ホットキー :[Ctrl]+[-] キーを同時に押します。

「画像の拡大、縮小 [➔ 104]」の項を参照してください。

ワークスペースでの画像のタイル表示

「タイル表示 [➔ 107]」の項を参照してください。

ワークスペースに画像をオーバービュー表示として並べる

「オーバービュー表示 [➔ 107]」の項を参照してください。

ワークスペースに画像を解剖学的位置に従って並べる

「歯列概要 [➔ 108]」の項を参照してください。

ワークスペースに画像をカスケード表示する

「カスケード表示 [➔ 109]」の項を参照してください。

選択画像を左に 90 度回転する

➢ ホットキー :[Ctrl]+[L] キーを同時に押します。

「回転 [➔ 111]」の項を参照してください。

選択画像を右に 90 度回転する

➢ ホットキー :[Ctrl]+[R] キーを同時に押します。

「回転 [➔ 111]」の項を参照してください。

選択画像を 180 度回転する

「回転 [➔ 111]」の項を参照してください。

特殊機能 – 常に手前に表示

「特殊機能 – 常に手前に表示 [➔ 136]」の項を参照してください。

ズーム機能のアクティブ化

「ズーム [➔ 110]」の項を参照してください。

表示域機能のアクティブ化

「表示域 [➔ 106]」の項を参照してください。

「変換」関数のアクティブ化

「変換関数 [➔ 128]」の項を参照してください。

ステータスバーの表示 / 非表示

「画面のレイアウト [➔ 17]」の項を参照してください。

ユーザーインターフェイスのカスタマイズ

「ユーザーインターフェイスとプラグイン管理のカスタマイズ [➔ 182]」の項を参照してください。

6.6 「ユーティリティ」ツールバー

定常性テストを開く

「定常性テスト [➔ 142]」の項を参照してください。

画像ストックの移動

「画像ストックデータの移動（再配置）手順 [➔ 139]」の項を参照してください。

システム構成のアクティブ化

「システム設定 [➔ 146]」の項を参照してください。

6.7 「ヘルプ」ツールバー

オンラインヘルプを開く

インストールされているシステムに関する情報

「SIDEXIS、インターネット接続に関する情報 [→ 26]」の項を参照してください。

7 付録

7.1 DICOM Export Wrap&Go

説明

この機能を使用すると、検査一式およびビューアが CD に自動的に書き込まれます。この機能は、たとえば主治医間で患者データを交換する場合に使用します。

注記

この機能を実行するには、SIDEXIS ステーションに書き込みドライブが実装されている必要があります。

準備

エクスポートする検査を開きます。

機能のアクティブ化

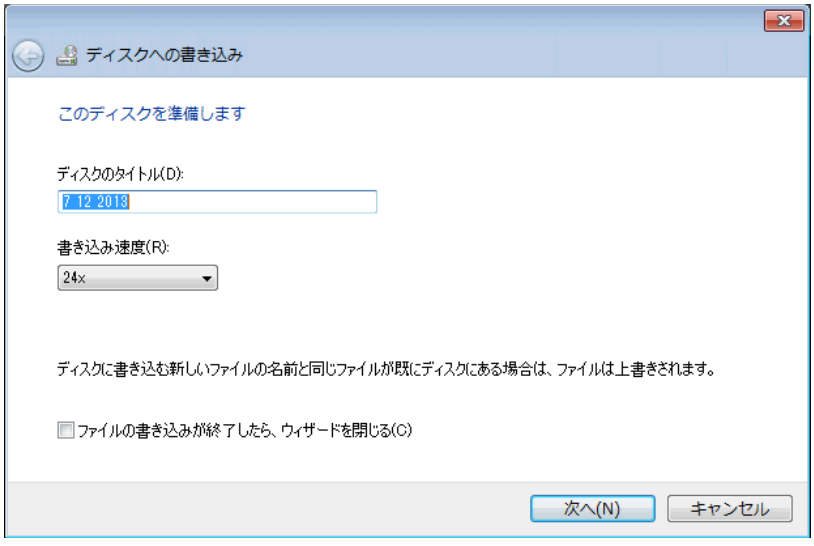
➢ ボタンをクリックします。

または

➢ メニューバー " エクストラ "/"Plugins" で、メニュー項目 "DICOM Export Wrap&Go" を選択します。

データのエクスポート／CD への書き込み

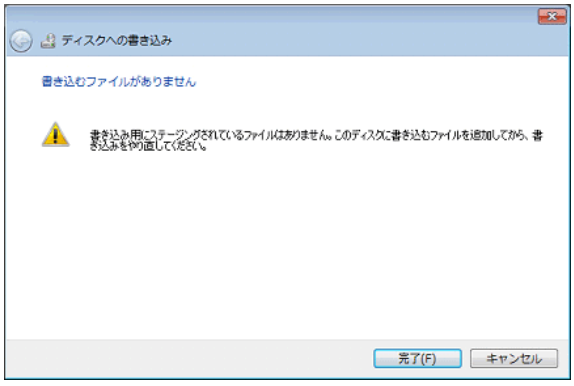
CD に書き込むための Windows アシスタントが表示されます。



Windows のウィザード画面の指示に従って、データを CD に書き込みます。

発生する可能性があるエラー

SIDEXIS ステーションに利用可能な CD バーナーがない、または Windows アシスタントが非アクティブになっている場合、Windows アシスタントは表示されず警告メッセージが表示されます。



この場合、OK をクリックして警告を確認します。

保存先を選択するように要求するダイアログボックスが表示されます。

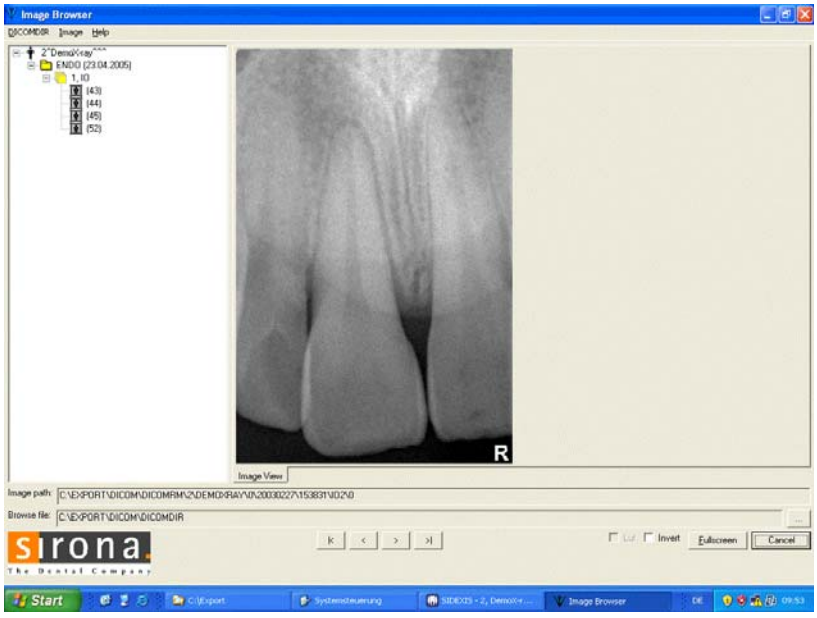
ダイアログボックスで、保存先を選択し確定します。

検査データは、選択された場所にエクスポートされます。これにより、目的とするデータの処理を継続することができます。たとえば、好みの書き込みソフトを使用してデータを CD に書き込むことができます。

データのインポート

CD を CD ドライブに挿入すると、ビューアの起動画面が表示されます。

画像ビューアボタンをクリックすると、検査データがビューアに表示されます。



構造ツリーまたは矢印キーを使用して各画像を選択します。

7.2 バックアップのコピー

基本 – バックアップコピー

システムのデータセキュリティを向上させ、固定されたコンポーネントの障害発生時のデータ損失を防止するために (ハードディスクなど)、ユーザーは定期的にデータと SIDEXIS ソフトウェアをバックアップする必要があります。

前述のようなコピーを一般的にバックアップと呼びます。

注記

データ損失の危険性を最小限に抑えるために、バックアップは 1 日に数回作成できます。

注記

バックアップ中にステーションからデータにアクセスすると、効率が低下する場合があることに注意してください。このため、バックアップは夜間などの、システムの作業量が低下している間に行うことをお勧めします。

バックアップ

バックアップは 2 つのステップで実行する必要**があります。**

- ステップ 1 – データベースのバックアップ [➙ 179]
- ステップ 2 – ファイルベースのバックアップ [➙ 180]

復元

復元は 2 つのステップで実行する必要**があります。**

- ステップ 1 - バックアップファイルの復元「ファイルベースのバックアップ [➙ 180]」の項を参照してください。
- ステップ 2 – データベースの復元 [➙ 180]

7.2.1 データベースのバックアップ

説明

基本的に、データベースサーバー上のデータはファイル単位でバックアップすることはできません。

そのため、データベースは個別に作成したフォルダ「\DBBackup」の下の画像データフォルダ「\PDATA」にバックアップすることをお勧めします。

これにより、画像データフォルタのバックアップ時、データベースも自動的にバックアップされます。

注記

バックアップは使用しているデータベースサーバーにより実行することが必要です。

7.2.1.1 例 :SQL Server 2005

説明

SIDEXISXG バージョン 1.6 以降の標準インストールでは、SQL Server 2005 Express がインストールされ、データベース「PDATA_SQLEXPRESS」が作成されます。

このインストール例はデータベースのバックアップ手順の説明に使用します。

前提条件

バックアップはデータベースが組み込まれているコンピュータ上で実行する必要があります。

データベース「PDATA_SQLEXPRESS」だけでなく、データベース「Master」もバックアップする必要があります。

- データベース「Master」にはユーザー情報とパスワード情報が含まれています。

バックアップ

SIDEXIS XG には、データベース「PDATA_SQLEXPRESS」とデータベース「Master」をバックアップするためのアプリケーションとして「NGSQLBackup.exe」が用意されています。

- このアプリケーションは SIDEXIS XG インストール CD のディレクトリ `\Tools\NGSQLBACKUP` にあります。
- このディレクトリには、アプリケーションの詳細な説明が記載されたテキストファイル（readme.txt）も含まれています。

ヒント

ここに説明するコマンドを使用してバッチファイルを作成し、Windows の「タスク」機能を使用してバッチファイルを定期的に実行することにより、データのバックアップを自動化できます。

7.2.1.2 その他のデータベースサーバー

データのバックアップと復元に関する詳細は、ご使用のデータベースサーバーのメーカーにお問い合せください。

7.2.2 ファイルベースのバックアップ

前提条件

データベースはバックアップ済みであることが必要です。「ファイルベースのバックアップ [➔ 179]」の項を参照してください。

注記

重要な追加情報

バックアップコピーの作成をデータの移動と混同しないでください。

バックアップするディレクトリ

バックアップするファイル / ディレクトリの型式	標準インストール時のパス（必要に応じて調整）
SIDEXIS プログラムのディレクトリ	C:\SIDEXIS
シロナプログラムのディレクトリ	C:\Program Files\Sirona
データベースのバックアップを含む画像データフォルダ	< ドライブ名 >\PDATA

準備

⚠ 注意

常に十分な数の記憶メディアを用意しておいてください。

基本的には（データ量がメディアの記憶領域を超えない限り）1 つの記憶メディアにすべてのバックアップコピーを保存できます。

バックアップの頻度

バックアップの頻度は、データ量、つまりシステムで生成した画像の数によって異なります。損失したデータは、最後のバックアップが実行された時点までしか復元できませんので、注意してください。

7.2.3 データベースの復元

基本的に、データベースサーバー上のデータは、ファイル単位でバックアップすることはできません。

そのため、データベースは個別に作成したフォルダ「\DBBackup」の下の画像データフォルダ「\PDATA」にバックアップすることをお勧めします。

- これにより、画像データフォルダのバックアップ時、データベースもバックアップされます。

前提条件

バックアップしたデータベースを復元するために、最初に画像データフォルダのバックアップを復元する必要があります。

「ファイルベースのバックアップ [➔ 180]」の項を参照してください。

7.2.3.1 例 :SQL Server 2005

前提条件

データベースの復元は、SQL Server が組み込まれているコンピュータ上で実行することが必要です。

データベース「PDATA_SQLEXPRESS」だけでなく、データベース「Master」も復元する必要**があります。**

- データベース「Master」にはユーザー情報とパスワード情報が含まれています。

データベースの復元

注記

詳細は、SIDEXIS XG サービスマニュアルを参照してください。

注記

以下の説明では、Windows にログインしたユーザーが SQL Server の管理者権限を持っていることを前提としています。

⚠ 注意

データ損失の可能性

データベースを復元すると、バックアップされていないデータは永久に削除されます。

データの復元は、熟練したシステム管理者が実施してください。

SIDEXIS XG には、データベース「PDATA_SQLEXPRESS」とデータベース「Master」を復元するためのアプリケーション「NGSQLBackup.exe」が用意されています。

- このアプリケーションは SIDEXIS XG インストール CD のディレクトリ `\Tools\NGSQLBACKUP` にあります。
- このディレクトリには、アプリケーションの詳細な説明が記載されたテキストファイル（readme.txt）も含まれています。

ヒント

マイクロソフト（www.microsoft.com）から無償で提供されているツール「SQLManagement Studio Express」を使用すると、バックアップデータの復元はさらに簡単です。

7.2.3.2 その他のデータベースサーバー

データのバックアップと復元に関する詳細は、ご使用のデータベースサーバーのメーカーにお問い合せください。

7.3 ユーザーインターフェイスとプラグイン管理のカスタマイズ

説明

インターフェイスのカスタマイズにより、SIDEXIS XG ソフトウェアをユーザー固有の要件や要望に適合させることができます。

機能のアクティブ化

➢ ボタンをクリックします。

または

➢ メニューバー「" 表示 "」から、メニュー項目 " カスタマイズ " を選択します。

↳ 「保存」ダイアログボックスが表示されます。

機能

機能が起動すると、「" カスタマイズ "」コンフィギュレーションウィンドウが表示されます。

4 種類のタブを使用してユーザーインターフェイスのコンフィギュレーションとプラグインの管理を行うことができます。

基本機能

「" カスタマイズ "」コンフィギュレーションウィンドウが開くと、ツールバー間で「ドラッグ&ドロップ」により、ツール（コマンドボタン）を移動したり、削除することができます。

- ツールはマウスを使用してワークスペースにドラッグ & ドロップすることで削除できます。

注記

この機能は SIDEXIS XG ユーザーインターフェイスの [Alt] キーを押したままにすることでも同様に実行できます。

その場合、「″ カスタマイズ ″」コンフィギュレーションウィンドウを開く必要はありません。

リセット

「ツールバー [➔ 184]」の項を参照してください。

タブ

以下のタブを利用できます。

- コマンド [➔ 183]
- ツールバー [➔ 184]
- プラグインマネージャ [➔ 186]
- オプション
- アクセス権 [➔ 192]
- カスタマイズ [➔ 197]

7.3.1 コマンド

説明

「" コマンド "」タブにはすべてのプログラムツール（コマンドおよびツールバーのボタン）が一覧表示されます。

プログラムツールは、SIDEXIS XG ユーザーインターフェイス（デスクトップ）のツールバーに割り当てることができます。

機能のアクティブ化

1. メニューバー「" 表示 "」から、メニュー項目 " カスタマイズ " を選択します。
2. 「" コマンド "」タブを選択します。

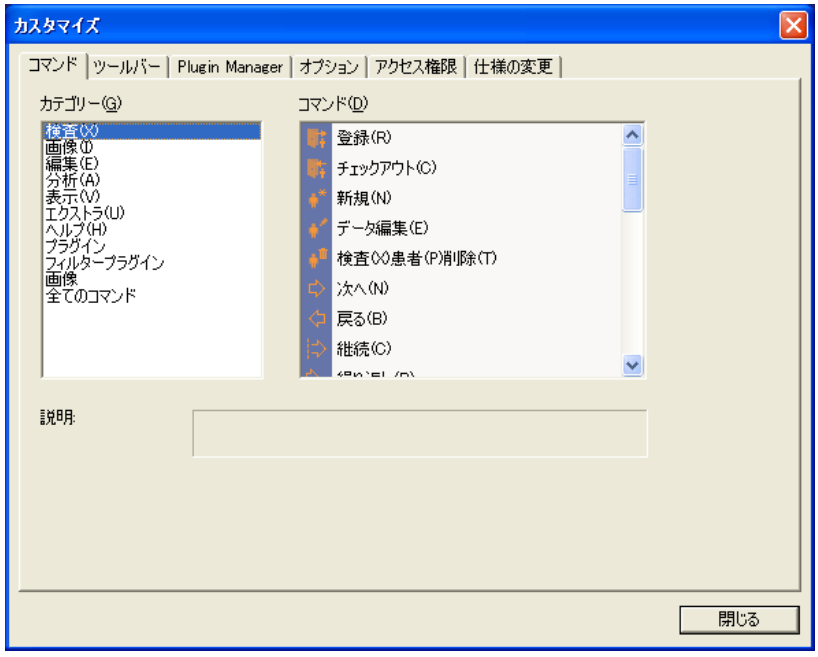
構造

- メニューバータイトルは（「" カテゴリー "」）タブの左側に配置されます。
- 選択したメニューバータイトルのツールは（「" コマンド "」）タブの右側に配置されます。

機能

ツールは、ドラッグ & ドロップ操作により SIDEXIS XG ユーザーインターフェイスのツールバーに割り当てることができます。

ダイアログボックス



7.3.2 ツールバー

説明

SIDEXIS XG ユーザーインターフェイスのツールバーは、" ツールバー " タブで管理されます。

機能のアクティブ化

1. " 表示 " メニューバーを使用して、メニュー項目 " カスタマイズ " を選択します。
2. " ツールバー " タブを選択します。

操作

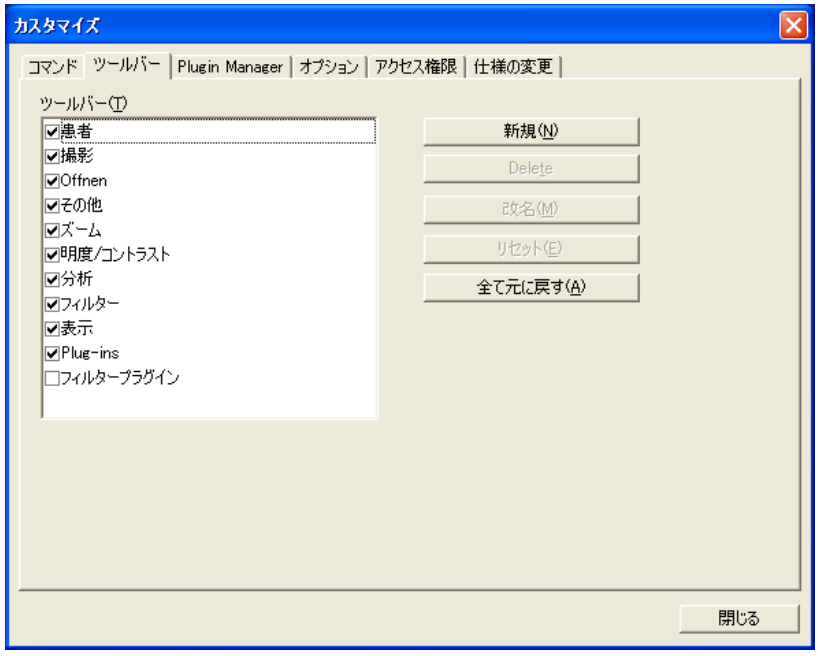
- " ツールバー " 選択ウィンドウ
  SIDEXIS XG ユーザーインターフェイスの既存のツールバーは、チェックボックスをクリックすることで表示／非表示を切り替えることができます。

注記

既存のツールバーを表示または非表示にする簡単な方法については、「ツールバーの表示 / 非表示 [➔ 185]」の項を参照してください。

- " 新規 " ボタン
  " 新規 " ボタンをクリックすると、新しいツールバーを作成できます。
- " 削除 " ボタン
  " 削除 " ボタンをクリックすると、カスタムで作成したツールバーを削除できます。
- " 改名 " ボタン
  " 改名 " ボタンをクリックすると、カスタムで作成したツールバーの名前を変更できます。
- " リセット " ボタン
  " リセット " ボタンをクリックすると、ツールバーを工場出荷時の状態に戻すことができます。
  ツールバーの位置は変化しません。
- " 全て元に戻す " ボタン
  " 全て元に戻す " ボタンをクリックすると、すべてのツールバーを工場出荷時の状態に戻すことができます。
  ツールバーの位置は変化しません。

ダイアログボックス



7.3.2.1 ツールバーの表示 / 非表示

説明

前述した " ツールバー " 選択ウィンドウに加えて、SIDEXIS XG ユーザーインターフェイスのメニューバーからツールバーを直接表示または非表示にすることもできます。

機能のアクティブ化

1. メニューバーの上にマウスポインタを移動します。
2. 右マウスボタンを押します。

➪ 既存のツールバーの名前をすべて含むポップアップメニューが表示されます。

機能

- 既存のツールバーは、チェックボックスをクリックすることで表示／非表示の切り替えができます。

設定ダイアログボックスを開く

" カスタマイズ " 設定ウィンドウは、チェックボックスのリストの下にある設定記号によってアクティブにすることができます。

7.3.3 プラグインマネージャ

説明

実証済みの標準プラグインインターフェイスによって、追加機能（データベースなど）と画像機能（画像フィルタなど）を、既存の SIDEXIS XG 環境に簡単に統合することができます。

⚠ 注意

プラグインインターフェイスによる画像処理ソフトウェアの統合、これらのソフトウェアの利用、結果として生成された画像の使用に関する責任は、ユーザーが負うものとします。これらのソフトウェアを利用した結果得られた画像は、医学的評価および医療目的に適さない場合があります。したがって、シロナではこれらのソフトウェアで生成または処理された画像に対して一切の責任を負いません。

適用範囲

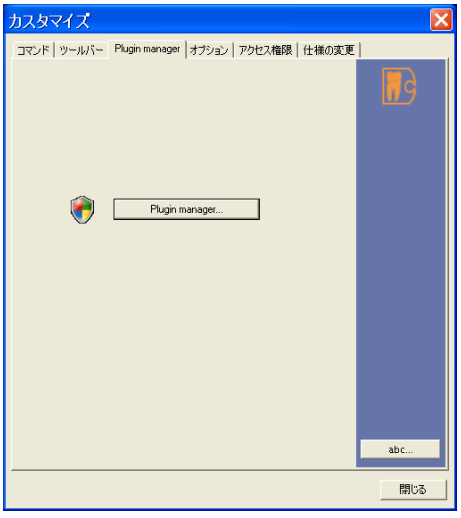
⚠ 注意

プラグインマネージャを操作するには管理者アクセス権が必要です。

機能のアクティブ化

1. メニューバー「" 表示 "」から、メニュー項目 " カスタマイズ " を選択します。
2. 「" プラグインマネージャ "」タブを選択します。
3. 「" プラグインマネージャ "」ボタンを押します。

⇘ 必要とされる管理者権限がある場合は、「" プラグインマネージャ "」ダイアログが表示されます。そうでない場合は、権限管理ダイアログが表示されます（この場合は、システム管理者にお問合せください）。



操作

プラグインを登録すると、メニューコマンドが自動的に作成されます。

- メニューコマンドの作成時、フィルタプラグインとその他のタイプのプラグインは区別されます。フィルタプラグインは、メニューバーの**「" 分析 "」/「" フィルター "」/「" フィルタープラグイン "」**から使用できます。他のすべてのプラグインは、**「" エクストラ "」/「"Plugins"」**メニューバーから使用できます。

プラグインをインストールした現在のユーザーに対して、対応するボタンを持つ追加のツールバーを作成することもできます。

注記

「″ コマンド ″」タブと「″ ツールバー ″」タブは、プラグインを登録または削除すると、無効になります。これらのタブは「″ カスタマイズ ″」コンフィギュレーションウィンドウを開くと再び有効になります。

ダイアログボックス

新規プラグインの登録

注記

最初にプラグインセットアップを実行するか、または常に使用可能な状態になっているディスクにプラグインファイルをコピーします。CD やフロッピーディスクなどには登録しないでください。

1. 「" 追加 "」ボタンを押します。
   ↳ 「" プラグイン選択 "」ダイアログボックスが表示されます。
2. 選択リストボックス内で、プラグインをインストールしてある場所に進みます。
3. 必要なプラグインファイルを選択します。
4. 「" 開く "」ボタンを押します。
5. ダイアログボックスを閉じます。

↳ これで新しいプラグインが登録されました。

SIDEXIS XG ソフトウェアからのプラグインの削除

1. 削除するプラグインにマークを付けます。
2. 「" 削除 "」ボタンを押します。

↳ これでSIDEXIS XGソフトウェアからプラグインが削除されました。

非表示のプラグインの表示

➢ 「" 非表示プラグインを表示します。"」チェックボックスをオンにします。

↳ 非表示のプラグインが選択ボックスに表示されます。

7.3.4 オプション

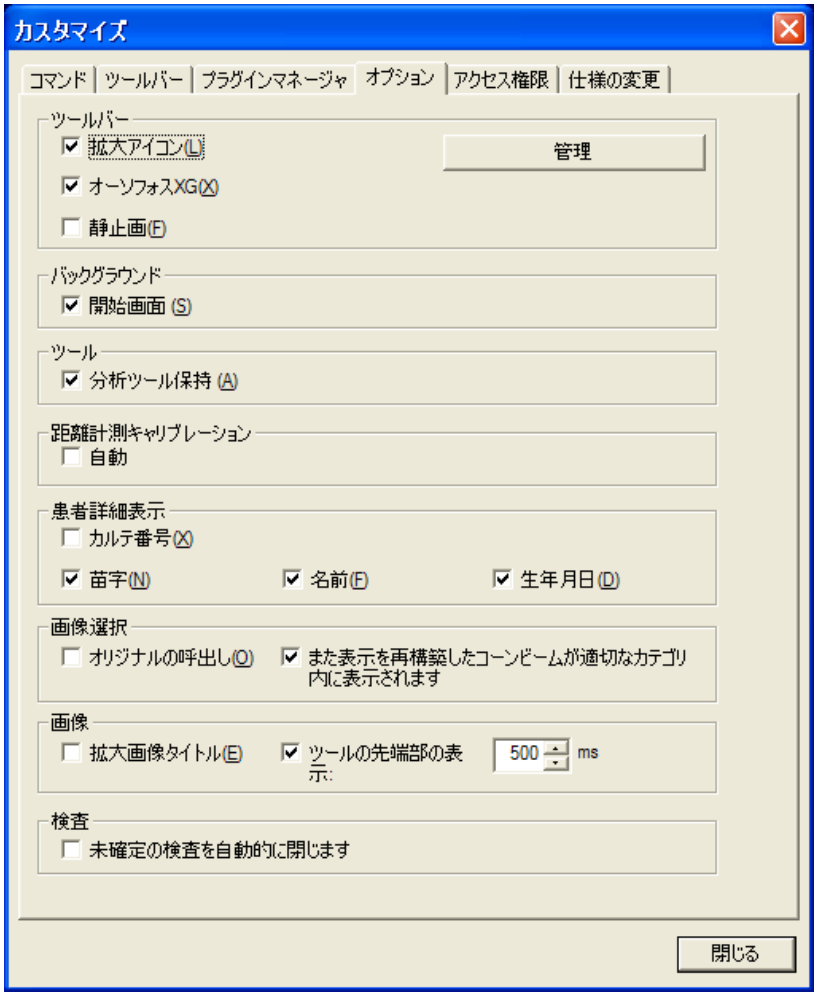
説明

" オプション " タブを使用して、SIDEXIS XG ユーザーインターフェイスの全体的な設定を行います。

機能のアクティブ化

1. " 表示 " メニューバーを使用して、メニュー項目 " カスタマイズ " を選択します。
2. " オプション " タブを選択します。

ダイアログボックス



設定

" オプション " タブは、以下の設定フィールドで構成されています。

設定グループボックス " ツールバー "

- " 拡大アイコン " チェックボックス
  このチェックボックスをオフにすると、SIDEXIS XG ユーザーインターフェイスボタンを小さくすることができます。
- "ORTHOPHOS XG" チェックボックス
  このチェックボックスをオフにすると、ORTHOPHOS XG のパノラマ撮影とセファロ撮影の新しい画像管理レイアウトが、よく知られている SIDEXIS Classic のレイアウトに変更されます。「ダイアログボックスのレイアウト [➔ 54]」の項を参照してください。
- " 静止画 " チェックボックス
  このチェックボックスをアクティブにすると、ツールバーがワークスペースの片側に固定されます。
- " 管理 " ボタン
  「ユーザーインターフェイスの管理」[➔ 191] の項を参照してください。

" バックグラウンド " **設定グループボックス**

- " 開始画面 " チェックボックス
  チェックボックスをオフにすると、開始ページの背景画像がオフになります。

" ツール " **設定グループボックス**

- " 分析ツール保持 " チェックボックス
  このチェックボックスをオフにすると、分析ツールを使用した後、マウスポインタを標準モードに戻すことができます。

" 距離計測キャリブレーション " **設定グループボックス**

- " 自動 " チェックボックス
  このチェックボックスをオンにすると、画像タイプが選択されるたびに適切な調整係数が自動的に選択されます。「距離計測の調整 [➔ 98]」の項を参照してください。

" 患者詳細表示 " **設定グループボックス**

- " カルテ番号 " チェックボックス
  このチェックボックスをオンにすると、カルテ番号が SIDEXIS XG プログラムのタイトルバー、印刷出力およびエクスポートファイルに表示されます。
- " 名前 " チェックボックス
  チェックボックスをオンにすると、姓名の「姓（苗字）」の部分が SIDEXIS XG プログラムのタイトルバー、印刷出力およびエクスポートファイルに表示されます。
- " 名前 " チェックボックス
  このチェックボックスをオンにすると、姓名の「名」の部分が SIDEXIS XG プログラムのタイトルバー、印刷出力およびエクスポートファイルに表示されます。

- " 生年月日 " チェックボックス
  このチェックボックスをオンにすると、生年月日が SIDEXIS XG プログラムのタイトルバー、印刷出力およびエクスポートファイルに表示されます。

" 画像選択 " **設定グループボックス**

- " オリジナルの呼出し (O)" チェックボックス
  このチェックボックスをオンにすると、画像をロードするときに、オリジナル画像がデフォルトで読み込まれます。
- " また表示を再構築したコーンビームが適切なカテゴリ内に表示されます " チェックボックス
  このチェックボックスをオンにすると、計算済みのコーンビームビューも適切なカテゴリで表示されます。

" 画像 " **設定グループボックス**

- " 拡大画像タイトル " チェックボックス
  このチェックボックスをアクティブにすると、画像タイトルバーが拡大して各種機能ボタンが含められます。
  機能 :
  - 画像を閉じる [➙ 65]
  - フルフレームモード [➙ 109]
  - 3D アプリケーション（GALAXIS）またはビューアが起動します（GALILEOS のドキュメントを参照）。
- " ツールの先端部の表示 :" チェックボックス
  このチェックボックスをオンにすると、" 画像の説明 " ダイアログボックスからのデータを含むツールのヒントが表示されます（「画像の説明と検査結果 [➙ 61]」の項を参照）。
  ツールのヒントは、マウスポインタを画像タイトルバーに置くとすぐに表示されます。
  ツールのヒントを表示する遅延時間（ms）は、右側の入力フィールドで設定できます。

" 検査 " **設定グループボックス**

- " 未確定の検査を自動的に閉じます " チェックボックス
  このオプションが選択されていない場合、複数の検査を同時に開くことができます。
  「複数の開いている検査の作業 [➙ 41]」の項を参照してください。

7.3.4.1 ユーザーインターフェイスの管理

説明

ツールバーの設定を管理できます。

ステーションのユーザーインターフェイスの設定は、他のステーションに転送できます。この設定は、ユーザー、システムまたは歯科医院全体に適用できます。

" ユーザー " **オプションボタン**

各ユーザーは、独自にユーザーインターフェイスを設定できます。

- " プログラム終了時にユーザーインターフェースを保存 " チェックボックス
  このチェックボックスをオンにすると、プログラムの終了時にユーザーインターフェイス設定が保存されます。

" ステーション " **オプションボタン**

各 PC のユーザーインターフェイスは固定されます。

" プラクティス " **オプションボタン**

単一のユーザーインターフェイスを SIDEXIS ネットワーク全体に適用できます。

操作

1. 必要なオプションを選択します（" ユーザー "、" ステーション "、または " プラクティス "）。
   ↳ ユーザーインターフェイスを保存および読み込むためのファイルパスは、それぞれの場合にユーザー情報として表示されます。
2. "OK" ボタンを押します。
   ↳ **選択したオプションが他のユーザーに影響する場合のみ：**問い合わせが表示されます。" はい " ボタンを押します。

↳ SIDEXIS XG が終了し、以前に表示されたパスを使用してユーザーインターフェイスが保存されます。

次回、SIDEXIS XG を起動すると、保存されているユーザーインターフェイスがもう一度表示されます。

- " プラクティス " オプションの場合のみ : 診療所内のすべての SIDEXIS XG ステーションが、保存されている同一のユーザーインターフェイスで起動します。

7.3.5 アクセス権

説明

「" アクセス権限 "」タブを使用してオプションのアクセス権を構成します。

米国のみ：この機能は HIPAA 法に対応しています。

注記

「オプション [➔ 188]」タブの「″ 患者詳細表示 ″」コンフィギュレーションフィールドも HIPAA 法に対応しています。

⚠ 注意

ユーザーは、HIIPAA 法に従いこの機能を使用し設定する必要があります。

機能のアクティブ化

1. メニューバー「" 表示 "」から、メニュー項目 " カスタマイズ " を選択します。
2. 「" アクセス権限 "」タブを選択します。

アクティブ化 / 非アクティブ化

この機能は「" アクセスの制限 "」チェックボックスによりオン / オフします。

コンフィグレーション

「" アクセス権限 "」タブ上でユーザーおよびユーザープロファイルの作成と管理を行うことができます。

注記

ユーザープロファイルはいわゆる「″ ロール ″」の型式で導入されます。

「" アクセス権限 "」タブは以下の 2 つの領域に分割されます。

- 「ユーザー」コンフィギュレーションフィールド [➔ 192])
- 「割り当てられたロール」コンフィギュレーションフィールド [➔ 193])

7.3.5.1 「ユーザー」コンフィギュレーションフィールド

説明

この領域は SIDEXIS XG のユーザーの管理に使用します。

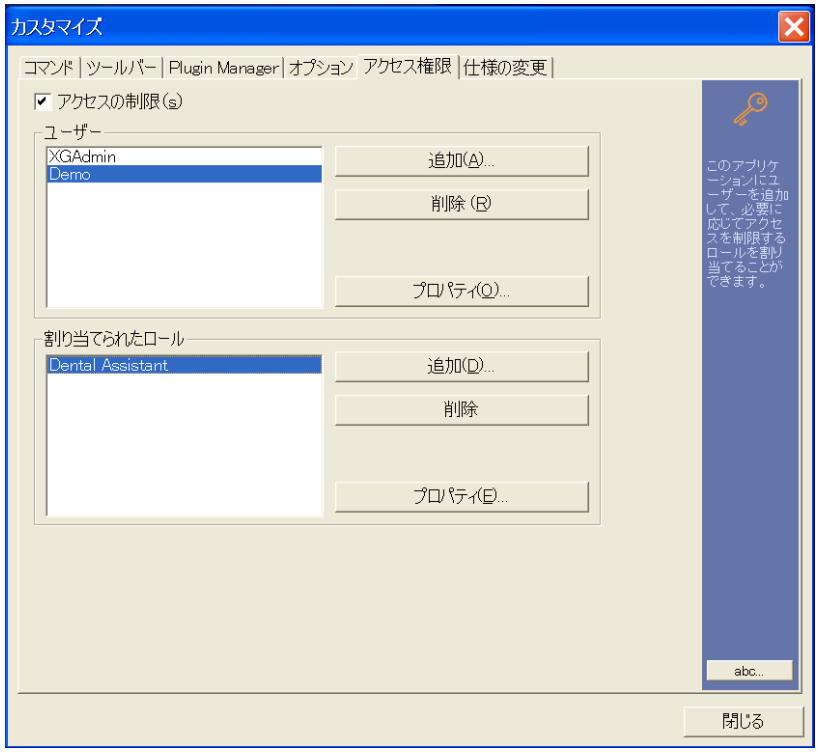
注記

現在のユーザーがリスト内であらかじめ選択されています。

設定

- 左の選択フィールド
  SIDEXIS XG データベースのすべてのユーザーにリストが選択可能な名前と一緒に含まれています。
- " 追加 " ボタン
  " 追加 " ボタンをクリックすると、「ユーザー [➔ 194]」ウィンドウが開きます。そこで新規ユーザーを作成することができます。
- " 削除 " ボタン
  " 削除 " ボタンをクリックすると、選択されているユーザーが削除されます。
- " 属性 " ボタン
  " 属性 " ボタンをクリックすると、選択されているユーザーの「ユーザー [➔ 194]」ウィンドウが開きます。

画面の例



7.3.5.2 「割り当てられたロール」コンフィギュレーションフィールド

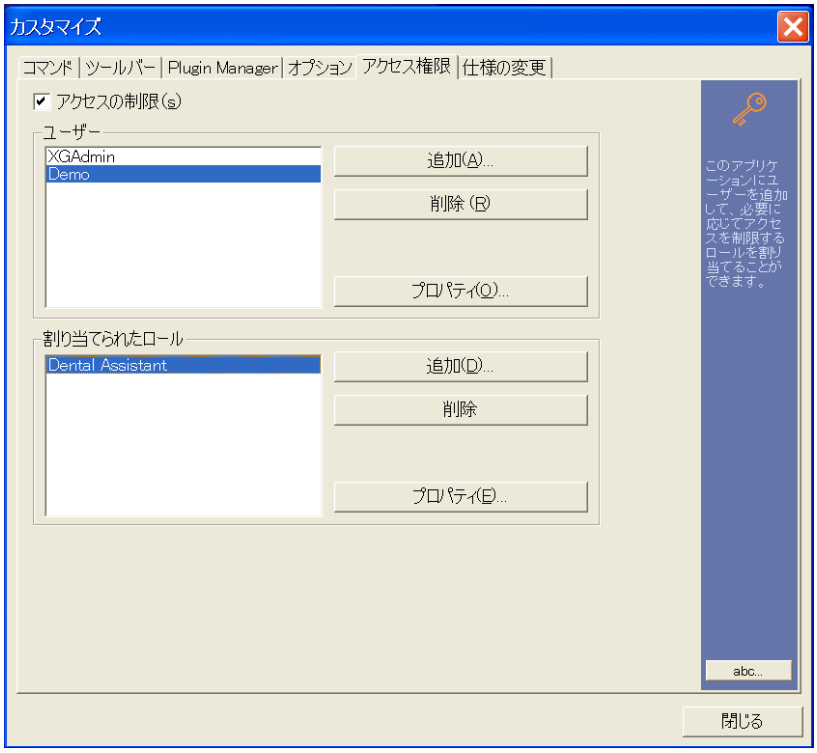
説明

この領域内で、選択されているユーザーのロールの表示と管理を行います。

設定

- " 追加 " ボタン
  " 追加 " ボタンをクリックすると、「ロール [➔ 195]」ウィンドウが開きます。そこで選択されているユーザーにロールを割り当てることができます。
- " 削除 " ボタン
  " 削除 " ボタンをクリックすると、上記で選択したユーザーに対して選択したロールの割り当てが解除されます。
- " 属性 " ボタン
  " 属性 " ボタンをクリックすると、「ロール属性 [➔ 196]」ウィンドウが開きます。そこでロールのコンフィギュレーションを行うことができます。

画面の例



7.3.5.3 「ユーザー」ウィンドウ

設定

- " ユーザー " テキストボックス内でユーザー名の指定と編集ができます。
- "Windows ログイン " チェックボックス
  SIDEXIS XG の始動時に、Windows ログインが使用されます。
  ユーザーは 2 度ログインする必要はありません。
  ユーザー名は Windows のログインに使用するログイン名と同一であることが必要です。
- " 次回ログイン時に新しいパスワードを求める " チェックボックス
  新しく作成または選択されたユーザーは、次回のログイン時に新しいパスワードの入力を促されます。

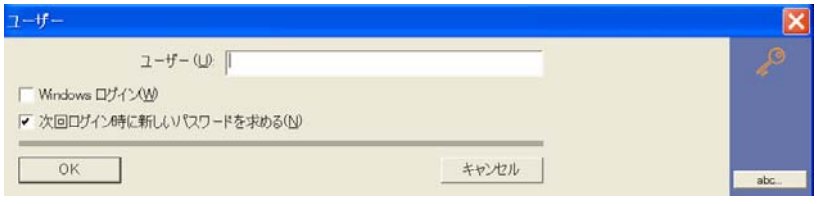
注記

ユーザーを簡単に切り替える方法

アプリケーションの実行中に、[Ctrl] + [Shift] + [U] キーを組み合わせて使用して、ユーザーを切り替えることができます。

これは、ログインしているユーザーに固定されている設定を変更するときに便利です。

画面の例



7.3.5.4 「ロール」ウィンドウ

設定

" ロール " 設定グループボックス

- 利用可能なロールがテキストボックスに表示されます。
- " 追加 " ボタンをクリックすると、「ロール属性 [➔ 196]」ウィンドウが開きます。このウィンドウで、新しいロールを作成、設定することができます。
- " 削除 " ボタンをクリックすると、選択中のロールが削除されます。ロールが他のユーザーに割り当てられている場合、その割り当ても削除されます。
- " 属性 " ボタンをクリックすると、「ロール属性 [➔ 196]」ウィンドウが開きます。選択されているロールの操作範囲が表示されます。

" 許可された操作 " 設定グループボックス

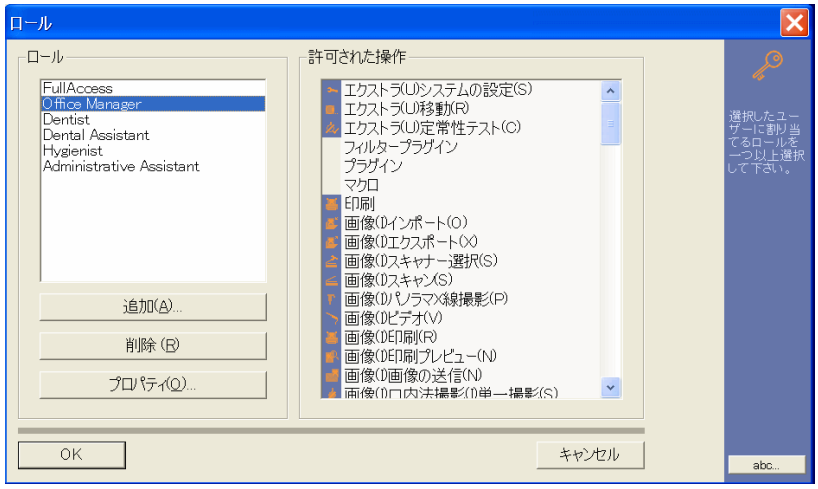
- 選択されたロールに許可されている操作が表示されます。

ロールの割り当て

1. 希望するロールを選択します。
2. "OK" ボタンを押します。

これで選択されているユーザーに選択したロールが割り当てられました。

画面の例



7.3.5.5 「ロール属性」ウィンドウ

説明

このウィンドウには、各ロールの操作範囲が表示されます。このダイアログボックスを使用してロールを設定します。

設定

- " 名前 " テキストボックスにはロールの名前が入っています。
  この名前はテキストボックスで編集することができます。
- " 許可しません " 選択フィールド
  ロールに割り当てられて**いない**機能がすべて表示されます。
- " 許可 " 選択フィールド
  ロールに割り当てられている機能がすべて表示されます。

設定

ピックリスト間での操作の移動

1. 希望する操作を選択します。
2. 該当する矢印ボタンをクリックします。

ピックリスト間での全操作の一括移動

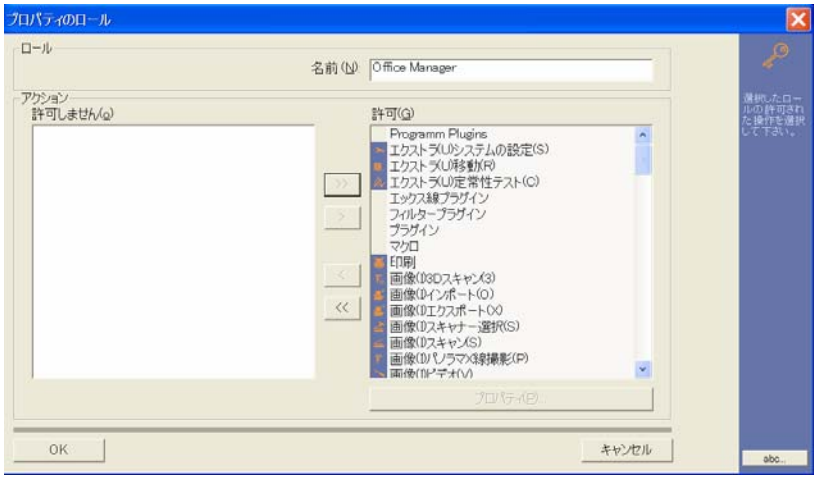
➢ 該当する矢印ボタンをダブルクリックします。

設定の保存

➢ "OK" ボタンを押します。

↳ これでロールが設定されました。

画面の例



7.3.6 カスタマイズ

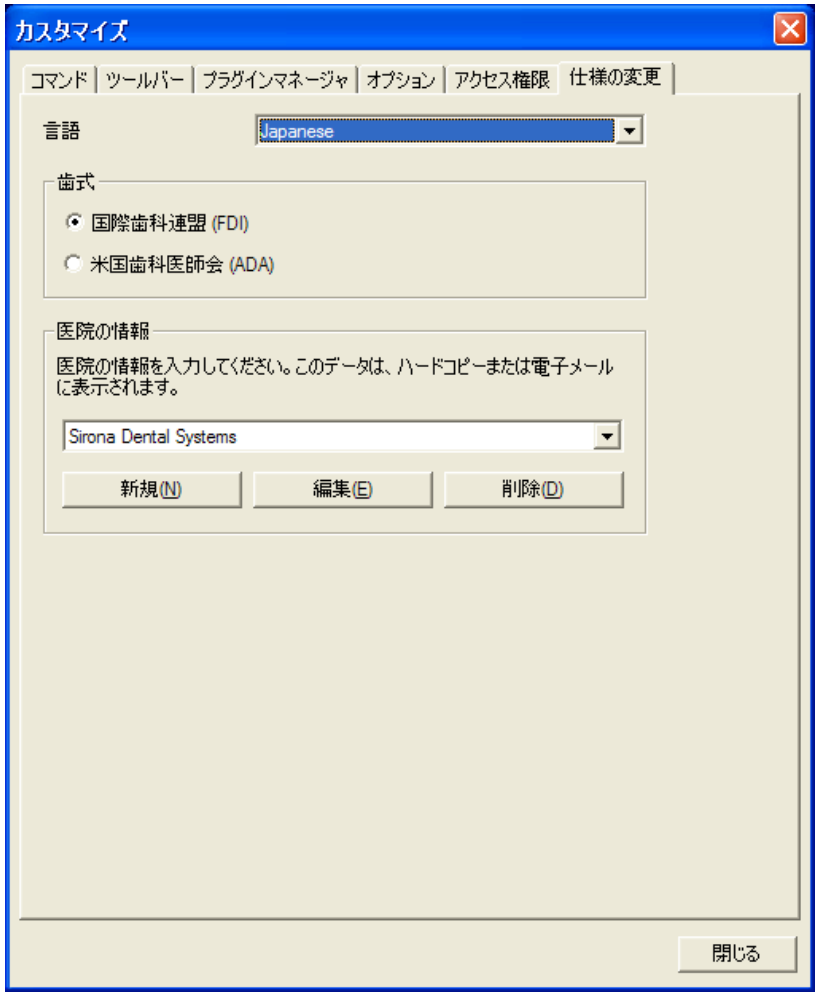
説明

使用する言語、歯牙番号、および医院の名称は、このタブカード上で変更することができます。

機能のアクティブ化

1. " 表示 " メニューバーを使用して、メニュー項目 " カスタマイズ " を選択します。
2. " 仕様の変更 " タブを選択します。

ダイアログボックス



設定

" 仕様の変更 " タブは、次の領域に分割されています。

- " 言語 " 選択フィールド
  SIDEXIS XG インターフェイスのダイアログ言語を変更できます。
- " 歯式 " 設定グループボックス
  歯牙番号を設定できます。
  - " 国際歯科連盟 (FDI)" オプションボタン（FDI World Dental Federation の歯牙番号）
  - オプションボタン " 米国歯科医師会 (ADA)"（American Dental Association?ADA? の歯牙番号）
- " 医院の名称 " 設定グループボックス
  1 つまたは複数の検査データを入力および選択できます。印刷または電子メールメッセージに他の情報とともに表示されます。1 つの検査から別の検査に切り替えるときは、必要な検査を選

択します。この操作を行うには、ログインしているすべての患者をログアウトする必要があります。
現在の患者が再びログインした場合、変更内容は印刷機能でのみ表示されます。

7.4 エラー処理

7.4.1 エラーメッセージ

説明

SIDEXIS ソフトウェアによって生成されたエラーメッセージは、複数のクラスに分けられます。

クラス

- 注意事項と手順 [➙ 198]
- 問い合わせと警告 [➙ 198]
- エラーメッセージ [➙ 198]

メッセージと手順

説明

通常、このクラスのメッセージは、ユーザーに通知する必要のある正常なソフトウェア状態を示します。対処方法についての情報は、メッセージ自体に含まれるか、本書に記載されています。

表示記号

通常、これらのメッセージは、次の記号で示されます。

問い合わせと警告

説明

プログラムの特定の時点で先に進む方法が複数ある場合、または広範囲な因果関係のある操作を確認する必要がある場合、システムは問い合わせや警告を発行します。先に進むための手順は、本書に記載されています。

問い合わせの識別

ほとんどの問い合わせは、次の記号で識別されます。

警告の識別

警告は、通常、以下の記号で識別されます。

エラーメッセージ

説明

3 番目、すなわち最後のクラスの SIDEXIS システムメッセージは、エラー状態を表示するために使用されます。

表示記号

通常、これらのメッセージは、メッセージのタイトル行に括弧で囲まれたエラー番号で示され、次の記号が付けられます。

注記

このメッセージの頻度や影響によっては、サービスエンジニアに問い合わせる必要があります。

以降のページに SIDEXIS XG が生成するエラーメッセージの一覧を示します。この一覧には、問題を解決するための情報も記載されています。

「エラーメッセージの一覧 [➔ 199]」の項を参照してください。

7.4.2 エラーメッセージの一覧

説明

この一覧では SIDEXIS XG が生成するエラーメッセージのいくつかを説明します。

問題解決方法についても説明します。

注記

ここに記載されている方法では期待した結果が得られない、またはエラーが一覧に含まれていない場合は、ホットラインにご連絡ください。

エラー一覧

1500	各ステーションで、SIDEXIS を 1 回しか起動できません。作業中はソフトウェアの 1 インスタンスに制限してください。
1501	SIDEXIS の起動時に作業メモリ（RAM）の容量が不足している可能性があります。可能であれば、他のプログラムを終了してください。
1502	SIDEXIS の起動時に作業メモリ（RAM）の容量が不足している可能性があります。可能であれば、他のプログラムを終了します。ホットキーを使用しないで作業を続行できる可能性もあります。
1530	PC、SIROCAM、およびフットスイッチの接続、ケーブル、およびコネクタを確認してください。カメラおよびフットスイッチを使用しないで作業を続行できる可能性もあります。
1599	PC を再起動してください。エラーが繰り返し発生する場合は、ホットラインにご連絡ください。
1600	作業メモリー（RAM）が不足しています。可能であれば、不要な画像を閉じるか、他のプログラムを終了してください。
1601	1600 を参照してください。

1602	内部エラーです。予期しないデータがソフトウェアで検出されました。操作を継続することはお勧めできません。 エラー、およびその時の操作詳細を Sirona Dental Systems にご連絡ください。 エラーの発生を再現することができる場合は、データベースに生じる可能性がある損傷を防ぐために、エラーの原因になっている操作は今後行わないでください。
1603	作業メモリー（RAM）が不足している可能性があります。可能であれば、不要な画像を閉じるか、他のプログラムを終了してください。
1604	1603 を参照してください。
1605	データベースドライブにディスクの空き容量がありません。データを移動して、ディスク容量を解放してください。
1607	選択した ROI が小さすぎます。広い領域を選択してください。
1610	現在登録されている患者に保存できる撮影画像の最大数に達しました。この患者の新しい画像を保存するには、既存の画像をいくつか削除する必要があります。または、この患者にデータレコードを新規作成することもできます（「新患」）。その場合、番号などを追加して、既存の患者名とは異なる患者名にする必要があります。保存できる撮影画像数が非常に多いため、このエラーが発生する可能性はほとんどありません。
1611	同時に表示できる画像数には制限があります。不要な画像を閉じてください。
1640	接続されているプリンタの１つで印刷を開始できません。ハードウェアを確認してください。該当するプリンタの電源は入っていますか。正しいケーブルとソケットで PC に接続されていますか。用紙が挿入されていますか。
1650	要求されたビューは完全に復元できません。そのため、表示されるビューは保存されているビューとは異なる場合があります。画像処理機能を使用して、必要なステータスを復元できます。表示されたビューでは作業を継続できない場合、オリジナルビューに戻ることが必要です。
1660	新しい画像をデータベースに保存できませんでした。ただし、画像が失われないように、エキスポートコマンドを使用してフロッピーディスクなどに保存できます。問題の解決後、エクスポートした画像を再度インポートし、該当する患者に割り当ててください。
1700	データベースアクセスに問題が発生しました。データベースがサーバーまたは X 線 PC にインストールされている場合、これらのスイッチが入っていること、操作準備が完了していること、正しく設定されていること、ネットワーク接続およびケーブルに問題がないことを確認してください。
1701	1700 を参照してください。

1702	1700 を参照してください。
1703	1700 を参照してください。
1704	1700 を参照してください。
1705	1700 を参照してください。
1706	1700 を参照してください。
1708	1610 を参照してください。
1709	現在の画像のビューはこれ以上データベースに保存できません。この撮影のビューは最大数に達しました。この画像の新しいビューを保存するには、既存の画像をいくつか削除する必要があります。保存できるビューの数が非常に多いため、このエラーが発生する可能性はほとんどありません。
1715	1605 を参照してください。
1716	指定された患者は、すでにシステムに登録されています。このエラーには、2 つの原因が考えられます。ほとんどの場合、患者はネットワーク内の別のステーションで登録されています。1 つのステーションで 1 度に処理できる患者は 1 人であるため、この患者を登録するには、他のステーションで患者がチェックアウトするのを待つ必要があります。これは正常なシステム状態です。患者がネットワーク上のどのステーションでも登録されていない場合（すべてのステーションを十分に確認してください）、この患者を SIDEXIS で「有効」にして、「ユーティリティ」、「マルチステーション機能」、「ネットワーク登録の管理」の各コマンドで処理することができます。このエラーは、初期ネットワーク障害または電源障害、あるいは患者の登録中に PC の電源を切ることによって発生する可能性があります。
1718	これ以上システムに患者を登録できません。システムに登録できる患者の最大数に到達しました。不要になった患者をログオフする必要があります。「間違っている」登録は、すべてのステーションを確認した後、「ユーティリティ」、「マルチステーション機能」、「ネットワーク登録の管理」の各コマンドを使用して削除することができます。
1719	指定した患者はシステムから削除されています。
1720	1719 を参照してください。
1721	指定した画像ビューは、すでに開いています。Window メニューに、開かれている画像の一覧が表示されています。
1722	1611 を参照してください。
1723	指定したビューはシステムから削除されています。別のビューに戻るか、オリジナルの画像に戻ってください。画像処理機能を使用して、必要なステータスを復元できます。
1724	1723 を参照してください。
1725	1700 を参照してください。
1726	1700 を参照してください。

1804	使用されているセンサーのインストールまたは再インストールが必要な可能性があります。
1806	センサーを接続するか、センサーのケーブルまたは接続を確認してください。
1807	センサーは正常に交換、または新しくインストールされました。これ以上の操作は必要ありません。
1811	1806 を参照してください。
1812	センサーをデフォルト値で初期化する必要があります。これは画質の低下を招く場合があります。このセンサー用のフロッピーディスク（センサー番号を参照）を使用してインストールを実行してください。
1814	1804 を参照してください。
1961	読み取りエラーが発生しました。
1962	TWAIN 設定のエラーです。必要に応じて、TWAIN コンポーネント（スキャナ、カメラなど）を再インストールしてください。
1963	-
1964	1962 を参照してください。
1965	1962 を参照してください。
1966	1962 を参照してください。
1967	1962 を参照してください。
1968	1962 を参照してください。
1969	1962 を参照してください。
1970	1962 を参照してください。
1971	クリップボードにアクセスできません。

7.4.3 レスキュープログラム（SiRescue.exe）

説明

予期しないネットワーク障害が発生した場合、X 線コンポーネントと SIDEXIS 間の画像転送に問題がある可能性があります。

この場合、システムはしばらくして（タイムアウト設定によります）接続を切断し、いわゆるレスキュー状態になります。画像は失われず、SiRescure レスキュープログラムにより復旧されるまで安全機構により X 線コンポーネントの RAM に記憶されます。回復されるまでウォールボックスを使用した撮影はできません。

⚠ 注意

X 線コンポーネントはレスキュー状態（センサー LED と準備完了 LED が高速点滅）の間は電源を切らないでください。

ボックスの電源が切られると、画像が失われ、次回電源が入った後で X 線コンポーネントは操作する準備が完了します。

⚠ 注意

GALILEOS 撮影には使用しないでください。

SiRescue プログラムは、GALILEOS での撮影では動作しません。

GALILEOS で撮影した画像の転送が正常に行われない場合は、SIRONA CONTROL ADMIN プラグインを使用して、問題を解決してください。GALILEOS の取扱説明書を参照してください。

推奨事項

- スタートメニューまたはデスクトップ上に「SiRescure」プログラムへのリンクを作成してください。
- レスキュー状態になったときに使用する手順を担当者に指示してください。

画像の取得

SiRescue プログラムには「対話型ウィザード」があり、直感的に使用できます。

1. ネットワークで接続された SIDEXIS コンピュータで、SiRescue.exe プログラムを起動します。このプログラムは、" スタート " - " すべてのプログラム " - "SIDEXIS" - "SIDEXIS Manager" から使用できます。
   - ↳ プログラムが起動すると、ようこそ画面が表示されます。
2. " 次へ " ボタンを押します。
   - ↳ プログラムは、レスキュー状態の X 線コンポーネントとの接続を確立しようとします。X 線コンポーネントが応答しない場合は、ネットワークを確認してください。
   - ↳ 正しく接続が確立されると、X 線コンポーネントの名前が表示されます。
3. " 次へ " ボタンを押します。
   - ↳ 画像が取得され、処理されます。
   - ↳ 患者の名前が表示され、取り込んだ画像の保存場所が提案されます。

注記

必要に応じてフォルダを変更します。ローカルのディレクトリを選択すると確実です。

4. 患者名、画像名、および保存場所を覚えておいてください。
5. " 次へ " ボタンを押します。必要に応じてフォルダを変更します。
   ↳ 画像が正常に保存されたことを示すメッセージが表示されます。
6. "Finish" ボタンを押します。

↳ これで、選択されたフォルダに画像が保存されました。
↳ プログラムは自動的に終了します。

⚠ 注意

SIDEXIS で画像を表示するには、画像をインポートして各患者に割り当てる必要があります。

画像のインポート

1. SIDEXIS XG を起動します。
2. 該当する患者を登録します。
3. 画像をインポートします。

↳ 画像が正常にインポートされると、SIDEXIS データベースに格納されるので、インポートに使用したフォルダから画像を削除できます。

7.4.4 サービスユーティリティ

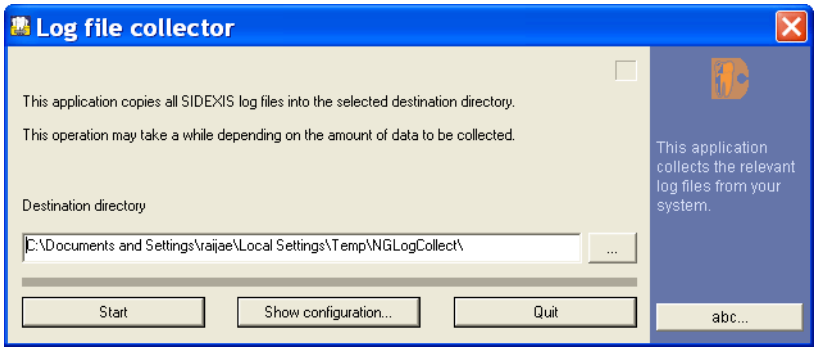
説明

この "NGLogCollect" ユーティリティは、シロナサービスホットラインで使用するエラー検出ファイルを作成します。

- このファイルには、SIDEXIS XG システムの設定と環境に関する情報が含まれています。

コマンド

1. "start"/"programs"/"SIDEXIS"/"SIDEXIS Manager" を選択し、アプリケーション "NGLogCollect" を起動します。
   ↳ "Log file collector" アプリケーションが開きます。



2. 必要に応じ、ファイルの対象パスを変更してください。
3. "Start" ボタンを押します。
   ↳ ファイル `NGLogCollect.tar.gz` が生成されます。

シロナサービスホットラインから要求があれば、このファイルを電子メールでお送りください。

索引

Symbole

??, 55
~~, 54
≫, 60, 141
移動された画像 , 60
印象採得装置
　選択 , 84
画像 , 80
画像タイプ , 24, 141
画像の日付 , 141
開く画像の数 , 81
角度 , 99, 100
角度の計測 , 99
角度の頂点 , 99
患者データベース , 44, 52, 80
検査結果ダイアログ , 83
誤って割り当てる , 60
光学印象採得装置
　疑問符 , 84
口腔外ビデオカメラ , 89
口腔内 X 線画像 , 81
撮影準備 , 80, 80, 81
撮影品質 , 142
使用上の注意 , 12
歯牙数 , 83
治療室 , 21
取得 , 142
準備ダイアログボックス , 87, 89
照射準備 , 80
整合性 , 80
静止画 , 90
接続 , 84
設定 , 159
説明 , 80
選択解除 , 59
全貌カメラ , 90
単一の口腔内撮影画像 , 81
単一選択 , 58
担当医 , 163
短い説明 , 141
定常性テスト , 142
点滅 , 86, 89
電子メールで連絡 , 26
登録 , 80
表示ステーション , 22
複数撮影 , 81, 83
複数選択 , 59
平方ピクセル , 99
別のプログラムに切り替え , 80
放射線 , 80
名前の変更 , 60
容量のメモリ , 113
緑のインジケータ , 86
緑色のインジケータ , 85, 88

Numerisch

16 bit, 147

A

Anode current, 150
AP, 56
area, 148
Automatic findings, 64

B

backup, 136
bone density
　bar length, 103
　spreading, 103

C

carpus exposures, 56

color, 139

Complaints, 64

Compressed form, 53

Compression, 64

compression ratio, 149

computer dealer, 139

configuration, 147

constancy test, 161

context menu, 23

D

Dentist responsible, 63

digitization, 91

Dose-area product, 63

E

email, 77

e-mail address, 77

email connection, 77

Error list, 199

Error messages, 198

F

findings, 55

Findings, 63, 148

foot switch, 91

Forehead support, 64

G

gamma function, 128

H

hard disk, 136

HIPAA, 192

histogram, 129

hotline, 199

I

image database, 66

Image date, 62

image description, 54

Image type, 62

image type code, 55, 56

instructions, 198

international odontogram

international odontogram, 55

J

JPEG, 149

L

lateral exposures, 56

Linear function, 129

M

memory, 136

Messages, 198

mixed dentition, 56

multi-workstation installation, 22

N

NGE, 34

NGE フォーマット

NGE フォーマット , 34

NGLogCollect, 204

Not diagnosable, 63

O

OP programs, 56

original images, 66

Ortho template, 42

P

PA, 56

PDATA_SQLEXPRESS, 179

pregnancy, 22

preselection, 55

profile, 103

program number, 56

Q

Questions, 198

Quick View, 63

R

radiation time, 64

RAM, 113

registration in the system, 49

relative density, 102

relocation, 137, 138, 139

retention period, 66

Retrieval, 63

retrieved, 55

S

Sex:, 22

Short description, 63

short description, 54

SIROCAM, 89, 90

SQL server, 179

Stand height, 64

still image, 91

Still video image, 91

Storage space required, 53

SVG, 34

SVG フォーマット

SVG フォーマット , 34

T

Temple support width, 64

Tooltip, 61, 190

tooth type, 148

Transfer

Transfer function, 128

TSA 撮影 , 86

Tube current, 64

Tube voltage, 64, 150

V

VI, 55

video image, 91

views

different views, 52

Views, 52

Saved views, 53

W

warnings, 198

windowing, 128

Windows clipboard, 103

write protection, 141

X

XC, 55

XI, 55

XP, 55

X-ray unit, 22

XS, 55

X 線撮影室 , 21

X 線撮影装置 , 142

い

インターネットブラウザ , 26

インポートした画像 , 99

う

ウォールボックス , 85

お
オーダー , 24
オリジナル画像 , 52
こ
コンテキストメニュー , 89
さ
サービスエンジニア , 142
サービスディスク , 14
サービスパスワード , 142
し
シロナのホームページ , 26
す
スタンドアロンインストール , 21
ステータスバー , 83, 100
せ
セファロ X 線 , 86
つ
ツールバー , 18
て
データセキュリティ , 80, 178
データ損失 , 178
データ転送 , 85
ね
ネットワーク , 21, 21
は
ハードディスク , 178
パノラマ X 線画像 , 86
ハンドモード , 105
ひ
ビデオ画像 , 44
ビデオ静止画像 , 90
ビュー
　オリジナルビュー , 52
ふ
フットスイッチ , 89, 90
フルフレーム
　フルフレームモード , 110
プレビュー , 141
ほ
ホットキー , 156
ま
マルチステーションインストール , 21
マルチタイマー , 18
ら
ライブビデオ画像 , 90, 90, 90
ライブ画像 , 90, 90, 90
わ
ワークステーション , 22

技術的改良のため仕様を変更することがあります。

医療機器製造販売承認番号	: 22000BZI00003000
販売名	: シデキシスデジタル X 線システム
一般的名称	: 歯科用デジタル式 X 線撮影センサ
分類	: 管理医療機器

製造販売業者及び選任製造販売業者	外国特例承認取得者及び外国製造業者
シロナデンタルシステムズ株式会社	Sirona Dental Systems GmbH
東京都中央区銀座 8-21-1　住友不動産汐留浜離宮ビル	（ドイツ連邦共和国）

© Sirona Dental Systems GmbH 2013
D 3407.208.01.14.22　07.2013
Sprache: japanisch
Ä.-Nr.: 117 561
Printed in Germany
Imprimé en Allemagne

Sirona Dental Systems GmbH

Fabrikstraße 31
64625 Bensheim
Germany
www.sirona.com

発注番号　**61 46 299 D 3407**